日本建築協會雜誌

大正八年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正八年五月廿五日第二種郵便物認可



第二輯　第五號

大正八年五月二十五日

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ決議ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ノ爲ニ必要ナル事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其責任ニ付會外ニ於テ責ニ任セザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利益ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ毀ツケスノ行爲アリ　假ニルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求ノ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ發表スルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

建築ニ關スル重要事項ノ報告

決議事項ノ實行促進

會誌ノ發刊

建築ニ關スル圖書ノ刊行

建築ニ關スル講演會ノ開催

建築ニ關スル展覽會ノ公開

建築ニ關スル視察

建築ニ關スル有志者ノ親睦會

理想的建築ノ計畫

其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ會費ヲ以上ヲ前後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六月期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立金及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產積立金及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年二月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



製圖と定規

建築と燈火とは製圖と定規に於けるが如し。

完全なる建築とは正確なる燈火を設計したるの謂なり。

大阪出張所

西區阿波堀通一丁目

電話新町〜長 六三〇 八八九 八九八

東京電氣株式會社

神奈川縣川崎町

D-192

日本建築協會雜誌 第貳輯 第五號

目次

□ 繪（堺大濱海水浴館（三色版）／大阪市の重要地點（一）（二）（三）（四）（五）（六））

△都市建築の改善と個人思想……會員……片岡安……一

△東京市大改造論（五）……會員……大島正德……二

△國家と個人……東京帝大法科大學助教授……村野藤吉……一八

△樣式の上にあれ！（上）……會員……岡田重次……二四

△公安より見たる都市計畫及都市計畫立法……商學士……武居高四郎……三〇

△街路鋪裝工事と市財政……（在米）工學士……赤司鷹一郎談……三五

△名士の住宅觀

□彼我の長所を利用して……文部省普通學務局長法學士……赤司鷹一郎談……三五

□今日の生活狀態に照して……貴族院議員法學博士……山脇玄談……三七

□和洋折衷とする方が……東京衛生試驗所長……柿澤信義述……三九

△都市と建築

□細民住宅に就いて……本會理事長……片岡安演……四一

□家屋に對する衛生上の要求……醫學博士　遠山椿吉　談……四五
□都市住宅政策……大阪市高級助役法學博士　關一　演……五〇
△北長柄の「ダークサイド」……會員　郊郵生……五七
△住宅問題の前途……會員　城南生……六七
△我邦現代の住宅を如何にすべき乎(上)……會員　小笠原鈞……七二
△京都古建築觀(九)……特別賛助員　伊藤清造……八九
△建築美と自然美の調和に就て……特別賛助員農學士　大屋靈城……八五
△臺灣營林局の事業に就て(五)……會員　谷民藏……七六
△「フロレンス」の誇り……會員　須藤まがね……九六
△「テームス」河(下)……會員　NT生……一〇〇
△時報……一〇四
△會報……一〇七
△編輯たより……一〇九

附錄

△現行伯林府建築條例(上)……一二頁

尾州檜及桧材ノ代用

臺灣檜特賣

乾燥挽立材
及原材

品質優等、安價ニシテ洋館雜作、日本家、並ニ建具、指物用、

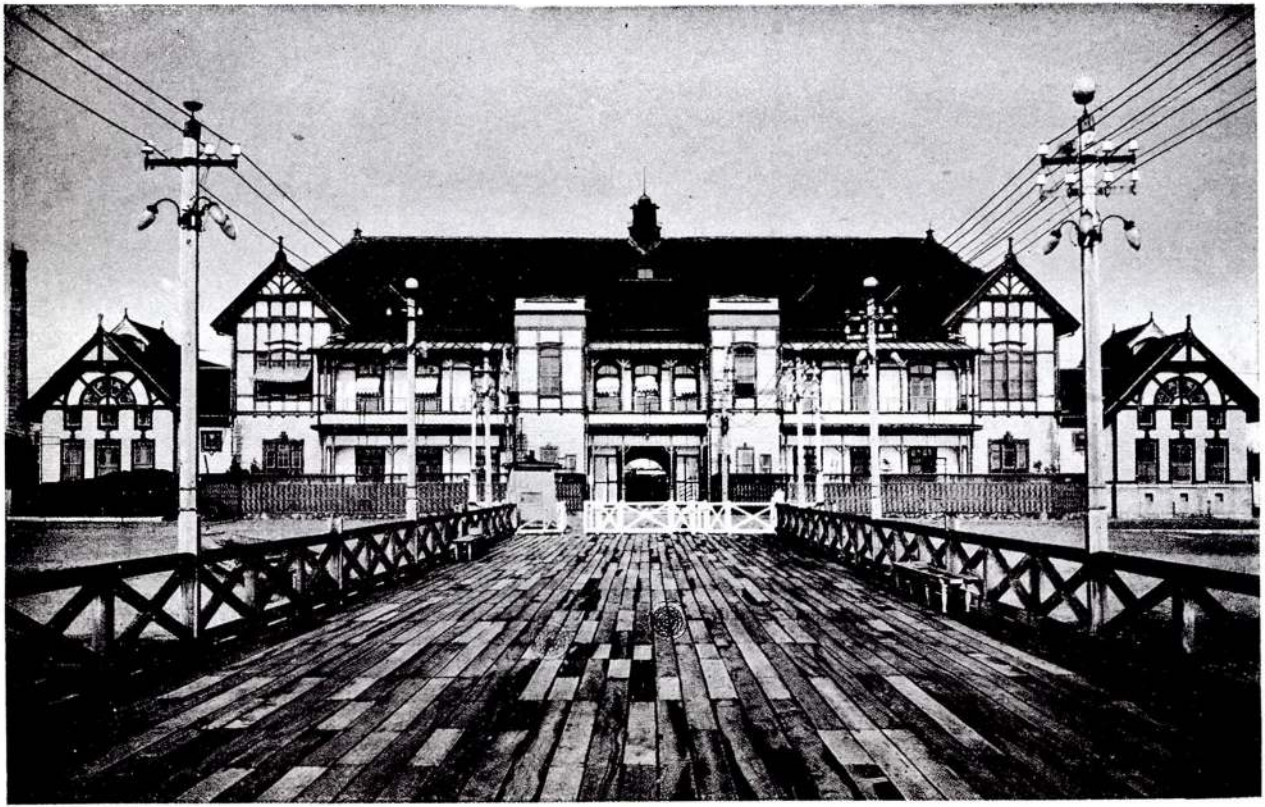
內地產建築材及米松各種

池谷

木材店
製材部

電話南一四九〇、西四〇三二

大阪市南區今宮町十三間川



大阪市教育研究所撮影

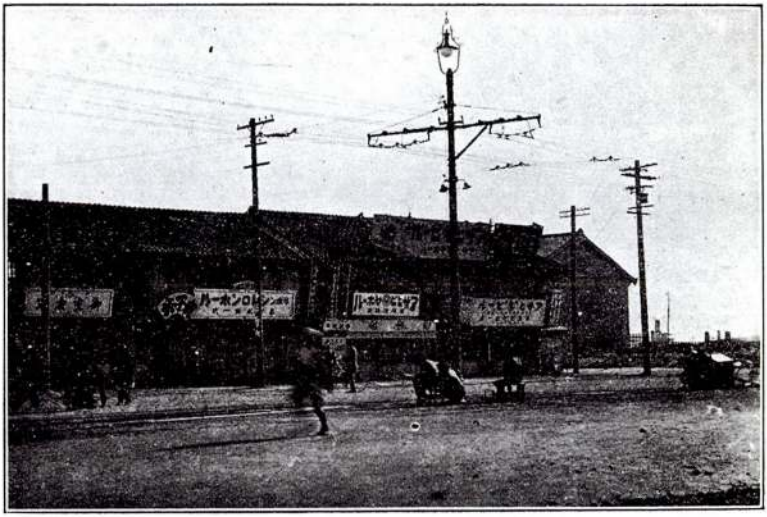
堺大濱海水浴館



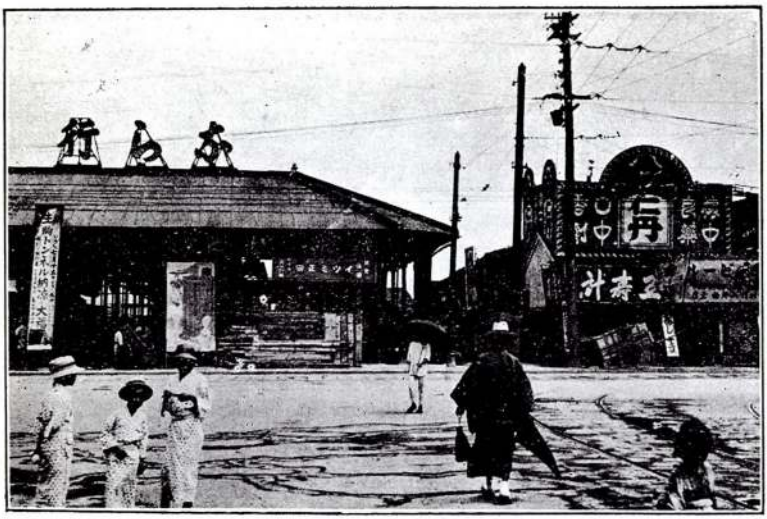
東區北濱難波橋南詰



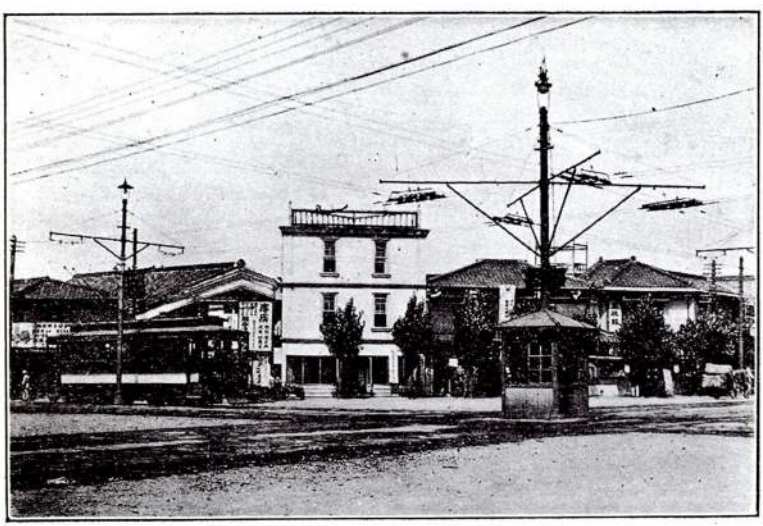
東區天滿橋南詰附近



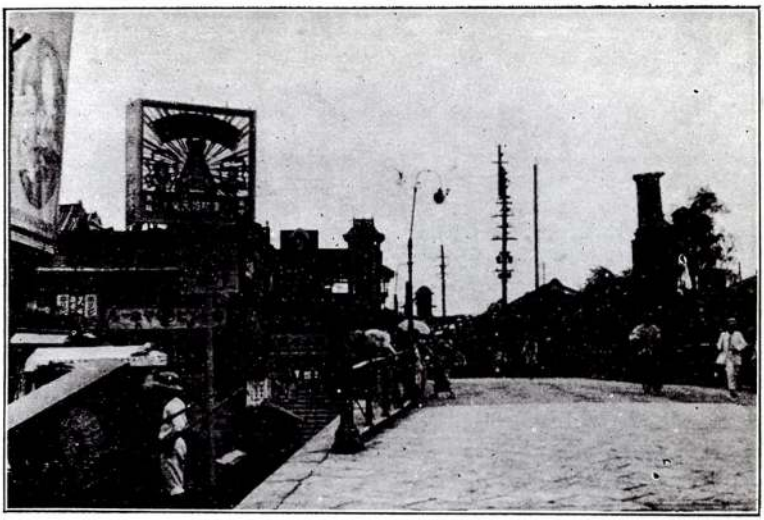
西區築港大通西端附近



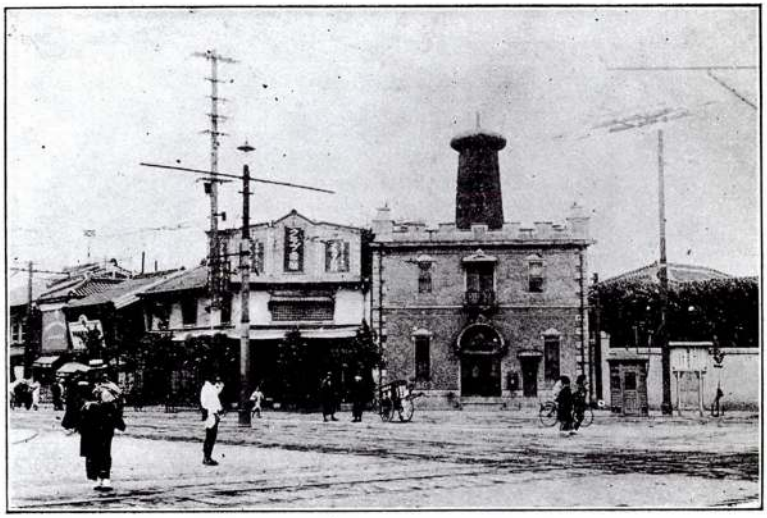
東區上本町六丁目附近



西區信濃橋附近



南區道頓堀戎橋附近

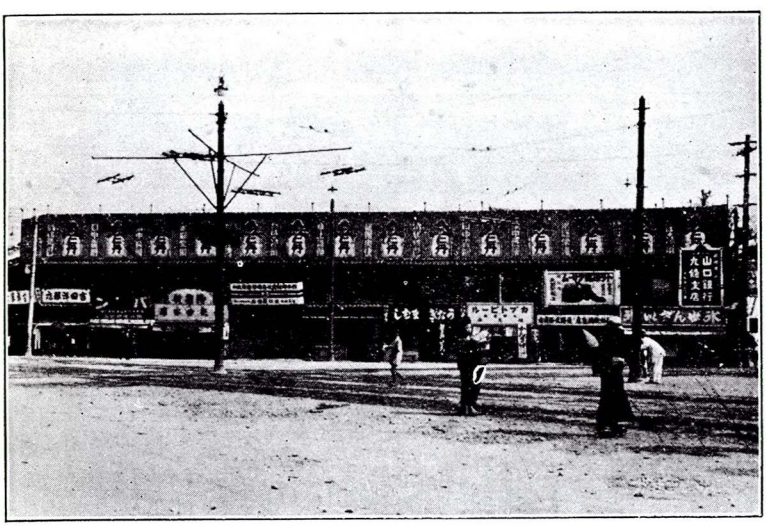


東區本町二丁目附近

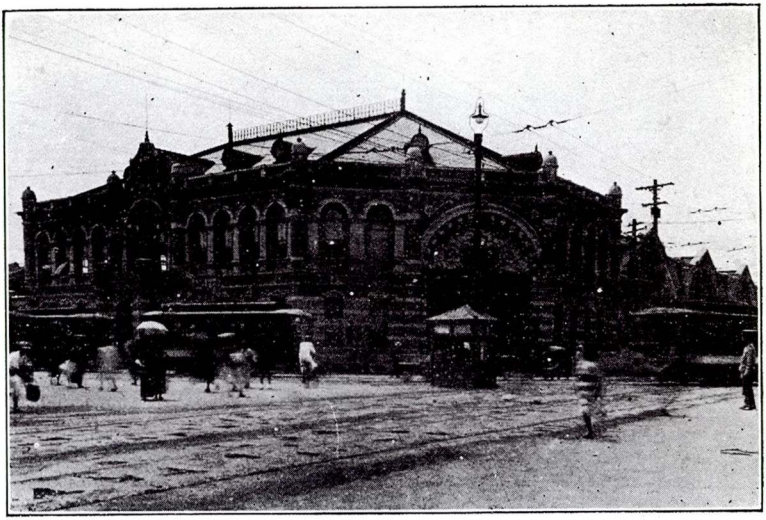
大阪市の重要地點（五）



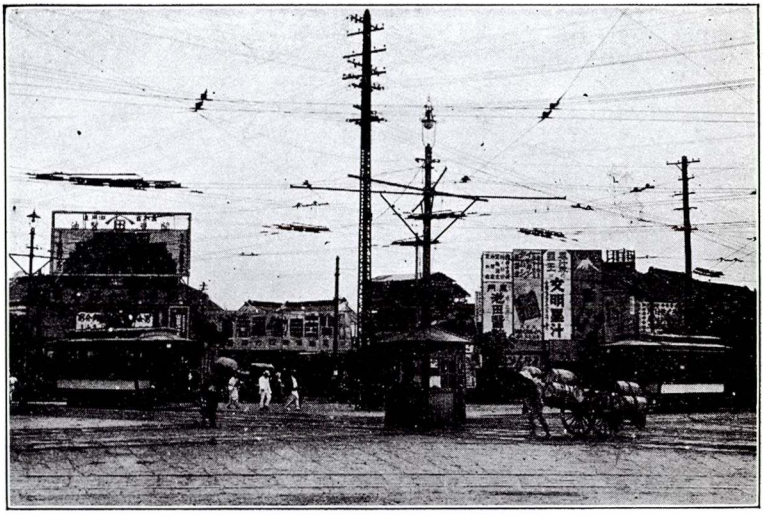
南區千日前附近



西區本田通二丁目附近



東區上本町二丁目附近



南區日本橋通一丁目附近



都市建築の改善と個人思想

我國の都市には改善すべきもの甚だ多し、就中、其最も重大にして困難なるものを家屋の改築となす。維新前にありては吾人は都市建築の改善すべき術を知らず徒らに天災地變の跳躍に翻弄されて其不運を蹄めたり然るに最近科學應用の進歩は殆んど確實に之を救濟し得るの域に達し、經濟活動の發達は亦其防備の堅實なるを要求して已まず、之れ我都市に於ける家屋改築の急要なる所以なりとす。維新以來我國大都市は其家屋の面目を漸次改善しつゝありと雖も、概ね表面的の修飾にして實質の改良に疎く、都市共同の發達を順調に導く事鮮きは遺憾なる事實也。今や都市改造の急要なる時機に際し尚且つ斯の趨勢の一新せざるは、主として誤れる極端なる個人思想の瀰蔓せるに起因するものならん。公共的犧牲の精神と悖戻する利己主義的個人思想にのみ拘泥する時は我國都市の眞實の改善は竟に期待すべからざるにあらずや、吾人は我都市民の猛省一番大に公共的精神を發揮せんことを切望せざるを得ず



東京市大改造論（五）

會員　片岡安

一　總說
二　交通狀態より見たる計畫
三　衛生及風紀論
四　經濟上の觀察
五　都市美觀

二、交通狀態より見たる計畫　（其四）

〔ホ〕市內交通機關

大都市が內容設備として根本的に計畫すべき事項は、其外延的交通機關と街路系統とであることは前章に於て述べた通りである。而して其二者を連絡調協し、都市民の活動を圓滑敏活ならしむるものを市內交通機關の任務とする。殊に都市の發展に連れ、又人口の增大と地域の擴大と共に益々

其任務の重さを增すことは文明國都市の著しき特徴となつて來たのである。之を常識的に考へても當然の約束であると見られるけれども、之を實際的に攻究する時は、到底常識的に考へたような緩漫なるものではないのである。而して急速にその必要の度を高める割合は過去十數年間の經驗によれば、人口增加の率よりも數倍であつて、地域の擴大と都市民の活動量の增加とにより殆んど幾何學級數率に進むように見へるのである。左に揭ぐる倫敦の交通協會の發表せる統計や、紐育市內高速交通會社の報告は其の著しき傾向を示す實例である。

一九〇三年より一九一三年までの間に倫敦の人口は百分の九を增加したに過ぎざるに、地下鐵道乘客は五割以上を增し、路面軌道の乘客は十割以上、乘合自働車の乘客は九割以上を增加し、全体を通じて之を通算すれば約六割八分の增加であつた。其一九一三年度の乘客數は約二十三億七千萬人にして內譯は左の如し。

鐵道に便る者	八二七、二一〇、五〇九……約三割五分
電氣軌道に便る者	八一一、三九七、三一七……三割四分
乘合自働車に便る者	七三三、九三一、二〇一……三割一分
合計	二三七二、五三九、〇二七

之を倫敦の人口八百四十七萬一千百四十六人に割り當つれば市民一人に付一ケ年二百八十回の乘車となる。

紐育市に於ては一九〇六年度の市內交通機關乘客は八億三千六百六十萬人强なりしものが、一九

一六年度には約四割を增して十二億一百萬人强に激增したのである、其內譯は左の如きものである

年次	乘客總數	路面軌道乘客	高架鐵道乘客	地下鐵道乘客
一九〇六	八三六、六六一、二〇六人	四四〇、九四四、八二〇人	二五七、七九六、七五四人	一三七、九一九、六三二人
一九一六	一、二〇一、〇六七、七〇九	五一七、三一五、五九五	三一二、三四六、七五六	三七一、五〇五、三一八

若し之を我東京市に於て見る時は其絶對數の少量なること到底比較し得ざる程のものであるけれども漸次增加の急速なる統計を示しつゝあるを知らねばならぬ。（市營路面軌道乘客數）

年次	乘客數	乘客一日平均數
明治四十四年	二〇三、三三七、五七六人	五五六、二六七人
大正元年	二二一、六九四、九九四	六〇七、三八四
仝二年	二四〇、八〇三、七一三	六五九、七三六
仝三年	二五八、四一六、五四〇	七〇七、九九一
仝四年	二五六、四六七、六七〇	七〇二、六五一
仝五年	二六二、〇九九、六七三	七一八、〇八一
仝六年	二八六、三八九、一四二	七八四、六二七

即ち大正六年までの七年間に於て八千三百萬人を增したのであつて約四割弱の增加比である。若し大正八年度の豫想をなし得るものとすれば或は三億五千萬人に近き數字を考へ得るのであるから之を明治四十四年度の二億三百萬人に比すれば正さに七割の增加であつて、倫敦の一九〇三年より一九一三年までの增加と全く同じき比例を示すのである。

各國の大都市がその市內交通機關の增設と改善に就きて今日まで嘗め來りし苦き徑路に稽へ、我

東京市の現在の交通狀態と其限りなき發展膨脹を見る時は、何人と雖も何等かの積極計畫の緊急なるを考へざることはなかろふと思はれる。唯之を直覺的に又常識的に考ふる時は其計畫の必要がそれ程緊急に迫つて居るかどうかを看取し得ないのである、故に吾人は其狀態を何處までも明瞭にして我東京市の市內交通機關大改善の急要を叫ばねばならぬのである。

都市の地域が擴大さるゝに從ひ、市內交通機關の普及と其速力增進を必要とするは當然であつて人口の增加と經濟活動力の發展は又其內容の益整備せんことを要求するのは自然の順序である。斯の意味に於て我東京市の將來を考ふる時は、現在の如き貧弱なる路面軌道の少量を以てしては、其激增せんとする交通乘客の處理は全く不可能の狀態に達するは當然の運命であらねばならぬ。現在の東京市營電車は其延長僅かに八十二哩强(軌道延長百六十五哩餘)に過ぎず、一日平均一千輛(內三分の二は四輪車にして三分の一をボギー車とす)を運轉して平均一日の走行哩十二萬哩內外を算するのみである。近來三十哩弱の新線の敷設をなすべき準備中であるけれども、其線路が出來上ればとて其運輸力の增加は大したものではないのである。我東京市と人口に於て稍等しき市俄古が路面電車の六百六十六哩を有し、伯林が其れの三百七十二哩を有するに比するも其不備は想像出來るのである。而して現在一日十二萬哩の走行車輛が百萬人內外の乘客を運びつゝある狀態は之を數字的に論及するまでもなく、實際に於て窮極の困難に行詰まり居ることを見るのである。故に將來に漸次增加せんとする乘客の處理を考ふるならば、軌道の延長と普及を計畫するより外に何等の方法なきを知らねばならぬのである。

然らば路面軌道の延長と其普及は如何なる方法によるべきやと言ふに、其處に種々の困難なる問題が伴ふのであつて、唯單純に其計畫をのみ立案する譯にはゆかないのである。即ち路面軌道の敷設には適當なる幅員の街路系統を要するのであるから、從來軌道を有せざりし街路に向つて、運輸上必要なればとて直ちにそれに軌道を布くことは出來ないのと、もう一つは路面軌道の延長と相應して高速交通線路の設備が緊急の條件となつて來ることである。斯二箇の條件は我東京市の電車改善の根本義となるべきものである。而して高速交通線路の計畫は事甚だ困難にして、從來未だ深く之を研究したものさへなかつたのであるが、近來急に六箇の出願者が現はれたと言ふことである。吾人は其一二のものゝ設計の梗概を見たいけで、其凡ての出願の内容を十分に知悉せざるものなれども、傳ふる處によれば其孰もが我東京市の遠き將來までも考へたる遠大の計畫ならざるやに聞き及ぶのである。責任の位地にあるものは宜しく大局を達觀して其許否を愆らざらんことに深く注意すべきである。

之を概括的に論ずれば、我大東京市の永遠的街路系統の確立せざる際に高速交通機關の計畫は事實上不可能と言はねばならぬ、若し路面軌道のみならば、將來支障を生ぜば其軌道を取除くも、さして苦痛を感ずるものではないけれども、高速交通機關たる地下鐵道又は高架鐵道は其建設の困難にして工費の莫大なるものなるを考ふれば、そう容易く之を移動又は徹廢し得べきにあらず、全く永遠的の利用を基礎として立案するを要するのである。故に吾人は已に急要に迫れる東京市の高速交通線路計畫の前提として街路系統の確立を急がねばならぬことを主張するものである。

高速交通機關　は原則として高架軌道か然らざれば地下線に據るべきものである。現に品川より萬世橋に至るまでの院線電車は高架軌道の實例であるが、地下線は未だ我國には一つも實例を有たないのである。然らば我東京市が今後採るべき高速交通線路は高架式によるべきや將た地下線となすべきかと言ふに、下町方面は凡て高架式となし、山の手方面は地下線となすを最も適當なる方法とする。高架式の欠點は其轟々たる囂音の爲めに市民の安靜を害し、業務上にさへ支障を生ずる虞があるのと同時に都市美觀上甚しき不調和を招徠することである。其の欠點を避けるには地下線を採用せねばならぬけれども、下町方面の地質軟弱にして湧水の夥しき場所にては、工事の困難は容易ならぬものあるべく、隨つて工費を要すること莫大にして、恐らく高架式の倍額以上にも達するであらふと思はれる。殊に地震の被害に對しても下町方面の地下隧道は甚しき危險を感ずるであらふし、又運河筋を横斷するには可なり深き地底を通過せねばならぬから其困難は益加はる一方である。山の手方面に於ては、若し街路系統の中央に設けらるゝ地下線路ならば、其建設も甚だ容易にして高架線の建設と大した差なくて出來るのである。或論者は歐米都市の從來の高架線が餘りに不愉快なものであるゆへに、なるべく我東京市の中樞區域には之を採用せざらしめんと主張するけれども、そは餘りに大局を稽へざる議論である。幅員二十五六間の街路の中央に注意深き構造を以てせる高架線は、必ずしも不愉快のものではないのであつて、其音響の如きも路面電車と大差なく之を輕減し得る方法は考へられ得るのである、近時紐育のクキンス區の廣小路に採用せるもの〻如きは其一例である。

高速交通線路の集中する點は之を本論主張の新東京停車場となし。凡ての系統を此處に連絡せしめる。而して現在の鐵道院經營の山の手線及中央本線の電車線路を凡て斯の系統内に屬せしめ、新に放射線狀の線路を附加し、外濠の院線が四谷より南へ廻りて新東京驛に達する輪狀線路を、凡ての運轉の基礎とする。而して我大東京市が其區域を擴大するに從ひ放射線狀の高速交通機關をそれぞれの方向に延長するの準備を有たねばならぬのである。吾人の將來採らんとする高速電車の線路は凡そ圖面に表はされたるものを以て緊急の系統とする。其延長約五十八哩餘にして內己に鐵道院にて建設せるもの二十六哩餘を除けば僅かに三十二哩に過ぎぬのであるが　其建設費は可なり巨額に達するであろふと思はれる。中に就て街路擴築の費用を如何なる程度まで電車建設費として取扱ふべきやは實際上の大なる問題である。若し幅員二十五間の新なる街路を新設するものとすれば、其一哩の地積約三萬二千坪の內二分の一を其負擔とし、一坪の價格百五十圓家屋移轉費五十圓合計二百圓とすれば、一哩の費用は三百二十萬圓となる計算である。それに高架線の築造費を合算して五百萬圓を少しく超過するものと見ねばならぬ。又地下線の箇處に於ては土地の收用費の少額となるだけ工費を增すが故に大体に於て餘り大した差を生じないであろふと思はれる。今其建設費總額を算せんに其概算

新　線　三十二哩……此建設費一哩に付五百萬圓……小計一億六千萬圓

舊　線　二十六哩……此改修費一哩に付百萬圓……小計二千六百萬圓

計　一億八千六百萬圓

となる。或は此れ以上に上るものとも思はねばならぬが概略二億圓以内で濟まし得るであろふ。而して現在の院線電車線路は新設すべき高速電車系統と一系統組織となる爲めには可なり多くの改修及增築工事を要するは當然である。

我大東京市が其地域を漸次擴大するに從ひ各局部區域と中樞區域との連絡を敏活ならしむる爲めに、高速電車の急要なるは言ふまでもなきことながら、現在已に交通上の困難に到達して居る事實を見る時は、吾人は少くとも本論所述の系統に近き計畫を實施すべく努力せねばならぬのである。倫敦の一九一三年度のセンサスに見ても其交通乘客二十三億七千萬人の內高速電車に便るものは其三割五分即ち八億二千七百萬人にして路面軌道によるものは八億一千萬人であり、又一九一六年度の紐育市內乘客十二億人の內、高架及地下鐵道乘客は六億八千萬人にして路面軌道乘客は五億一千七百萬人である事實に想ひ合せば、高速電車が如何に大都市の市民に利用せられて居るかを知り得るのである。殊に地域の廣大なる都市にては如何に路面軌道を延長增設したとて、眞實に市民の利便を增進し得ざる以上、高速軌道と路面軌道と相俟ち相並びて交通處理の目的を達するよう周密に其計畫を廻らさねばならぬのである。

歐米の大都市にては市內交通機關の運搬する乘客は現時に於ては大体市民一ケ年三百回內外にまで發展したけれども、其內半數以上は高速軌道又は乘合自働車に便り、路面軌道乘客は其半數以下である事實に之を見る時は、我東京市の路面軌道乘客は已に歐米都市のそれと殆んど相近き程度に達して居るのみならず、其設備と線路延長等に甚しき行詰まりを感せざるを得ないのである。例へ

ば紐育の如きは一千百五十哩の路面軌道により五億一千萬の乘客を運び、市俄古、伯林及巴里の諸都市が三億餘の路面軌道乘客を運ぶのに市俄古はその線路延長六百六十哩を有し、伯林は三百七十哩、巴里が三百五十哩を有するが如き事實は、孰も我東京市の現在の交通機關が益々困難に陷りつゝあるの運命を物語るものである。我東京市は現在已に三億餘の路面軌道乘客を運びつゝ今後益々激增せんとする傾向著しきものあるに想ひ到らば、何人も此際一大英斷を以て將來の大計畫を樹立すべきを悟らねばならぬ筈である。

吾人が主張する高速鐵道(高架及地下線路は其延長僅かに五十八哩に過ぎない、之を倫敦の二百五十三哩、紐育の三百十二哩、市俄古の百四十三哩、伯林の八十二哩及巴里の七十八哩等に比すれば、甚だ貧弱なる嫌はあるけれども、其運轉を巧妙に處理するならば必ずしも不充分なるものではない。若し將來地域の擴大に伴ひ人口の增殖に連れて、其必要の增す時は放射線路の延長と、更に輪狀の一大郊外線を布設するの覺悟を要する。而して高速電車の建設完備と共に徒歩者及自働車の甚しき增加に考へ、市中心地の街路及各方面の幹線街路の擴築は是非とも斷行せねばならぬのである。紐育のマンハッタン區の幹線街路は其幅員百呎に過ぎざるが爲め現時の交通混亂は言語に絶し殆んど窮極に達しつゝあると言ふ如き事實は凡て吾人に確實なる敎訓を與ふるのである。

路面軌道と乘合自働車　の問題は本論當初より數次之を論じたるが故に、此處に別に論ずるの要はないけれども、唯二三の要點に就きてのみ所見を述べて置きたい。我東京市は其市中心地の街路及一般幹線街路に於て路面軌道を布設する場合には原則として左の標準によることを方針とし、又

從來存在するものは漸次その方針に適合せしむるを要する。即ち街路幅員は歩道は左右少くとも二間半乃至三間、車道各四間以上而して中央軌道敷三間半、合せて最小限度十六間半（約百尺）を有たしめ、それ以下幅員を有する街路には路面軌道を布設せざることゝし、從來の如き一等道路第二類の幅員十五間は此際凡て十六間半以上に改正し、二等道路（幅十二間）三等道路（幅十間）に布設しある路面軌道は凡て撤廢するべく準備をなさねばならぬ。或は其街路の幅員を擴築するも可なれども現在の銀座日本橋通りの如きは其擴築困難なるものあるべきが故に、其軌道撤廢は近き將來に於て絶對急要の事に屬するは、現時の交通混亂の狀態を見るものには直ちに判斷し得られるのである。

今や我東京市の交通狀態は路面軌道と相並びて乘合自働車の必要なる時代に到達したのであつて已に其の運轉が開始されたけれども、路面軌道敷の左右に存在する處の甚だ窮屈な車道を運轉する爲めに、其危險なることゝ、運轉數を增大する餘裕なきとは到底其要求を滿足せしめ得ないのである。更に一般の自働車の通過の困難なることは已に其極に達して居るので今後如何にして其增加せんとする分量の交通を可能ならしむるやは、蓋し路幅擴大か又は軌道撤廢の二方法より外に之を見出し得ないのである。我東京市は今は僅かに七八千百臺の自働車を有するに過ぎずして最早其運轉難を感じて居るのである。若し亞米利加都市の如く人口二十人に一臺の自働車を有するに至らば、我東京市は其の人口三百萬に對する十五萬臺の自働車を如何にして取扱ふべきや、殆んど途方に暮れざるを得ない。

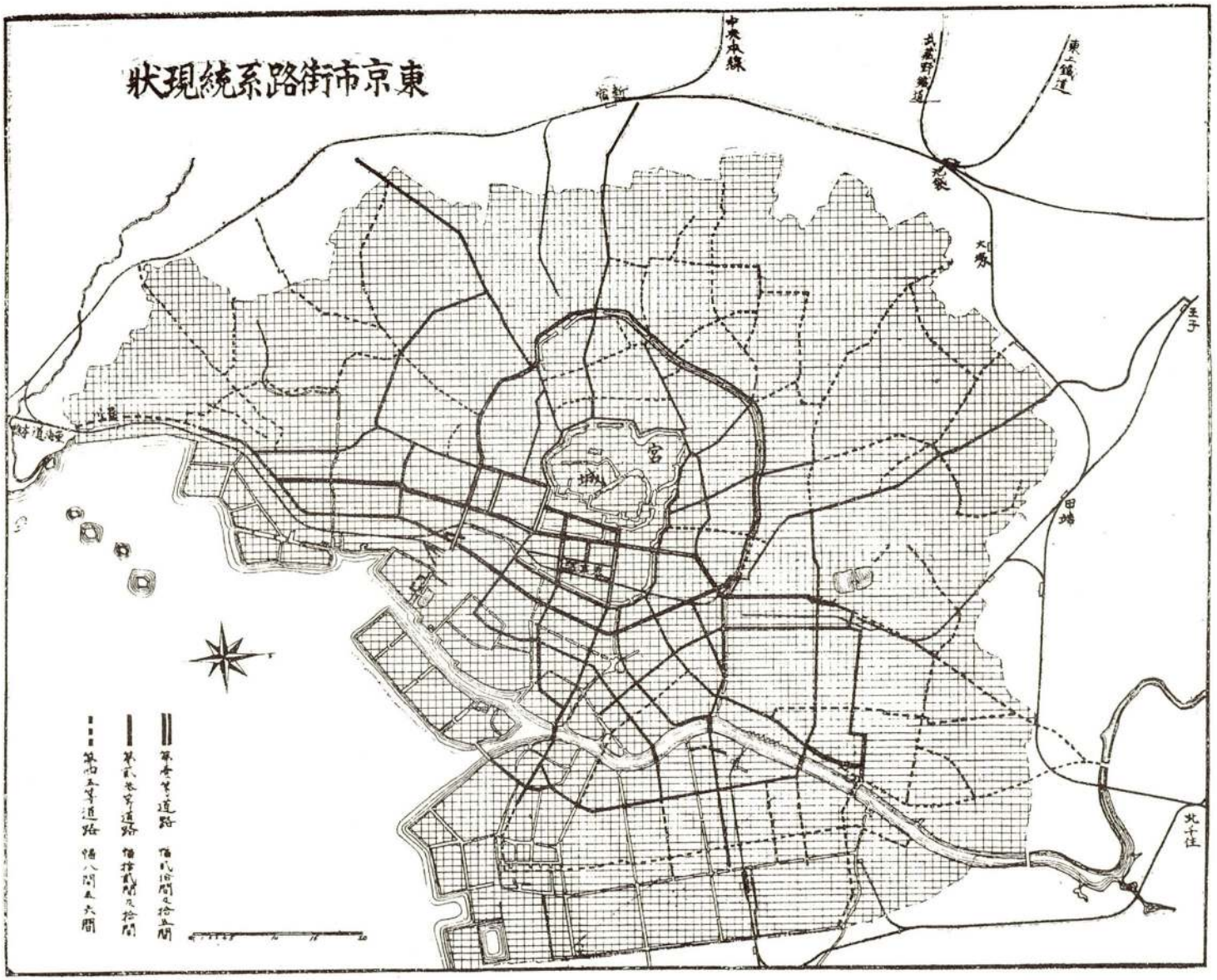
要之我東京市の交通機關改善と其增設の急要なるは上述の通りであつて、其關連するところは主

として其街路系統の大改良大擴築にあるを知らねばならぬ。近來米人サミユール、ヒル氏の來遊して我國の道路面の甚しき不備を難ずるや、朝野先覺の士は大に感ずるところあり、近來道路改良會なるものを組織し、先づ以て東京市内外の道路の改正と其路面の大改善とを標榜し、全國に亘りて大に活躍せんとする氣勢を揚げられたるは吾人の大に贊同するところである。けれども、そは吾人の主唱する交通計畫の一小部分であることを忘れてはならぬのである。交通狀態の改善即ち其設備を完全ならしむることは都市經濟生活の要素であるとは敢て此處に敷衍するまでもなき原則にして今更ら朝野の先覺者から説明を聞くの要はないのである。むしろ道路改良會の主唱者に向つて吾人の唱ふる交通改善の基礎的計畫を敷衍し、以て其改良の根本義から出發するを順序とすることを覺らしめたいのである。（「交通狀態より見たる計畫」の章了）

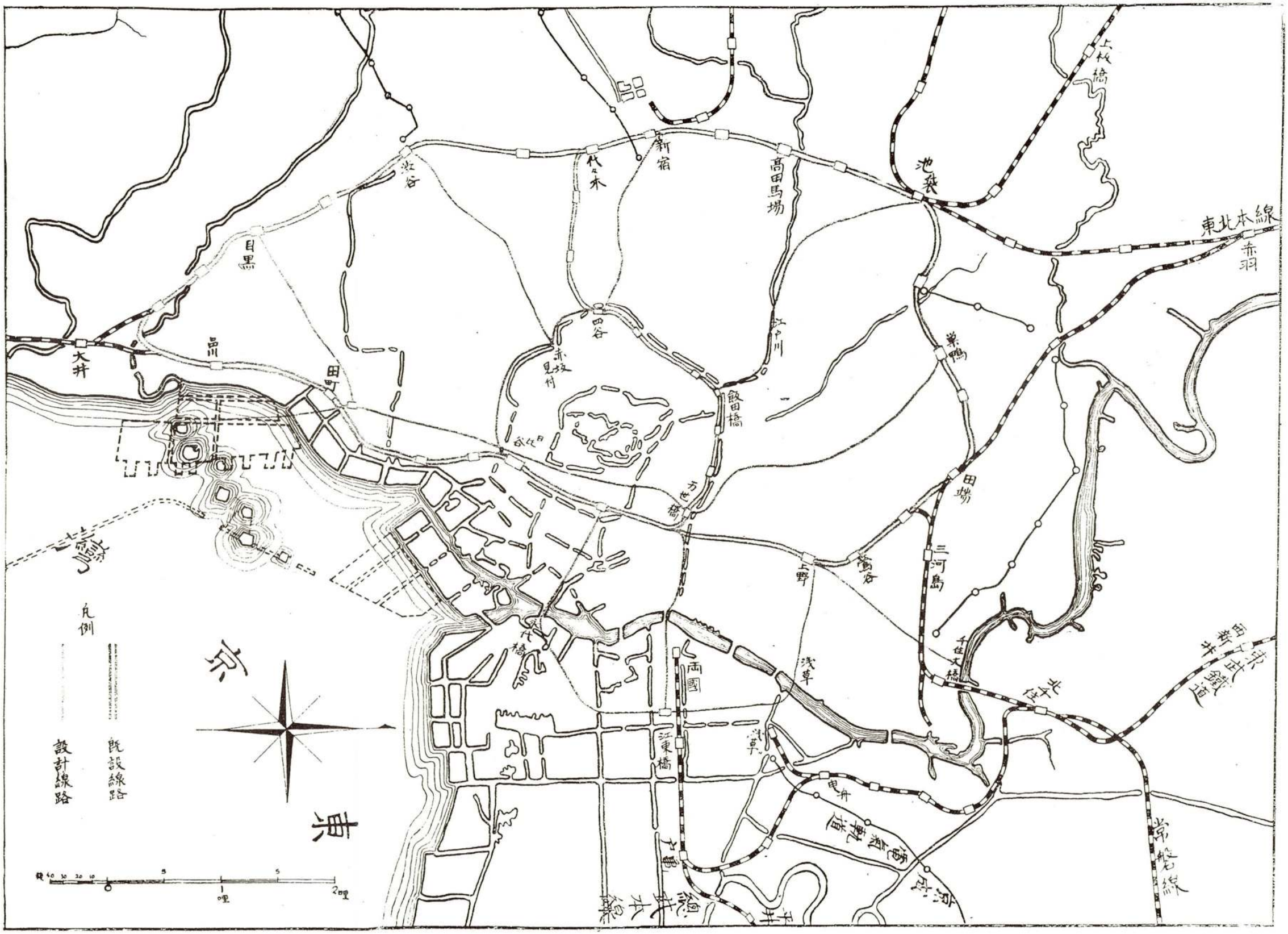
＝都市設計と政府の後援＝

都市設計事業と云つても、獨り其都市のみで出來ない問題がある。國有鐵道線の終點とか引込線は畢竟政府が都市設計事業に對して、積極的に助力して遣られば、折角の設計も完全には出來ぬが、政府が亦熱心な都市設計の後援者で、例へば市が築港を思ひ立つと政府は喜んで鐵道の延長とか終點の設置の交渉に應ずる。此場合に市と政府とが相反目したりする樣な事は決して無い。鐵道が市中を走つて居つても、之が爲に不體裁とか塵煙で市民に迷惑を懸けた事がない。線路終點停車場の如き、一般の道路同樣美術的に意を用ひて居り、必要な處は何處迄も枝線を布設して行く。

——模範的都市經營より——


東京市街路系統現狀
中央本線
新宿
総武鉄道
東上鉄道
池袋
大塚
王子
田端
北千住
宮城
第壹等道路 幅八間乃至拾五間
第貳等道路 幅拾貳間乃至拾間
第參等道路 幅八間乃至六間

高速電車線路設計圖


池袋
上板橋
東北本線
赤羽
高田馬場
新宿
代々木
渋谷
目黒
品川
大井
四谷
赤坂見付
飯田橋
江戸川
巣鴨
田端
三河島
鶯谷
上野
千住大橋
浅草
両國
江東橋
電車
常磐線
凡例
既設線路
設計線路
京
浜
2哩
1哩



國家と個人

東京帝國大學
法科助大學教授　大嶋正德談

斯の問題を議するには、先づ、國家とは奈何なるものなるか、個人とは奈何樣なものであるか、而して、斯の兩者の關係は奈何といふ順序で攻究せなければならぬ。仍で、先づ第一に個人とは奈何なるものであるかといふことより始むることゝしよう。

誰でも自覺しある如くに、個人とは肉體的の存在を有つてゐるものであるといふことは明瞭である。併し乍ら、肉體のみでは說明が甚不充分である。然らば、何んであるか、即ち(一)個人とは精神的の存在である。個人なるものは精神の存在であるといふのが個人としての實際である。隨て、よく世間で云ふ通り、個人とは人格的の存在であるといふて可い。之を一言にして云はば、我々の心には特別な狀態を以てゐる處の統　してゐる考を以てゐる。即ち、我々の感情、智識、意思之等の統一が人格的存在の要件である。(二)個人とは、單り人格的の存在許でなく、責任の主體としての存在である。斯の責任主體なることが、道德的又は經濟的の關係を生ずる處の原因である。されば、我々は、物でなくして、實に、人格的價値のあるものでなければならぬ。

以上は個人に就て說いたのであるが、次に、國家とは何であるかといふことに就き考へてみるに、國法學者等の說く處に據れば、國家には

先づ一定の領土即ち土地を要す、斯の事は別段研究するまでもなく當然な事である。其他、主權と主權に統治される處の人民、斯の三要素によりて國家なるものが成立するのであるといふてゐる。其統治される處の人民とは、人によりて成り立てる處の團體即ち人格的の存在なるが故に、亦國家も人格者としての存在でなくてはならぬ。或學者は、國家を以て有機体なりとし恰も人體が細胞其他の機能組織に依りて生存し活動するに等いと說いてゐる。併し、斯の說は人間を以て人格的の存在なりとすることを說明し得ない。

前に、個人の人格的存在に就ては、意識の統一と責任の主体なることを說いた、而して、國家も前述の如く人格的存在なるが故に(一)國家意識の統一なるものがなければならぬ。國家の法律や制度が組織的に存在してゐることが家家意識の統一狀態に在ることを示すものである。彼のモンデスキユーの唱へたる三權分立說の如く、立法、司法、行法の三大部門は、主權の統一に依りて終始し活動してゐるのである。然るに、國家に於ては、時々內亂或は革命抔がありて、其意識の統一を攪亂さるゝことがある、斯の場合、國家の人格なるものは恰も分裂したものとなる。尤も、之等の破壞の後に於て更に建設されたときは、幵は個人が改心して新しき人と成つたのと同樣になるのである。(二)國家は個人と等しく責任の主体である。即ち、國家は自覺的意識を有してゐる、各國家は、夫れ夫れ國名や國旗を有し、又國是方針を樹てるのである。其國家の奈何なる目的に向つて突進すべきかといふこと、即ち自覺を以て進まねば發達することが出來得ない。併し乍ら、等しく自覺といふとも、高い自覺か低い自覺か、其處に國策の高下が生ずる。日本に於て斯の自覺が現はれたのは、例へば、彼の「萬機公論に決す」といふ五箇條の御誓文の如き、其他憲法發布の詔勅、或は敎育勅語、乃至は、國務大臣が訓令を發する場合等皆國家的自覺であり又其處に國策の高下がある。殊に、對外政策の如き、例へば個人

が相對立在しる自覺の。うに、互に責任の主体たる關係に於て國家の自覺が現はれる。されば國家人格の要素は、其國家の自覺即ち責任の主体たることを斷定し得る。斯の國家人格の精神は、軈て是れ、國際聯盟の精神たる處の、國際的道義の下に國家の進路を闢く哲學的倫理的基礎である。單り外交方針許でなく、凡てに斯の世界的精神を以て行かねばならぬ。

次に、國家と個人との關係奈何といふことに就て考へてみむに、普通論としては、個人無くば國家無し。又、其反對に、國家無くば個人無しといふてゐる。併し、斯の思想は奈何に解釋されるであらうか、個人無くば國家無しとする說の如きは個人が實在であつて、是は個人本位說である。斯の說に據ると國家なるものは假りに存在してゐるものとなり、彼の國家契約說の如きは即ち是である。元來個人の心なるもが確に在ることは我々恒に自覺してゐる。而して、國家の心なるものは一体何處に在るかといふと何處にも無く、所詮は個人の心に之を看出すの外ないではないかといふのが個人本位說である併し、斯の說の通りに國家とは假想の事なりとせば、國家人格論や國家の權威といふものは竟に無意義となる。一体、個人といふものは、恰も石礫のように譯なく寄り集つてゐるように考へるのが相當であらうか、斯の個人なるものは蜜柑の實に在るような房扴が集つて一とつの蜜柑が出來るに等しいのである。即ち、個人本位說の如く個人ありて國家ありと大言し得るのは初より在るからで、即ち個人が國家といふ全体の下に在るから斯く謂ひ得るのである。全体的の關係ならば何んだか判らない。故に、個人は國家を離れて石礫のように集つてゐるのではない。互に社會的關係を有して甲と云ひ乙と呼び得るのは、畢竟、國家なるもの下に在るからで、即ち全体的の關係を有してゐるを以てゝある。個人在らば其處に國家なる關係を認めなければならぬ。一人が出來るには二人、二人が出來るには四人、四人が出來るには八人、八人が出來るには十六人といふ風に、我々の前には幾

億の人が在つたのである。其の如くに、現在我々一人の後にも幾億の人を生ずるのである、即ち、個人は一個の人間であると同時に凡ての人間である。のみならず、心の方から云ふても、我々の存在や思想は、我々の心の中には諸君あり、諸君の心の中には吾が心あり、即ち心の海の中に在る處の全体的な關係に在る。

次に、國家だけ在りて個人は無いかといふに國家本位説に據ると、國家なる全体は存在してゐるも個人の心は無い、即ち、個人の存在や價値は無いといふてゐる。民族や社會を離れては生活し得ないから、國家を離れて個人無しといふは正に其通りである。けれども、一人の個人が在つて國家が存在する譯には行かない。國家といふものは主權者で、夫れに附屬してゐるものが政府のみであつて、其他の者を認めないといふ國家本位説の如きは間違つた考である。我々の積極的な自發的活動を要素とせない國家は駄目である。即ち、我々の筋肉や血液の循環を忘れてゐるのである。されば、個人は積極的に國家の一分子であると見なければならぬ。國家の心の中に個人の心を取り入れなくては、眞實な國家ではない。實際は兩方面より云はずして一邊に云はなければならぬも、是は、曰く云ひ難しである。兎に角、所謂國家主義又は個人主義なるものは、兩者決して相反し相離れたものでなく、個人の働くには國家的の心を以て働かねばならぬ。

以上の説明を更に具体的に説明せむ爲、全体と部分といふ考から説明することゝする。是は其一とつを去れば他を説明し得ない。是を一遍に『全体部分』と云ふことは出來得ないから、兩者より抱き合ふように納りを付けたい。先づ、『全体』よりすれば、全体は部分を統一規定するといふことが出來得る。之を云ひ換ゆれば、部分とは全体の中に居り、其全体を印象してゐる之を國家に就て云はゞ、國家は個人を統一規定する、又、個人は國家の中に居り國家を印象する。例へば一とつの樹は、枝を統一規定する其枝なるものは、樹の中に生きて樹を印象して

ゐる。我々が日本國籍を有してゐるといふのは個人が國家に統一規定されて、其中に生きてゐるといふことが出來得る。即ち、我々は、日本國民といふ印袢纏を着てゐるのである。

更に、部分なるものは全体を組織し造り上げるのである。云ひ換ゆれば、全体は部分によりて生き又新にされ、部分によりてのみ生くる。即ち、日本の國家は我々一人によりて生くるのである。國家の生れ出づる創造的原流は我々個人の中より出で來るのである。恰も枝が繁茂する如くに、國家も個人の向上發展に緣りて旺となる。故に、我々は、自働的に服從する許でなく、我々は國家を有力に働かしむる爲に貢獻せなければならぬ。又、單に風俗や慣習に從つてゐる許でなく、國家的向上の爲に其改造をする方に努力せなければならぬ。其處に國家が新く生れる處の關係がある。元來、日本國民の長所や短所は何れに在るか、即ち、全体か部分か。惟ふに、日本國民は、全体から規定される方面よりしては相當に働いてゐるが、個人が自發的に自ら活働する方は甚だ足らない。即ち我々一人の力に賴りて國家を新にする考が無い。所謂原理國家の統制的原理と創造的原理の二つが國家に必要である。然るに、我國民には創造的の力が無い。唯統制的原理を有つてゐる者が國家の主要部に立つは、決して喜ばしきことではない、故に、我々は創造的原理を有さなくてはならぬ。（畢）（文責在記者＝郊郎）

書懷

蒼烟白露望茫々
千里江山草亦香
眼底乾坤堪痩骨
英雄何處不家鄉

（藤公）



樣式の上にあれ（上）

會員　村野藤吾

一、序　論
二、樣式再現は愚策のみ
三、科學の進歩と美的觀念の時代錯誤
四、國風問題と批判能力
五、無目的なる現代建築樣式の煩悶と其の解釋

一、序　論

樣式の上にあれ！。

樣式に關する一切の因襲から超然たれ！。

吾等は樣式の上に只感省の能力しかもたないものである。だから、既に過ぎ去つた樣式でも亦現代の樣式でも、樣式と云ふ樣式の、一切の既定事實の模寫や、再現や、復活などと云ふ、とらわれたる行爲を止せ！。

それは全く無意義である。無益である、否罪惡である。それよりも自分自からの思惟の發達と、觀念のモーラリゼーションに自からの自由意志に據れ！、と云ふのが私の結論である。私のマトウである。

斯の結論ははたして正當なりや。斯の結論の

眞相は何であるかを窮尋する爲めに、私は以上の順序に從つて之れを研究して見よう。私は斯の意味をもつと私の眞うの心の言葉で飜譯して見ようか。元來私は「樣式」と云ふものを定義する事については、不必要とするものである、否無意義とするものではあるが只私の推論上便宜の爲めに、私は樣式に關する過去の聯想や慨念をまとめて次の如く定義する。だが、之れを將來に迄特定し得るかどうかは、私自身にも不可解である。

『樣式とは構造と裝飾との或る特有なるオルガニゼーションである』。

吾等は「何々樣式」と云ふ已定條件を認める以前に、吾等は、吾等の建築的意匠を構成すべき一切の環境に忠實であり條件の「オルガニゼーション」に吾等の修養に依つて得たる理想（或は觀念）を以て之れを「オルガナイズ」仕樣とするものである。

極端な謂ひ方か知らないが、實を云へば樣式と云ふものが何であらうと、それは私の關するところではない。そんなことは型態學や分類學者達の閑仕事に過ぎない。

オーダーの高さが直徑の幾倍あらうと、ペチメレトの角度が幾度あらうと、サイマレクタの格向がどんな風であらうと、それは私に取つて大した價値のあるものとはならない、此頃の樣に鐵やコンクリートで機械的に、もつと痛切に云へば生産的に、どし〳〵造つて行かうとする狀態では、そんな面倒な、——而し、一部の古典的な貴族的な官僚學者達にはそれは一種の物識りとするかも知れない貴重なものであらうが、——事柄を忘れまいとする爲めには、餘程細心な注意と努力とを要するのである。かくて、私達の心の底から芽生樣とする最も自然的な、そして本質的な美的覺醒は、それが、成長の間もなく枯れて行く。

吾等が價値とし、そして、吾等の思索が現實と一致されなかつた時に起る苦痛の高價な反語は、如何にしてか眞實に人間を養ひ、如何にして人間により高い香を彼等の感情のうちに見出

すことを得るか、又如何にして全人類をより聖なる、より純一なる、高い境地へ歩ましむるかと云ふ、私の建築家としての義務をはたすことである。つまり私は、義即ち權を知り、之れを知ることに依つて終始し、私の修養に依つて得たる、構造と、裝飾と、而して之れを統一する或る理想を以て、私の建築行爲の最初の出發點とし樣とするものである。

私の意匠したものにどんなものが出來るかわからない。それがクラシックに行かうと、それがコシックに歸らうと、それが又ルチツサンスに合体し樣と、乃至は米國式であらうと、獨逸式であらうと、それは見る人々の權利と、獨斷とに勝手に任せる。

只私は、羅列せられたる一切の建築條件を忠實に体得する、だが之れをどうオルガナイズするかは私の權利である。敎育と道德とが私の本性を、私の靈魂をめざめさしてくれる時に自覺する私の義務である。

二、樣式再現は愚策のみ

不思議なことには今頃何々樣式のプロポーションは幾程だから、幾程にしなければ駄目だの、此處をこうすれば何式になるから、そこをもう少し變へたらどうだ！、だのと云ふ人がまだ、我國建築界にかなり勢力を有つて居る人々の間にあるから驚く。何と云ふ愚な忠告であらう。何と云ふ僭越な婆心であらう。勿論私は斯の忠告を感謝する、それは私の美的感情移入の一の參考に過ぎないものとして。

一体吾等は現在千九百十九年に生存して居るものである。然るに吾等は今日已に過ぎ去つた例へば十八世紀だの、七世紀だのと云ふ、過去の樣式を眞實に再現することが出來樣か？。

これが樣式再現に際して起る第一の疑問である。曾て伊藤清造君の樣式論中に述べられし如く、吾等の全感情を過去に沒入しない限り、人間の能力では到底出來ないものと信ずるのであるが、此の事は單なる推論や、考察抔に依つてのみ斷ずることは出來ない。深く人性の神靈的生物學的に討究する必要がある。かゝる廣汎

な問題に對して勿論私の貧弱な能力のよく解決する處でないが、之れを生物進化の現象について考察して見る。進化とは要するに、時却と、遺傳と、環境とに因る生物界の變化現象である。之れが人類界に於ては、一度進化したる人類は永遠に野蠻未開の狀に逆行することが出來ないことを意味するものである。人類は時の進轉と共に、其の肉体及び精神の變化を意味する。從而人類の一切の所有は漸化しつゝ尙歷史上の跟跡を標しつゝエチルギー不滅の無限大圓を步むのである。

又之れを人類學的考証に依賴するに人間の頭蓋骨は、時と共に變化し、從而、腦神經組織や智的能力に影響を及ぼすことを立證して居るのである。嚴密に云へば、人間は時がdtよりdtに遷つても、それは明かに能力の變化を意味する。つまり人間の能力は時のFunctionである。こう云ふ風な考へから、私は疑もなく同一ならざる人間の性情は同一なる樣式を現出することの不可能なることを裏書するものであると信ずるものである。何となれば。歷史や對照の研究は智情の作用に憩へなければならないからである。

又樣式再現に關する研究者の側より觀察して研究者の個性は必らずその研究に影響を及ぼすものである。獨り研究者の個性ばかりでなく、その時代と時代思潮とも研究に影響を及ぼすことは到底まぬかれない事であるから、其の時代を離れて他の時代に發生したる樣式を再現し樣としても、人間の個性を全然沒却することが出來ない限り、史的研究の立場より見るも不可能の事に屬する。要するに、時代を異にしては、人間の認識の對照内容が同一對照に對して一致し得ない事は、樣式再現論者に對し、彼等の計畫の無意義と不必要を語つて餘有りと云ふべきではあるまいか。

十八世紀に於ける優秀なる英國の建築家達は斯の問題に對する最も適切なる失敗の經驗を敎へて居る。當時、彼等はあらゆる史的考證と、一切の細密なる施行とを以て忠實にゴシック建築の再現を企てたのであつた。然るに此の人間

として成し得る限りの企圖も、終に眞のゴシック建築を得ることが出來なかつたと云つて居るのは、最も興味あることである。若し夫れ樣式再現と云ふことが、異世の、乃至は異邦樣式の時代的「モデフイケーション」であるなれば、それは再現にあらずして一種の模倣と云ふ可きである。吾等はかゝる不徹底なる妥協に藝術の名を冠することを恥辱だと思ふ。そして吾等はかゝる過去の特權に對して、吾等のドグマを加へることの僭越を思ふものである。

線と色との特異な交錯の齎らすいみじき旋律のうちに沈面して、そこに、時代の所有する特有な一切の世相を追想する時に、吾等はかゝる愚等に最後の望みを斷つまでもなく、十八世の終りに於て、最も精密に、且つ最も熱心に、其の不可能なることを立證されて居るのである。

然り、紫空に輝く典雅の宮は、三千年の昔、アクロポリスの丘上に建てられてこそ、眞の「クラシック」であり得た。北歐の暗雲を衝いて高く光る寺院の尖塔を望んで、打ちつぐう善男善女に天國を敎へ、一切の權力より脫して市民の特權を敎へたる早鐘の響き、それは總て千年の昔ゴシック建築のみがうける譽れであつた。時は移り人又去り、民族は滅び國境は渝り、世界は幾度となく榮枯盛衰の夢をたどりて、今は昔の影だに留めず。此の時に方り樣式の再現、それは到底不可能なる計畫である、空虛である、無意義である、憐れむべき執着の眩影である。驚くべく寬恕なる建築家等よ。

諸鄕は大英博物館内のフラグメントを組み合せて、プロポーションの正しいパースペクチーブを見樣として、卿等の尊い手を以てすることを止めよ、それで眞のクラシックは流れて來ない。それで眞のゴシックも現れて來ない。藝術的更進に對する「デスカレッヂ」は、こうした愚かなる間隙から侵入するのだ。

私は斯の意味をもつと擴張する。そして僭越なる未來派の樣式論者に向つて、吾等が過去の樣式再現論者に適用したる一切の言葉を其のまゝ提供して、其の噪急なるを嗤ふ。

私は嚴格なるプレゼンチストである。現在に生の享樂を實感する現在主義者吾等に、過去と未來の建築樣式を與へんとすることは不必要である、寧ろ罪惡である。

驚く可く無頓着なる美的夢遊病者等よ、鄕等は實に幸福である、併し憫然である、鄕土は眞に寬大である、併し罪人である。

噫一切の費用と勞力とを計算の外に奴隸を苦使し、定規と鐵鎖の苦痛から生れた、クラシックのモールヂングやアカンサスや……の强烈なる陰影のうちから、吾等は、今日何を感ずるか、沈痛と、號泣と、哀訴と、そして、最も恐ろしき悲哀とを痛感する外に、クラシック藝術の齎らす何等の惠與をも受け樣としないのである

經濟問題や勞働問題に吾等の最も純なる精神の一部をデポートせんとする現代に、こうしたモールヂクや、アカンサスを、今も尙强制せんとするのは、何と云ふ恐ろしいアイロニーであらうか。

私は將來と云ふ言葉が甚だしく獨斷的限定的であると思ふ者である。併し若し、吾等の努力と修養とを以て、追求し、憧憬して止まない理想が將來を意味するなれば、それは私に取りて幸福である。吾等の事業を遂行する唯一のモーチーブである。私はこうした理想を考へない現在論者でないことを悅ぶ。

凡そ吾等に取りて最も必要なるものは、總て完全なる今日である。之れに依りて吾等は生の滿足を實感し、理想への躍進を生命づけられるのである。過去は總て骨董であり、將來は總て眩影に過ぎない。共に私に取りて、そは、感情の浪費であり、空虛なる必要に過ぎない。

題しらず

にほひつゝ散りにし花ぞおもほゆる
夏は綠の葉のみしければ



公安より見たる都市計畫及都市計畫立法

商學士　岡田重次

一　概　說

Preparedness for peace の事業は種々あるが英佛に於ける大都市の接續町村併合の計畫も亦其一つである。我國も、內務省に於て都市計畫法案が出來て今期議會に提出され、遂に通過した。現代都市の改造は、戰後の經營上大に注目すべき社會的事業であることは否定し難きものである。乍併、我國の經濟學者にして、本問題を取扱はれた人あるは、寡聞にして餘り聽き及んで居らぬ。曩頃、經濟論叢に於て、某學士が都市計畫の根本問題に就き論ぜられたるのと、恩師關博士の土地收用のことに就き本誌に於て曾て論述せられしを知れるのみである。

現代都市の改造は、種々の點に於て經濟生活並に社會生活の改善と密接な關係を有して居るそれにも拘はらず、經濟學者が好んで接觸しない。假令住居問題殊に職工住宅問題が工業政策の重要なる部分を成すとは云へ、都市の建築改造に餘り熱心せぬのは、都市計畫の問題が何方かと云へば技術的であつて、經濟的なることは僅少であると思はれる。Thomas Adams 云つて居る、大英國に於ける都市計畫の十分の九までは技術家によりて準備されてゐる、倫敦及リバプールに於ける都市計畫の敎授は「アーキテクト」である、リバプールの講座には構造技術の講演者が附隨してゐる。其講筵に列する學生

の大部分は將來都市の技師（Municipal Engineers）たらんとして居る人々である」と。其都市技師と云ふは、

甲 Engineers（構造技師）
乙 Architects（建築家）
丙 Landscape architects（園藝家或は風景建築家）

の三者であつて、斯の都市技師は、相互に協力して計畫と遂行とに膺らねばならぬと主張せられてゐる。都市計畫は實に建築家や技師の久しく夢みてゐる Vision であつて、技術上の頭のある者でなくては、到底解決の付き兼ぬる問題であるが、單に技術上の頭があつても、其人等の豐富な經驗をば都市計畫の特別な方面に向くように修養せねば駄目である。我國に於ても佐野工學博士や片岡安君の如き卓越したる建築家を包擁せる建築學會の諸君が率先して斯の問題を提唱せられてゐるは甚だ道理あることで、吾輩も亦技術家の方が斯の問題に關しては造詣深きものがあると信ずる、從つて、以下少しく其等技術家が如何なる風に考へてゐるかを紹介したいと思ふ。

二 公安と都市計畫

大都市に於ける不斷の人口增加が人類の生命及健康に對し無限に增加する危險を伴ふて來る斯の危險は、大都市の發達によりて釀成せられたのではなく、其發達が偶然且不規則な狀態で行はれたるに依る。米國の都市は、其市街及都市建築の四周に祐な空地を存せざるは稀である大體に於て米國都市は街路の廣さ空地の廣さを祐に取つてあるが、或特殊の場所に於ては、人口の點に就ても又交通の點に於ても惡い密集の狀態に在る。斯の缺點は、一面に於ては建築物の適當な分配を缺けること並に建築の密度の統制を缺げることに起因し、又、他面には、運輸流通の最良方法を捉ふる道路組織の科學的計畫を缺げることに起因する。一例を擧ぐれば、聖路易市は稠密な都市と云ふことを得ぬが、或場所では劣惡な密集狀態を現出してゐる。其街路

は運輸流通に對し、其全數に適當せるもの以上の面積を有せるに拘はらず、大事な場所では十分の廣さを以て居らぬのである。

三　市街交通と建築の密度

善く計畫せられたる都市に於ては、晉に異れる場所間の交通が圓滑に行く必要を考ふる許でなく、又街路に面する場所の建築物の密度をも考へねばならぬ。斯の兩者相並んで規則せられねばならぬので、從來の計畫なるものが居密狀態を防止する方法として寸効無きことを立證するであらう。比較的狹隘な街路を持つて居る歐洲の都市が或米國都市より遙に優れたる、又遙に安全な運輸の流通方法を享有して居る、是れ歐洲の都市が米國の都市に比し全く居密の程度と建築の高さとが低い爲である。

都市計畫は、殊に最初に街路の幅員と建築物の高さとの關係を規定する必要がある。而して理想としては（其到達や蓋し至難の業ではあるが）建築物の高さは其正面の壁と其建築に向へる建物との間に存する幅員に相應する高さに限定することである。斯る一見困難な標準を成就するまで交通の雜沓（Congestion）を避くるに足るだけの空地を街路に見出すは不可能で、其結果市民の生命の危險と貴重なる時間の空費とを免ることを得ない。

四　次代の國民に對する計畫

市街電車や自働車に緣る事故並に無計畫なる街路系統及人口居密の結果たる疾病に基く死亡は、都市の死亡率中驚くべき比例を占める。交通取締の巧妙な方法並に各種の公衆衛生運動は毎年數千の人命を取止むるに効あるべく、斯の方法と運動との不撓不屈なる繼續は頗る肝要である。假令吾人が市街交通の現狀を透見するの明ありたりとするも、其群り來れる危險を防止することは到底不可能な事であらう。とは謂へ現在吾人に分明な範圍内に於て、少くとも、吾人は現代都市發達の根本病患の或ものをば現代の國民に引繼がざるような救治策を施すことが

出來る。是れ即ち都市計畫者の事業である。

都市の計畫再計畫並に改造を爲すに方り、其實行し得らるゝ限り諸事業に先ちて盡力せねばならぬのは、街路建築及休養（Recrestion）に關する下の諸問題を處理することである。

交通頻繁なる街路は廣からざるべからず、若し市街鐵道の在る所では幅員百呎を下つては不可ぬ。道路の方向は、幹線道路に向かふようにせねばならぬ。凡そ矩形設計法の結果たる直角の曲り角や行き止り、不規則なる橫斷及衝突點を避くるを要す。山手の場所にては、眞直な急勾配の販路は一百碼の眼界を有する合理的灣曲路に改正するを要す。銳き灣曲路は全然撤廢せねばならぬ。殊に、交叉點に於ける惡い路は之を避けねばならぬ。四本以上の街路が一點に聚合するは宜しくない。但し聚合點に大交通餘地が存する場合は例外である。街路の接續點の銳角を爲す曲り角を圓くすることは、街路の內側を廣くするよりも、雜沓を柔ぐ上に效ありて能く事故を防止する。都市の市街鐵道系統は、少數資產者階級の利害を度外視して、一般の便益を圖る目的を以て計畫し再計畫せねばならぬ。多くの場合新しき間道街路を創設せねばならぬ是れ、現在街路の擴張より先にすべきものであつて、是れが爲、交通は集中より分散に變るのである。又、幹線たる放射線狀街路を補充するに、都市の外輪及內輪街路を以てせねばならぬ是れ、交通をして都市の中心に達する前に分配するの效がある爲である。住宅區域には狹き街路を設計し、且相當の制限を置かねばならぬ。兩側の住宅の高さを制限し、二階建或は三階建とし、建築の樣式が區々樣々たることを禁ずるようにする。狹き街路は、都市橫斷交通の勢力を成るべく割くように計畫せねばならぬ。全街路系統は建築上並に居密な殷振な交通の必要と關係して設計するを要する。

交叉點は、十分な半徑の圓周內（百呎を下らざる）に於て直角にも廻旋狀にも動くことが出來得るように設計せねばならぬ。

建物の後退線（Set dack lines）は凡ての街路

にて一定し、殊に比較的狹隘な道幅の街路が交叉する處では、交叉點の遠見が善く利きて、凡て接近し來る車馬の見易きようにするを必要とする。

五　建築物の高さと地帶區分

建築物の高さに關し達成せんと欲する理想は建物の正面に於ける街路の廣さ並に其背面の壁との間に存する空地の廣さに順應して高さを限定せんとするに外ならぬ。斯くすれば、雜沓を防止し、街路改良の福祉を享有し得る標準をして有効ならしむることが出來得る。建築せらるべき地區の敷地面積の總計は商業地區に在りては七十五%を超過すべからず、又住宅地區に在りては五十%を超過してはいかぬ。但し角地に於ては例外なるが、通例商業地區に在りては二十五%、住宅地區に在りては五十%の空地を存ずることを必要とする。

之等の標準は、今日の實際より見れば、輿論の公認を受くるには餘りに進歩し過ぐるの觀あるが、併し、其等が適用せられ强制せらるゝの日は漸次接近しつゝある。

種々なる地區の中の建物の種々な高さ並に種々なる居密度を限定する目的を以て都市は地帶に區劃せられねばならぬ。例へば、工業地帶、商業地帶、住宅地帶其他特別の利用の爲の地帶といふような各異れる利用の爲に當て嵌る適當な狀態に、同時に街路系統を立てねばならぬ。是は、緑青聖路易其他の都市で實行せられた處であるが、今日までの成績に徴するに、其標準は未だ以て雜沓を防止するのに適當ではないのである。比較的雜沓せざる地方並に比較的繁華ならざる人口稀薄、人家散在する地方、我國の例で云はゞ、市部に建る郡部の地方に漫然都市を擴張して行くことは雜沓を緩和し安全を圖る唯一の肝要なる方法ではない。併し乍ら、土地家屋等の所有者の利害關係内に在る財産價値をより均等に分配せんとするには缺ぐべからざるものである。即ち、都市の擴張に因り現在の如く市郡間に存する地價の極端なる差異を減少す

る効は十分ある。

概説すれば、米國諸都市は休養の爲露天空地を適當に設備してゐる。だが、之等の休養場所が適當な所に在ること並に人口に對し甘く割り振られてあることは稀なる實例にて、實は偶然の結果で、敢て別段斯く設計したことでは無い若し各地區に運動場の設備を置くならば、住宅地區域の道路幅を狹くし、建物敷地上の建築密度を切り詰めて行くことになつて効果あるべく實益がある譯である。休養場を設くるときは道路を運動場とする必要がなくなる。大公園は都市に取りて非常に價値がある、とは謂一大公園は決して市民各自の家庭に近接した處の休養場所の必要を減耗するものでない。都市計畫案は當に運動場及公園の設置並に設計をのみ重視してはいかぬ、須らく將來區劃せらるゝ凡ての土地の或割合なる餘地をば休養の爲取除けるといふ一定の原則を打ち立てゝ懸ることを要す。が奈陀に於ける或地方では、又英國に於ける或計畫案では建築目的に區劃せらるゝ土地の全面積の十分の一をば必ず公共の空地として殘すことにしてある。是と同樣に、土地を建築目的の爲小分するときの條件として、街路の空地をば建築せずに殘し置くこと最も必要である。建築に適せざる土地は屢々運動場として適當してゐる斯る土地の所有者が其土地を公共に寄附するは決して其價値の損失を意味するものでなく、斯くの如き空地の寄附は偶々以て其附近の住宅用の土地の地價を增加することになる。且又街路に其土地を捧げねばならぬような事が起て來ない。都市の子供達が街路以外に遊ぶべき處なきは實に公道に於ける人命喪失の主因の一たるは既に業に周知の事實である。（未完）



街路鋪裝工事と市財政

在米工學士　武居高四郎

街路鋪裝の必要なることは今事新しく述べるまでもなきことなるが、今大阪市の道路は、一旦降雨あらん歟、忽ち化して泥濘脛を沒すともいふべき狀態と成り、竟に、『大阪市には道路ありや』の歎を聞くこと屢々にして、寔に、大阪市には道路と稱すべき立派なるもの一つも無いと謂ふて可い。吾人は、市理事者も、既に其改良を頻りに計畫研究しつゝあることならんと思惟するも、市當局の苦心鮮からざる割合に適當なる改良方法を看出し得ざるものゝ如く、荏苒未だ何等爲す處無く、偶々之を行ふも極めて一小部分に屬し、街路鋪裝としては、未だ殆んど見るに足るべきものなきは、財政の爾あらしむることならんかなれど、懷ふて、寔に嘆はしき次第である。或は、市理事者を批難して『兎角爲すべき事を爲さずして困る』との苦情も出づることならんかと想ふ。殊に、交通增々頻繁と成り、自動車の使用愈々殷となりつゝある今日、街路の改良、新設、幅員の擴張、路面の鋪裝は、都市經濟上、衛生上、及び、都市の美觀上よりして頗る重要なることと信ずる。

而して、吾人は、路面鋪裝と市財政の關係に就き市民の注意を促したいものがある。蓋し、街路の改良工事費を負擔する方法には種々あるも、吾人の見を以てすれば、大略左の方法に據るべきものと信ずる。

I　都市が工事費の全部を擔負する場合

（イ）公債に藉ること

（ロ）一時拂に依ること

II　工費の全部或は一部分を鋪裝工事を行ふ處の街路の兩側に在る土地所有者に賦課する場合

（イ）一時拂に依ること

（ロ）年賦拂に依ること

以上二箇の方法あるが、吾人は、其各箇の方法に就きて以下其攻究を試みよう。

（I）都市が工費全部を負擔する場合

若し、都市が最初の鋪裝工事費或は鋪裝工事の壽命を經て改造を爲す場合に、其費用の全部を負擔するときは、次の如き結果に到り易きことを念はねばならぬ。

1、街路鋪裝又は修繕が十分に行はれず、公衆一般の要求を滿たすに充分ならざること

2、課稅の重きに苦むに到ること

3、市公債の嵩むに苦むに到ること

而して、亞米利加の多くの都市にては、最初の鋪裝工費全部を市の負擔としてゐるような處は殆んど無い。或る都市では、二十五年、五十年以前まで、街路の新設及最初の鋪裝工事費は其全部又は一部を當該鋪裝路面の兩側に在る土地所有者に賦課し、其後の修繕費或は改造費の全部を市の負擔とすることになつてゐる。其結果は、不完全な唯最初の工事費のみが廉く、修繕又は維持費の最も多く課る街路が一般に出來たのである。是に就て、ボストン市の例を採つて云ふならば、最初の鋪裝工費は其兩側に於ける土地所有者の負擔とし、其後の修繕及改造費は總て市の負擔と爲し、一般會計より支出することになつてゐる。其結果、

A、土地所有者の一般の傾向は、街路の新設改良には、成る可く工費の廉く出來上るものを修繕、維持費等は不廉でも直接自己に課つて來ないから搆はぬといふ目先の見へぬ者の多きは何處も同じで、竟に、今日の如く交通に不十分な街路が多く出來た。

B、爲に、市は斯る不完全な街路を近代交通量

の頻繁となるに伴ふて、どうにか差支のなきよう維持するには、年々多額の經費を要するようになつた。

ボストン市には、現今、維持費の最も多く掛る而も交通に不十分な約四百哩のマカダム道がある。斯の街路を改良するには、約一千五百萬弗を支出せねばならぬ。之を市價に藉りて支辨し、十箇年に辨償するものとせば、利子及年々の減債資金として、年に貳百萬弗を賦課せねばならぬことと成り、市民の負擔餘りに重く、殆んど實行の出來得ぬこととなる。さればとて、紐育市の如く、償還期限を五十箇年若くは百箇年とするが如きは無謀の甚しきもので、其償還以前に鋪道の壽命は竭き、改造を二回も三回も重ねなくてはならぬ。其結果は、市債に市債を增し、何人が見ても寔に不都合な遣り方と云はなければならぬ。

紐育市では、ボストン市と同樣な制度を採用した爲、不完全なマカダム道や、其他、工費の廉い街路が多く出來た。併し、年々數百萬弗宛の市債を發行して漸次改良せるが故に、今日では、可成り良好な街路鋪裝を見るに到つた。併し、市債の償還期限が前に述べた樣に長期なのは甚だ不都合である。兎に角、街路鋪裝及改造費の全部を市の一般會計より支出することは、市財政上甚だ不經濟で面白からざる結果に到ることは明である。

(II) 特別課稅に依る場合

街路鋪裝工事を行ふ兩側の土地所有者に賦課する方法には種々ある、今其實例の二三を揭げんに、

セントルイス市にては、鋪裝工事及改造費の全部を兩側の土地所有者の負擔とし、之等土地所有者は、年六步の利付で工事者より其工費の融通を受け得ることとし、市は之に對し、其土地を抵當として十分なる保證を與ふることとなつてゐる。

ポーランド市(オレゴン洲)では、鋪裝工事及改造費の全部を兩側の地主が負擔し、鋪道の壽命がある內、適當な年限內に償却の出來得るよ

う年六歩利付拾箇年賦拂として市に支拂ひ、市は年五歩の市債を發行し、其差額によりて廣告印刷、庶務等其の他の費用を支辨するのである。斯くして、人口二十一萬の斯の都市は百五十哩の Bitulithic 道、百哩のアスファルト道、及び石材、煉瓦、木材鋪道等合せて三百五十哩の立派な鋪道を、既往拾五箇年間に築造したのである。而して、奈何なる種類の鋪道を設けるが、どの街路を鋪裝するか抔に就ては、兩側土地所有者の多くの人々の意見に依りて決定することにしてある。

街路の鋪裝及改造を行ふ場合には、兩側の土地は非常な利益と便宜とを享くるが故に、是に對して工費を負擔せしむるのは當然である。併し、一般公衆も是に因りて相當なる便宜を得らるゝのであるが故に、一般市民も之が工費の一部分を負擔すべき義務がある。故に、市は、其街路の使用が都市全体に亘るものなりや、又は部分的なるやに由りて、其場合を適當に判斷し工費の三分の一、或は四分の一を負擔し、鋪道の壽命のある內に償却出來得るよう各鋪道の種類に依りて年限も異れども、各之に適當する年限內償還の市債を發行して、一般市民の負擔とし、普通會計より支辨するを以て妥當であると惟ふ。兩側の地主には、前に述べた年賦拂の制度を採るが可い。年々の修繕費は市一般會計より支出するのである。

ウティカ市(紐育洲)は人口九萬の都市であるが、鋪裝が最もよく出來てゐる。斯の市では

1、市最初の鋪裝及改造費の三分の一を負擔す

2、兩側土地所有者は其工費の三分の二を負擔し、年六歩の利息にて六箇年賦拂とす。

3、市は最初の鋪裝工事と改良工事との間に要する年々の小修繕費及維持費を普通會計より支出し、一般市民の負擔とせり。

ポートランド市及ウライカ市は、米國にて最もよく鋪裝された都市なれども、兩市とも一般市民に多大な稅金を課することもあり、又、夫れに由りて最も多く利益を受くる者の負擔を重くし、市としては、市債額の嵩むことに苦心す

ることもなく、立派な街路を築造し維持することが出來得るのである。

斯る方法を我邦の都市にも適用して、都市街路の改善を圖つて貰ひたいものである。斯の事業は、都市計畫中重大なるもの丶一とつである

が故に、速に實行されんことを切望する。都市を改良しようと市民が眞面目と成り、當局者と協力して進んだならば、財源等も適當な方法に依り之を見出すことが出來得ると想ふ

✤花散らぬ國✤

アバロンの國には雨も降らぬ雪も降らぬ、風は花を散らさぬ程の長閑さに吹く、赤い花白い花紫の花黃なる花――ありとあらゆる美しい花が散る事を忘れて咲き亂れてゐる間を柔かに吹いて渡る。アーサー王は重き傷が癒へつくして、此國に憂きと老とを知らぬ月日を送つてゐる。けれども、英國の民が敵に惱まされる折には忽ち王が現はれるとは人々の胸に深く〳〵刻まれた信仰である。

―歐洲の傳說―



名士の住宅觀

□長所を利用して

文部省普通學務局長 法學士 赤司鷹一郎氏（談）

住宅の構造は震災地として世界に知られゐる日本としては先づ第一に耐震の構造を最大必要條件とす。故に予は耐震の意味に於て日本の住宅は石造、煉瓦造等よりも比較的耐震力ありて又比較的危險なき木造を以て最も安全也と思惟す。是即ち常に予が我が國の益々造林の要ありと爲す所以である。住宅の高さは二階建を以て限度とし家族四人ならば二階二間階下二間に臺所玄關位で澤山ならんかと思ふ。內部の造作は各部各室各々其需用主あつて造らるゝものである、即ち此需用主の便利な樣に又衛生的な構造とせねばならぬ。玄關より申さんに玄關は山師的人物ならば格別、常人の住宅ならば客の多寡其出入の度合を稽へて大小を決するに要がある臺所、常居は日當りよい所に設け客間は一番日當りの惡い所でも差支がない。二階は大低日當りも風の具合もよいから書齋を設くるが宜い、又都合で客間にしてもよく、子供の部室は常に監督者を要するから家人の常に居るとの多い部屋の隣とするがよい。若し主人が子供の監督する要があらば書齋の次の部室にするも宜しからう。椽側は日光の調節に是非必要である。外の戸は板戸としても其上に硝子の欄間を附するがよい盖し採光、換氣に都合がよいからである。部屋は常居でも女の居室でも何處でも洋風が便利でよく。物の整頓もよく出來る。向後の世の

中は女中を置かなくともよいやうに出來るだけ手數を除く構造が必要である。敷物は外國の如き絨氈はいけない、絨氈の叩き掃除は外國でも毎週一回下女の大仕事となつてゐる。矢張日本の疊がよい。但し寢室は疊の上に日本風に寢るがよい樣である。臺所は其家族の料理計りでなく客も來る家もあるから家族の割で以て大小は決し難い。外國は其家庭で客への料理を調理するから、比較的日本の臺所より廣い。客のない家ならば臺所は家族割で宜しいが客のある所は客の分も見越して大小を決し棚は藥局式に淺く手の屈く位の高さとし物の配列を整ふる要がある。棚は大低の家庭で見るに下女が棚へ肩まで入れて物を出したり首を突込んだりしてゐる。あれではいかん。流しは石造なりコンクートなりで高く造り腰掛けて仕事する樣にする。外國では銀行の簿記用椅子の樣な、踏臺の附いた伸縮自在なる椅子に腰掛けて流しは石造かコンクリートで一偶に穴あり穴に栓をして水を流し一杯に入れ之に器物を入れて洗ふと恰かも日本の桶の樣な具合にて器物を洗ふは栓を取つて水を出して了ふ。月に四五回位出して使ふ器物ならば足臺で取れる位の高い所に置くと臺所は經濟的に造られる。總て住宅は『便利』と『時間の經濟』との二大條件を離れてはならない。臺所の如きは殊に斯の二大條件を完全に具備せねばならぬ。日本は都會は別として田舍はまだ〳〵餘裕があるから日本一般人の住宅としては餘り窮屈な小さい處に住む要がない。無駄なとは排斥せねばならないが十分必要なる大きな住宅を造るがよいと思ふ。

□夏到る□

ひとり居てものおもふ
われを郭公こゝに
しも鳴く心あるらし

今日の生活狀態に照して

貴族院議員
法學博士　山脇玄氏談

建築技術の事は固より專門家でなければ其說を立て能はずと雖も住宅改善の事ならば多少聊か私見なき譯でもない。

予は我が國民の今日の生活狀態に照し其住宅は和洋折衷の構造を以て最も適切なりと思惟す住宅が全然日本風なれば何うしても建物が割合に大きくなり殊に椽側抔を取りて部室の間取り割合に少く頗る不經濟である。若し應接間及書齋を洋風にし且つ椽側を全廢せば建物の小なる割に間取りを多くするを得る。日本の住宅は兎角殆んど無駄な部室多く平常空室にして月に二三回より使用せぬ樣なる部室が少くない。今日の住宅は徒に大ならんよりは寧ろ小くとも各室を常に有效に使用し得る構造が個人としても將た亦國土狹く年々歲々人口益々增加する日本としても最も緊要なることであると思ふ。而して住宅の建築材料は必ずしも石、煉瓦等を要しない却つて木造でも家根及外壁は不燃燒物を使用し耐火又は防火的設備を爲さば足ると思ふ。住宅の高さは三階建が最高限度で、普通二階建又は平家建は宜しからう。其外觀は成るべく都市の美觀を損せぬだけの心懸けは其都市を形成してゐる人として甚だ必要である。昨今東京では銀座、日本橋の大通りでも都市の美觀を損ずるが如き建物諸所に雜然と混じ芝の虎ノ門通には古代風の建物あり都市の美觀を損すること甚しい。是等は人各々の好む所ありて斯の如き邸宅を建たることと思ふが都人士の特に自ら戒めざるべからざることである。次に部室としては應接間及書齋を洋風にせば服裝が和洋兩用なる日本人には其起居至極便利に出來て短時間の面會者が出入すると多き應接間としても書類の出し入れをす

る都度起居する書齋としても、洋風とする方が適當である。併し、陳列品の多き書齋は塵埃立ち易く不衛生的であるから陳列棚等の構造は斯點に於て留意を要する。臺所は大低無駄に大い、此所は棚でも其他物の置場でも無駄なく造らねばならぬ。臺所の廣いのは仕事にも不便で時間も不經濟である。臺所は現在大低の家庭が有してゐるのよりも猶小くして更に有用に造ることが出來ると思ふ。殊に日當りのよい方面を選んで造らねばならぬ。日本人は客間を日當りのよい方面に設けて、臺所や家族の常に居る部室を日當りの惡い方に設くるが、之は客を優待する意味から來た風習であらうけれども、甚だ誤つた仕方である。客は終日其部室に居ると極めて稀れであるから日當りの惡い方面、換言せば其家屋中部室として最も惡い方面に設け、臺所や家族の常居は最も良い方面に設くる必要がある。世間では地下室が國家の經濟上便益多しと唱ふ者あるが予は地下室は器物の置場としても食糧品の置場としても亦居室としても不衛生的にして不可なりと思ふ。先年英國倫敦にて大洪水に際しテイムス河の水氾濫し各戸の地下室に浸水し多大なる慘害を蒙りたるは勿論、其排水、乾非常な困難を感じたことがある、予は住宅の地下室は絶對に廢すべきものだと思ふ。更に日に非本の住宅に於ては部室と部室とを區別するに襖又は紙障子を使用し隣室の談話は明々白々と聽取され爲めに自分の方の部室の談話を妨けらるゝことが多い、之を改むるに板戸を以て襖、障子に換へ且つ板戸に錠を以て閉ざすことが出來れば各室箇々完全に獨立し室内の談話も漏れず其他保溫等に就ても都合がよい。最後に予は國家又は府縣市町村が社會政策の一端として中産階級以下の者の爲めに衛生的にして家賃低廉なる貸家又は貸長屋を建設し家屋を所有せざる國民の住居に對する保護が最も必要なるを思ひ敢て建築界の人々に對し機會ある毎に之に關する考慮を爲すに吝ならざらんことを望む者である。

□和洋折衷とする方が

東京市衛生試験所長 醫學士 柿澤信義 談

住宅は人間の着物同樣のもので採光、換氣、保溫の度を失はんか、人間が衣類を不適當に厚薄せしめたるが如く必ず身体に異狀を來す。由來日本風の住宅は開放式にして餘りに換氣が好過ぎる。風は通り過ぎ日光は透し過ぎ保溫は底きに過ぎて居る。洋風ならば開閉式にして自由自在に採光、換氣、保溫を調節し得て便益がある。併し全然日本人にして洋風の住宅では其服裝生活上不適當の樣であるから和洋折衷とする方が適當であらう。二階は書齋とし又時に客間をも設くるがよい。常居は東と南に面し、出來るとならば東南兩面を有する角の部室とし臺所は北向きがよい。緣側は日本家屋は敷板は粗末で下から風塵が入り込み且つなくともよい緣側を設くるは不經濟なる建て方である。人各の好み嫌ひがあるも、應接間は洋風がよく書齋は書齋主の習慣に從ふ外ない。予は獨逸へ遊學した折り終日終夜椅子にのみ倚ることは苦痛で椅子を二つも並べて安座して讀書することが多かつた。敷物は疊は保溫的のもので絨壇よりも埃りを吸はんから疊を敷く方が衛生的である。障子は空氣を防ぐ力が十分の三よりなく埃を吸ひ易しいから硝子を入れた板戸は宜しからう。部室の內部は外から見ゐて惡い處は全部板戸として欄間を硝子にするがよい。臺所は立つて仕事する樣に高い流しとし棚は藥局式に物を陳列し得る樣にし何れも天井は成るべく高くするがよい。床下の土は大低中央部を凹せてゐるがあれは雨水が溜り有機物を分解して床下より屋內に惡い空氣を送り頗る危險に仕方であるから床下の土は平地とし出來るならばコンクリートとし床の高さ一尺七八寸に床の外圍所謂土臺は上木と下木

この間に左右開閉の欄間を設くるならば最も理想的である。更に予は便所の構造を一言せんに便所は主家と別棟に便利だけのものを建て主家より其床を高くし夫れに階段を渡し階段は老人子供に危険なき様巾を廣く大くして階段數を三四段とし其階段には廊下の様な外圍を附けず唯屋根のみに止め便所の床は地上より四尺とし床下地面との間は柱のみとして外圍なく吹き放しとし糞便の落下する處には家族男女子供併せて四人ならば四斗樽位のもの置きて糞便を受け毎週八分目位に滿つた折りに汚穢屋が前の樽と替わしむる。但し其樽の蓋を嚴重に閉め得る様にする、便所の内部は四尺四方位、其地面はコンクリートとし床板は取り脫づし自由なる様にして其板と板とは半分宛食ひ込む様にする而して床敷は折々に取り脫して消毒的洗濯を爲し。惡疫流行の際便所の地面及内部は全部消毒するも床板は取り脫すと能はざる爲め地面に面したる下面を消毒漏しするとあり然かも便所の床板の下面は糞尿の飛沫にて不潔なること甚しい。便所の構造は大体に斯くの如き大いに衛生的なることと思ふ。

♣上代の都市♣

ローマの歷史は都市の膨張發展の記錄とも云ふ可く、都市の初めて近世的意義を有するに至りたるは實にローマを以て嚆矢とす。初めローマ帝國其征服の範圍を伊太利以外に擴張するや、グーリク・フエニシヤの繁榮なる商業市を其權力の下に置くに至れり。然れども尙ほ之等の都市は條約に數多の特權と權利とを留保するを得たりき。而して、之等の都市中或種のものに就ては形式的の獨立と實際の自治制を享有したるものなきにあるざるも、多くはローマ政府の派遣せる地方官の監督を受け其歲出入はローマ政府の會計より獨立すること能はざりき。既にして後ち又他の一種の都市を生ずるに至れり。即ち、ローマ政府は將來有望の征服地又は殖民地に其老兵等の一團ゟ派して土着せしめ、漸次都市を形成せしめたるものにして、最初より殆んど獨立の自治團體を成し、唯々偶々ローマ皇帝の勅定によりて監督せらるゝもの生ずるに至りしこと之なり。

—「都市經營論」—



都市と建築

細民住宅に就て

本會理事長
工學士　片岡安　述

予は我國都市の細民住宅に就て少しく所感を述べん、近來細民住宅の問題が各專門家の注意を受けつゝあるは事實にして、已に內務省の救濟調査會に於ても斯項目は緊急の問題として取扱はれつゝあるを見る。予は都市の細民住宅の研究を救濟事業の立場より見るを以て甚だしき時代後れと考へざるを得ず。歐米各國にありては四五十年前までは本問題を慈善事業の一部として取扱ひたれども、今日となりては斯かる資本家中心、貴族本位思想は世界的に一掃せられ社會改良の緊急事項、政治上の重大問題として論議せらるゝ時代に到達したるを知らざるべからず。

本問題は一言に之を言ひ現はせば『デモクラシー』の思想より考索すべきものにして、其立脚の地は政治、經濟、風敎その他の社會政策にあり、決して資本家及貴族階級の慈善心より出發すべき救濟事業にあらざるなり、英國にては今より三十五年前（一八八四年）此問題は大に輿論を動かして、住宅問題調査會の成立を促したり、時に大政治家チャーレス、ヂルク卿は其會長と成り、英先帝エドワード七世陸下未だ皇太子たりし時右調査會の一員として努力せられしと聞く、其後四五年を經て彼の有名なる勞働階級住宅法案は議會に現はれ、勞働黨領袖ジョーン、バーンス氏の奮闘により一擧にして法律となりしは、少しなりとも英國社會政策の事情に通ずる者の皆知る所なり。

今我國の細民住宅を考ふるに方り、我々は先づ其第一歩として都市住宅の狀態を改善すべき法律の實現さるゝを希望せざるを得ず、住宅の改善を促かすべき方策の端緒は住宅法によりて其根帶を形成するものなるは、上述英國の實例に見るも、又歐大陸の住宅改善運動に徴するも明白の徑路なりとす。而して住宅改善の促進は中產階級以上のものに向つて之を期待することは殆んど急要の問題にあらず、要は其都市の最下程度細民住宅の改良を以て緊急事とする。都市計畫が其綱要とする都市の經濟、衛生其他の項目は所詮其內容の點に於て斯問題に觸れざるものなきを知らざるべからず。予は今日まで我國都市の住宅改善に就き多少其所見を發表し又發表すべき考案を有すれども、今茲には唯一二の實例を擧げて大体論を述べんとす。

英國に於ては一八九〇年發布の住宅法に依り各都市それ〳〵可成りの努力をなして、從來の不健康なる住宅を取拂ひ公營住宅の建設を企畫しつゝ來りしは、同國都市の誇とする處にして其是れまでに擧げたる効果は十分に之を認むるの價値あるものとす。一九〇七年度の倫敦市の國民家屋改良協會の報告によれば、

一、倫敦の死亡率は住宅法制定以來十七年間に約三割を減じて、千人に付十五人となり同年度の紐育のそれが十八人三分、維那のそれが十九人三分、羅馬のそれが二十人六分なるに比すれば非常の好成績なり。

二、結核死亡者、痲疹死亡者は前記十七年間に其數三分の一に激減し喘息死亡者及一般急性傳染病死亡者は二分の一となり、殊にチブスは殆んど全滅して其跡を絕てり。

三、細民部落の改善されたる地區にては、其以前の死亡率千人に付四十人程度のものは俄然として其率を低め、遂に千人に付十三人即ち其三分の一にまで到達せり。

以上の報告によりて見れば、細民住宅の改善其緒に就くと同時に倫敦市は一齊に其衞生狀態の好良なる結果を招徠せるを知るは明なり。而して英國の各小都市にして其住宅改善を企て以

て其市民の健康を增進し、風紀を向上しつゝある實例の夥しく發表さるゝを見るものは、其効果の餘りに著しさに驚かざるを得ざるべし。

抑も大都市の細民住宅は何れの地に於ても恰かもサンドウツチの如くに比較的繁華の市區の間に介在するを常とす、之れその當初都市の塲末外廓地帶にありしも、都市が更に膨脹するや其地帶を越ゑて新しき繁華の市區を形成し漸次に之を外廓に繰返す爲めに外ならず、而して之等大都市の各處に介在する住宅區域は常に衛生上の危險地區にして、又同時に風紀の頽癈を促進する傾向著しきものあるは、恰かも花園中の雜草に等しきものと言ふべく、其地區の改善の緊急なるは、即がて都市全体の幸福增進と一致するが爲なりとす。

我國の首都たる東京市の細民住宅の果して如何なる狀況にあるや、吾人は其詳細を知るを得ざれども大正元年內務省調査の統計により、東京及大阪兩市の最低級の細民住宅の或ものゝ內容を知ることを得。右統計は東京市にありては本所深川の兩區に亙りて二千八百八十戶一萬二千四十五人、大阪にありては二三部落地を合せ一千六百八十戶七千五百三十九人に對して行はれたるものなり。今東京の右細民住居の容積に就てのみ之を見るに、一戶と稱するものゝ其入員平均四人にして、其

二割一分は一疊乃至三疊敷一室に住居し
三割八分は三疊乃至四疊半敷一室に
一割九分五厘は五疊乃至六疊敷一室に
二割一分七厘は六疊半乃至八疊
一分八厘は八疊半乃至十疊
一分一厘は十疊半以上に

住居する割合なり。即ち一室に平均三人乃至四人雜居し、其一人に對する面積は疊一疊の割合なりとす。

昨年大阪南區の西關谷町の細民部落三百九十一戶に對して調査したる處によるも、一戶平均六人三分、一戶當り疊數六疊五分にして之亦一人一疊の割合なるを發見せり。英國に於ては一室二人住ひを限度とし若しそれ以上の人數の住

居するものは之を過群狀態と稱へ極力その消滅に努め來りしは事實なり。而してその過群住居の狀態が衛生上又風紀上甚しく都市の弊害を醸成しつゝあるは今は最早疑ふの餘地なき事柄にして、我國の大都市は事實何れもその恐るべき狀態に行き詰りつゝあるを知る時に吾人は其改善を叫ばざらんとするも能はざるなり。

要するに我國の都市に於ける細民住宅問題は社會上經濟上都市の最大問題の一たるを失はず而して其改善の急要にしてしかも實現の困難なるは吾人の最も努力を要する所以ならずとせず然らばその實現の困難なる理由は如何。

想ふに社會政策の實行その緒に就かざる現狀に於て細民住宅問題が研究されざるは當然にしてその理由の根蒂をなすものは我國一般の經世家識者階級の自覺足らざることならん、吾人技術家の方面より斯かる問題を叫ばしめつゝある現時の狀況は最も明了にその事實を物語るものと言ふべし。

第二の理由としては我國の資金利率高きに失することを數へざるべからず、何となれば住宅建設の如き永遠に資金の固定すべき事業に對しては比較的高利率の資金にては其運用を不可能ならしむるを以てなり。又第三には細民住宅に對する規格の統一なく、材料及施工の亂雜等凡て經濟的多產主義に反したる事情を其理由の一と見るべきが如し。更に之を敷衍すれば安價住宅の研究未だ其緒に就かざることを以て我國細民住宅問題の緊張せざる所以なりと言ふを得べし。

今や本問題は漸く其第一歩を動かし來れるに際し吾人は不充分ながら其運動を助成すべく努力せんとす、目下大阪市及東京市に於て試みられんとする吏員及電車從業員の住宅經營の如きも、目下の如き貧弱なる市財政の狀態にては決して滿足なる效果を齎らし得べきにあらず、須らく輿論の緊張せる後援と住宅法の運用とにより、更に又住宅內容研究の努力とにより國家的に其解決の端緒を開くべきものとす。（畢）

□家屋に對する衛生上の要求

醫學博士　遠山椿吉（談）

予は家屋に對する衛生上の要求を演べんとす家屋と申しても集まりて市街となりたるものは市外としての衛生上の要求あり、茲には抽象的に一般の通論並びに原則に就いて申述べん積なり。

抑も衛生的方面より見て一口に衣食住と申し其要求は一樣なる如く考へらるゝも、食は稍其趣を異にす、何となれば食は空氣の如く人類に缺くべからざるものにして常に新鮮ならざるべからず、住と衣は其性質甚だ類似し且人生に缺くべからざるものとは考へられず、熱帶地方にては裸体にて生活し得られ温帶地方にては住居なくして生棲せらるゝ場合あり、要するに生理的方面より觀れば全く同一なり、衣の大なるものは住にして、住の小なるもの是衣也といひ得らるべし衣を脱して屋内に起居し得べく亦着衣すれば屋外に散策せらる、乃ち人体に不愉快を感せぬ樣、氣候に調和して生棲すべき道具が衣住なり。これ生理上の要求同一なる所以なり。

然るに家屋に對する目的に二樣あり、一は感覺上の要求にして暑からず寒からず人身に苦痛を感せざる樣の注文なり、今一つは理論上の要求にして感覺に愬へざる生理的要求にかなふもの也。

若しも感覺上の要求にのみ馳するときは往々生活の最後の目的に反する事あり、よりて科學

的理論が之を監督し指揮するの必要を見る也。されば此の二樣の目的の調和を成就するの用意をなさゝるべからず。

都市計畫に重要なる衛生的設備は水道也、若し市民が感覺に馳するときは極端に其清淨なるべきを要求して遂に生理にかなわぬ淨水を得べしとせばこれ其目的を忘れたる也。食物に於ても然り白米は其表皮を剝ぎたるものにして感覺上の要求に合致すれども生理的には頗る不自然の結果となり居れり。

住居の如きも亦然り、各種の要求復雜なる丈それ丈不自然の結果を發生せるものあり。學理上今日住居に關する要求は空氣、光、温度（多少の濕度も必要なり）等也、之等のものは家屋の適切に要求する處なれども一度其度を過ごすときは却つて其目的に反馳するの結果を見るもの也。

茲には光線に關して特に申述べんとす。

從來吾々祖先の日光に對する理解は幼稚なりき。光線は其明るさを理解し其意外の必要條例を知らざりき、日光の力は御承知の如く化學的方面の作用は人生に缺くべからず、到底提灯電燈などの及ぶ所にあらず、日光の化學的作用頗る微妙にして偉大なるものなり、然るに別けて我國人は太陽に對して單に其光をのみ認識せる也、この誤解は多くの弊害を釀せり。殊に家屋に對する日光の化學的作用力は絶對に必要なることを怠るべからず。

今一例として左の表を觀れば其威力を認識せらるべし。

日光に對し結核菌死滅時間
- 水 中（直射一―三時間
- 土 中（分散三―五時間
- 純培養（窓前六―七時間
- 喀痰薄層（直射二四―三〇時間

想ふに我國家屋は兎角直射光線の射入を喜ばざるの設備にして甚だ此偉大なる日光の化學力を遮斷しつゝあり。兎角家屋の要求は主として感覺上の要求に支配せらるゝ傾向あり注意を要す。殊に斯種消極的要求に在りては力めて避けざるべからず。將來家屋に於て排斥せられるものにして今日尚避けざるべからざるものは塵芥

なり烟及未塵も避けざるべからず。之等のものは徽菌の宿にして生理的害毒の代表者也、其他汚物の驅除に力むるの要あり、之等生理上の要求は住居に對する第二の目的に屢掩はるゝことあり。殊に之等の主要目的が副目的に遠けらるゝは寒き地方に於て多し、又夏季より冬季に多し、蓋し寒風を避け寒氣を防ぐの目的より生理上の主要目的を無視することと往々に是在り。要するに家屋に對する感覺上の要求は大いに開放的積極的ならざるべからず、之れ吾人の理想也

故に第一に住居に對する要求は其構造に在り

構造上の不適當を打破せざるべからず。殊に復合家屋に在りては無制限無理想不合理なる計畫のために衛生上の要求は兎角破壞されつゝあり

第二に住居の棲み方を考へざるべからず、一度住居の棲み方にして間違ふときは如何なる構造も不可となる、野蠻人は兎角棲み方を誤まりつゝあり。從つて彼等の生理的缺陷は非常なるもの也、斯の二點につき充分の注意を拂はざれば感覺上の目的を達せざる結果を齎らすべし。

今少し分解して說明せんか、

防寒設備の如きは家屋としては主要なる感覺上の要求なり、然るに日光及空氣を多量に容るゝが爲めには防寒の設備には却つて不適當となるべし、則ち空氣と日光とは平行して要求に合致すれども防寒法は之に逆行す、故に家屋の構造は斯の目的の爲に一工夫を要する也、朝鮮の家屋は防寒の目的を遂げん爲めに軒高を少にし紙張にて室内を密閉し溫突（オンドル）を以て煖むが爲めに充分なる光線と空氣を容るゝ能はずして甚だ不都合なる結果を產みつゝあり。

東北の家屋は亦防寒を主とせるが爲めに、光線を眼中に措かず、殊に寢室に於て甚し、蓋し寢室は夜間の室なる故窓を小にして光線を遮斷して生理的缺陷を大ならしめつゝあり、これ日光に對する祖先以來の代表的構造にして又屢々遊廓内の下級娼家の住居に發見する非衛生的構造家屋と同一筆法の遺風也。

斯の種別目的の爲に主要目的を無視せらるゝ例我國に甚だ多し、防火の目的より建設せらる

ゝ土藏造の如き亦好例也、其當初は物品の倉庫に創められたる構造なれども遂に都市の住宅にも應用せらるゝに到れり、又外敵を防ぐの目的より塀を高くし溝を深くせる住居も一種の城廓として發達せり、しかも多くは其副目的を主にして主要目的を無視せられたり。

若し精神上の慰安を主とせる家屋あらんか又生理的要求を失はるゝもの多し、茶室建築の如き其一例也、窓を小にし天井を低くし、簀垂れを設け植込を圍らして故らに陰鬱なる生活を樂しむの風は決して住居の眞目的に合致せず、想ふに茶味を樂しむには斯種の居室を必要とせしならんが、全く生理的要求を無視し盡したる也東都に於ては斯種の住居甚だ多し。

若し又經濟上の打算より家屋を建設する場合を考ふれば兎角斯の副目的が及ぼす影響甚大なり、工場の寄宿舍、宿屋、下宿屋等に於て狹き室内に多數の群居を敢てせしむるの傾向は主として經濟上の要求より來れる也、而して數多の弊害發生しつゝあるを知らざるべからず。

斯く住居の目的が他の目的より破壞さるゝは決して喜ぶべき現象に非ず、其齎らす處の弊害は吾人を中毒し人生を破壞しつゝあるもの也。

人生を破壞するものゝうち最も甚だしきは、病氣なり。病氣は亦住居の弊より發生する場合殊に多し、而して病氣の中にて最も怖るべきは結核病也、結核病は亦住居病と稱せられ不良なる市都不良なる住居に發生せらるゝ事は多數の統計の明示する處なる也。

然らば此の人生の害敵を馳逐するの方策如何極端なる開放生活を試むるに如かざる也、極端なる開放生活とは何ぞや野天生活也、是れ今日に於ける生理的要求の理想なるもの也。

今我國に於ける肺結核死亡男女別を檢せんか男子より女子に多きを示しあり、これ必ずしも我國に於て女子の數が男子を越ねて居るが爲めに非ず、西洋にては男女同率也、東洋に於ては女子の率頗る大なり、これ重に住居の中毒より來れる也、由來東洋は女子を卑むと同時に女子を偏愛し多く室内に籠居せしむ、彼等は全く住

居の害毒を蒙りたるもの也。

今又職業別に於ける統計を檢するに農業牧畜漁業鑛石採掘等に從事するものに病者少なくして室內作業に從事するものに多きは全く家屋の弊害を明示しつゝある也、則ち家屋は開放的ならざる也。

今倫敦の中流階級住居に於ける結核病者及死亡率が室數少なるものに多く群居の弊を知るの好例なるが、紐維市に於ても同樣の結果を見るべし都市住居改良問題の發生せるは偶然に非ざる也、又グラスコー市に於ける住居の種類より學童の發育狀態を調査したる結果に觀るも良住宅の効果著しきを識るべし、ライプニッツ市の幼兒死亡率調査の如きも好參　資料也　殊に我國に於ける幼兒死亡率の甚大なるを住居の不完全に歸する理論上の斷定は決して不當に非ざる也。只不幸にして我國に於ては據るべき統計なきは甚だ遺憾ながら家屋構造上の弊害を受くるは多く寒冷地方なること左表に明示せられたり

日本各大地方結核患者表

（大正元年乃至四年平均）

陸軍人員一萬に對する肺及其他の結核患者

內地	二三、八三	臺灣	一五、九六
北海道	二四、八八	關東州	一九、五九
朝鮮	二六、七三	支那駐屯	二二、六七

臺灣にては開放生活に近く保溫設備の必要なし又寒地にては結病者率甚だ大なるを觀るべし故に家屋の建築は地方の外氣の溫度を注意するの要あるべし構造上に於ける注意は最も必要なるべし。

要するに家屋の築造に關して衛生上の要求は生理上の主要條件を第一とせざるべからず、副目的は第二に描き舊來の弊風を矯正せらるべきを切望す。

今や四十一議會に於ては結核病豫防法案通過せり。宜に國家の慶事也されど結核が住居病なるが爲めに住宅の改良は最も大切なり、都市住居の改良問題が都市の改善と相俟つて大なる効果ある結論を齎らすこと希望に禁へず。（了）

◆都市住宅政策

大阪市高級助役
法學博士　關　一（談）

予は都市住宅政策なる題下に演べんとするものなるが、既に各專門家が各方面より各種の講演をせられたるが爲めに予の述べんとする處も殆んど盡きたるに近し、予が都市の住宅政策に關する意見も要するに諸氏の御意見に在る處と大同小異にして如何にして今日の大都市に密集せる住居の各弊害を防止すべきかに在り。

乍併此の密集群住せる現狀を齎らせる大原因は要するに營利主義個人主義自由放任主義の結果に外ならざる也、斯の結果を觀て都市の改善は兎に角何とかせざるべからざる事となりたる也、今は空想を畫いて天氣に考へ込む時に非ず目前の數多の問題に善き解決を與へざるべからざる破目に在る東京、大阪等の都市に於ける電車の混亂、街路の慘狀、家屋の缺乏等は吾々が日々經驗しつゝある處にして詩人の態度にて對するは不可なる也、最早個人主義自由放任主義に依賴する能はず故に都市の改善、都市の計畫等の研究調査は開始せられたる也、建築界に於ても學會其他の諸君の努力によりて當局者を動かし我國に於て初めて都市の特別なる立法を得たるは寔に喜ばしき至りなり。

乍併法案の制定と其効果を全ふすべき道程とは自から別問題也、法律の制定によりて兎も角都市の事業に一轉期を與へたりとするも、立法の精神を運用して其効果を完了するが爲めには更らに別途の努力を拂はざるべからず。

尙又都市計畫と住居問題とは他の方面より觀れば異なるもの也。都市計畫に就いては茲に喋々を要せず、都市をして有機的組織を完成せんと欲するもの也、住居問題は豐富に且廉価に住居を得んと欲するもの也。

今各國の法制の發達進歩の跡を觀るに夫々差別あり、都市計畫の事業は佛帝ナポレオン三世時代より創められ伯ハンスマンの計畫が先驅となりたる也、米國にても都市計畫の事業發生せるが之と同時に住居問題に世人の注目創まれり然るに、英國の法律制定の順序は全く之と異なれる經驗を示せり。

一八七五年に於ける住居法令立法の主義は、消極より積極に移れるものにして一八九〇年には「シャフトベリーアクト」及「ゾーレストアクト」を完成して一段落を告げたるに最近一九〇九年都市計畫の條令制定せられ從來の法令より更らに大体案に推移せる也。

日本に於ては一昨年來都市計畫法案の制定に努力せしが、其内容の主要問題は一に住居問題に在りといふべし英國の事情と異なれども之を運用して行かば住居問題が現實の問題となり來るべき也。

然らば都市の住居問題は之を如何にすべきや各專門家の意見を綜合するに家屋に對して市民として最低減度の要求あり又社會制策上より觀てミニマムの減度あり、又衛生上、道德上、保安上より觀察し夫々の減度あるべく之等の要求を綜合統一したる結果を事實に解決せざるべからず、寔に文明國民として飽くまで合理的なる住宅の改良を圖らざるべからず。かくて衛生上並に社會政策上より最低減度の要求を確立して之が目的を貫徹せざるべからず。

想ふに最低減度の住居は主として其質の問題に在り、又經濟上よりも考察せざるべからず。故に一方に其質を改善し又經濟上の考慮を加へ更らに斯の意味に於て家屋を充分供給し來りし當面の目的を成就せざるべからず。

然らば斯の目的を貫徹するに其手段如何。之を大別すれば二途となるべし。

第一現在の弊を何等かの方法を以て除かざるべからず。斯の目的を達するが爲には建築に關する住居法の制定が必要となる也、何となれば家屋の構造が完全なりとするも之を使用すべき方法に誤らば其弊の及ぶ處大なれば也、初め倉

庫或は納屋に使用すべき家屋が住居と變ずる場合の如きは衛生上及風紀上の取締を勵行するの必要を感ずべし、又住居に對する密集生活の制限の如きは最も重大なる事項なるべし。

第二に住居法の立法も大切なるものなれども之を運用する監督（インスペクション）必要なるべし、都市の住居監督官の選定は市の名譽職、吏員の選定と共に考慮すべき事項也、斯の點より觀て予は大都市の社會政策上交通衛生保安に關して少なしとも市に警察權を附與するの必要を感ずるもの也、然るに各府縣廳と各市との連絡統一は目下の處兎角不完全なる點あらざるなきか、從つて一面に於て都市が住居問題の監督に關し相當の權限を附與する事は最も必要なるが如し。

監督の方針についても獨逸のエッセン市の如きは社會政策の力を風紀の取締、宿泊密集の檢閲に使用しつゝあり、ハンブルヒ市にては衛生的見地より方策を立てつゝあり。乍併我國の現狀に於ては經費並ひに各種の事情ありて一朝にして之が解決を得べからざるならん。

斯く住居法につき法律を制定し監督制度を設けて都市住居の改善を圖らんと欲するの方策は大体頗る消極的なり、想ふに住居を小額者に附與するの住居法は積極的の効果なからん、工場法の如き其好例なり、吾々最低減度の監督か工場の能率を增進し改良せんとするには効果甚だ薄からざるを得ず、住居法は精神の動作と同一の作用を有すべき也。故に弊害を取締る丈にては不可也、適當なる住居を何等かの方法を以て供給せざるべからず、積極的　供給を易くするの方策なかるべからず。

東京市に於ても大阪市に於ても家賃の著しく騰起せるは昨今の事實也、家賃の騰起と共に又家屋も暴騰せり。斯原因の主要なる原因は土地の價格高くなりたるに在り。其原因は大家屋の建築せらるゝが爲なりとするの說あり又然らず他の原因なりとせらる、何れにしても土地の高價となりたる事實は明かに家屋に影響し來れる也。

乍併土地賣買(Land Speculation)に關して地

價は騰貴するものなりとするの說と然らずとするの說とあり、何れにしても土地賣買の影響を家屋に到來せしめたる也。

予は茲に都市附近の土地に關して一言せん。英國に於ては夙に Garden City. Garden Suburb の經營を創始せしが我大阪東京の近郊と比して英國の近郊は廉値なることを注意せんとす、日本の都會の土地は中央部は却つて廉値なるを知らざるべからず、大阪市の如き北濱附近に於て坪當り二千圓と稱せらる、然るに阪神間の郊外地は三十圓四十圓の叫聲あり、斯くの如く近郊地の地價高きがために市營の住宅は其經營到底困難たるを免れず、想ふに斯の問題は我國に於ては特に注意すべき問題なりと信ずるもの也。

交通機關の發達は都市住居問題に接觸する問題なり。此以外に普通の道路問題あり、東京にては昨今乘合自動車を試み初めたるが今日の日本の都市にては止むなく電車軌道の街路を使用しつゝあるが都市の交通政策上より見れば此平行運轉は大いに考究の餘地あるが如し、マンチエスター市にては斯の種の自動車は運送上に何等の効果なしとせられたり、此外に急速度交通機關(Rabit treusit)出來れば近郊の開發に斯の種自動車の利用大にして土地と住居に連關して影響する處多かるべしとの斷定を下せるが如し然らば交通上の自動車利用は成るべく、伸縮自在なる特別の系統を完成するの必要あらんか。

今更らに市稅の問題に關して一言せんか

都市計畫の財源は兎も角解決の困難なる問題也、乍併米國にては諸種の方策講ぜられ市の事業に起因する地價の騰貴より特に租稅を徵集しつゝあり、我國にては斯種の課稅或は增租は到底行はれざるに近きも多くの土地所有者が地租附加稅を上納するも尙不當の利益を確得しつゝある事情は考慮すべき問題ならずや、地價は上るも課稅は一定不變なる事實は如何に觀るべきか、米國の如きは各市は其市街地の賣買に評價を與へつゝあるを識らば都市の財政が頗る順境なるを想察すべからずや。

次に家屋建築に就いては申す迄もなく多量に

且つ低廉に得らるべきを欲する也、されば渡邊氏の所論の如く各雇主或は公益法人等が相應じて本問題の解決に努力する外良策なし、然らば都市も亦家屋政策を樹立して着々効果ある努力をなすべき也、乍併今日都市が大規模なる家屋政策をなす事は到底充分なる能はず、大阪市の如き年々四萬乃至五萬の人口を增加しつゝあり從つて之等の增員に應じ市の家屋政策を斷行する事甚だ困難にして尙且之を監理するの困難は想像に難からず、乍併既に電車瓦斯其他獨專事業行はれつゝある以上は家屋は營利會社と相對比して市が大規模の經營をなすこと不可能ならん。

小家屋を供給するは頗る不平均なり何となれば小家屋は世上の景氣にて常に變動上下す、故に公共團体が大規模に經營する事は甚だ困難なる樣なり。されど小規模の或點迄の市營は必要とすべし。

大阪市にては昨年試みに小住宅を建設する事を初めたり。

	建坪	家賃	建築費
特別長屋	十七坪四合	十圓	二千百圓
甲種	十二坪九合	八圓	千五百圓
乙種	七坪五合	四圓五十錢	千圓
丙種	十一坪九合	六圓	千二百圓

甲種のものは關西建築協會に依頼して設計を立て乙種のものは懸賞案を採用し丙種のものは市設所土木課にて考案せしめたり、尙此外電車從業員の寄宿舍をも經營中にして一戶三百人を收容すべきもの二百九十二組を建設せんとす一戶千三百圓の豫算なれば總額三十八萬餘圓に達すべし、之等の市營住宅は勿論都市住宅問題の根本的解決に資せんとするには非ず只先にて試に實行して見んと欲する也。

今之等の住宅の家賃に關して研究中なるが市は雇主の立場に在るが爲めに吏員從業員に相當の給與を供するの意味に於て家賃の割引をなすが可なるべしと考へり、乍併無料は大いに不可也、彼等をして住居に對し相當の管理を拂はしむる爲めには或程度の料金を取立つるがよろしからん、現在從業員中の約五割は家族を有す依

つて家族を有するものには寄宿舍の階下（六帖三帖二帖あり）を貸與し家賃四圓五十錢とし獨身者には階上（六帖半及三帖なり）を使用せしめ三圓の料金とせり故杉山氏は階上住居者の便を計り別に階段を設けしむる案を立てられたり。電燈料金は三圓と二圓とせり。

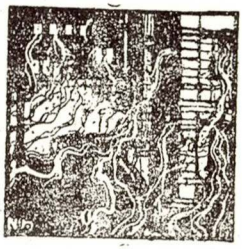
一般に家賃の計算は主義として地代保險料修繕料等凡て算入せしめざるべからず、これ市が大規模の經營をなし能はざる爲にして社會政策上あまりに安價ならしむる事は考ものなり。

尙住宅問題解決の一法として勞働者に家を委托せしむるの可否についても種々の意見あり、社會救濟會の意見としては之を可とせり英國に於ても同樣の見解也、乍併主義としては保守的にして缺點あり、勞働者が一軒家を保つといふ事は却つて遠くより通勤する事となるべく雇主としては勞働者の固定するは可とするも物價の暴騰する場合には或は同居人を宿する弊害起り得べし、マンハイム市にても斯の例起れり、故に唯一の解決法にあらず。

又市が家屋を監理するは困難なり、グラスゴーなども其困難の實例を有せり、兎も角貧民窟に於ける生活は自治的精神を指導せざれば到底監理するは困難なる事なり、故に住宅問題は家の問題に非ずして人間改善の問題とせらる。

要するに住宅問題は一方に理想も必要なれど同時に實際につきて考慮する處なかるべからず解決に向つて各種各樣の方法ありとするも各箇が萬能なるに非ず、什うしても各方面より解決の道を求めて策應せざるべからず、則ち市營住宅も一策なり田園都市も良案なり、建物會社も決して排斥すべからず其他大會社、大工場主等の經營が一樣に併進するを必要とす。

片岡氏が本問題の根本的解には到底小規模の住宅經營は何等の効果なしとの斷案は寔に同感にして予も亦決して市營住宅の二三實例を以て解決の一歩を開きたりとするものにあらず唯現時は何事も經驗時代試驗時代なり、須らく各方面の統一的研究により將來の本問題解決に着實なる努力を盡されん事を希望して止まず。（丁）



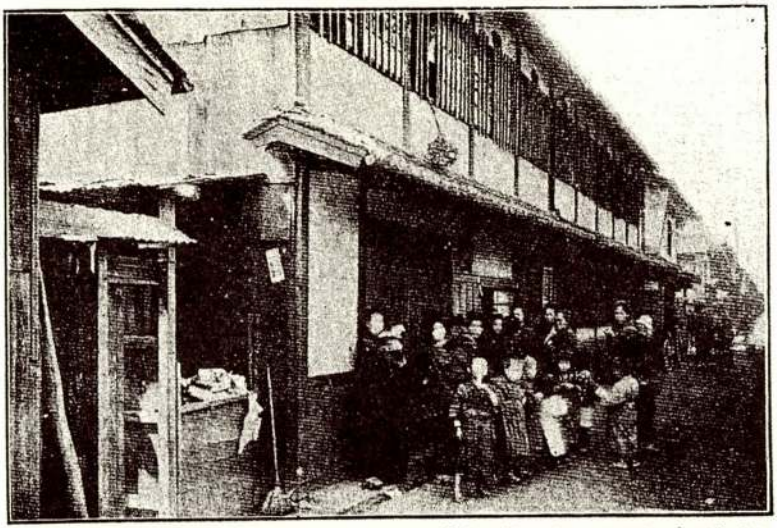
北長柄のダークサイド

―都市研究の一資料―

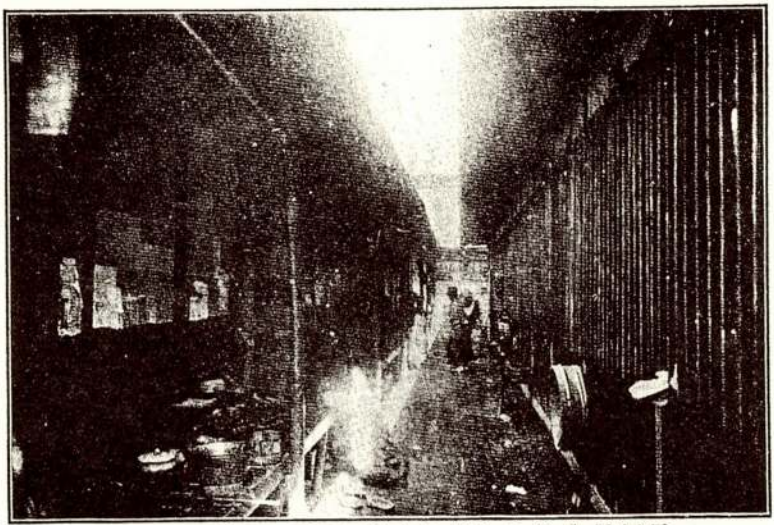
郊外生

若し、都市を以て一個の有機的な生活體なりと做すことが謬りでなかつたならば、人口の平均密度に於て世界の大都市中第四位　該り、三十幾星霜の比較的短き時間に於て約七倍の人口增加を示し、而して、其包容せる人口は正に世界有數の都市中第七位を占め、尙最大膨脹率を以て進みつゝある處の我大大阪の地は、實に、罕なる巨人として、其横溢せる精氣と隆々たる筋肉を有せる處に幸ち多き健康體なることを祝福せざるを得ない。けれども斯の巨人は、他の都市病と等しく今確に幾多の怖るべき疾患を藏して、其健康體の將來に聊か懸念を禁じ得ないものがある。頃者既に成案となれる『都市計畫法』及『市街地建築物法』の如きは、其目的　正さしく、完全なる肉體美的の理想都市建設に在らんも、斯る疾患は、都市計畫上最も研究を要すべきものである。而して　其所謂疾患とは、實に、都市のダークサイドにして、就中、世の生活より呪はれ社會のドン底に追落されたる處の所謂『細民』達が、其荒める心を抱きて呼息を續けつゝある事實も亦其一つである。わたくしは、今、之等の人達に就て北大阪の一角に得たる見聞を此處に書いてみたい、單り社會觀として許でなく、吾れには心を傷める涙と共に、全体としての幸福を冀ふ處の都市研究の

大阪北長柄細民住居の一部



九十九戸ミ人口三百の大家族を包容ゞる下宿業（木賃宿）三河屋の外觀（記事參照）

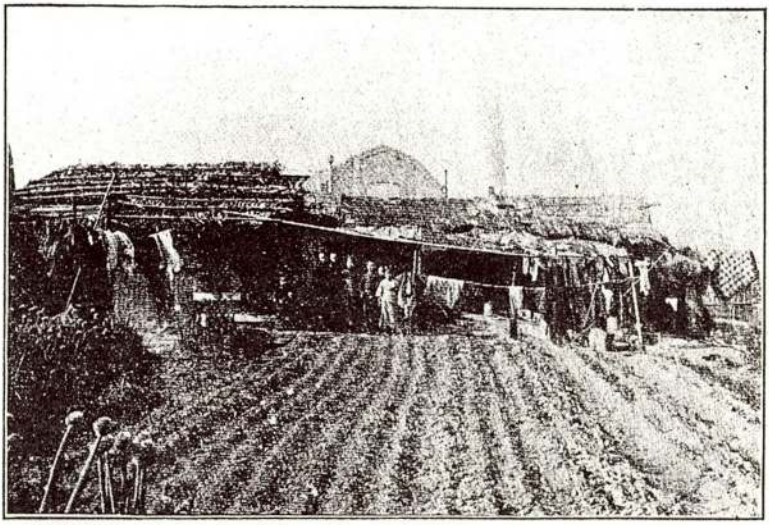


三河屋内部に於ける密集生活の一部（記事參照）

大阪北長柄細民住居の一部



長柄の或路次内に於ける細民住宅の一部一戸内に二組又は三組以上
密集生活を爲す（記事參照）



北長柄新淀川堤防上に於ける細民住宅の一部（一聚落を成しあり）（記事參照）

一資料にもと此處に誌すことゝした。

▲流れのはけ口　滔々として人波打てる大阪の地を一とつの流れと觀たならば、大阪の外廓は正さしく其流域にして、扨が流れのはけ口は、北大阪の一角、長柄の一帶を以て其一とつである。と謂ふて可い。何故ならば、斯の『大阪』なる人の流れに溺れたる處の『社會の落伍者』と名けられし人の藻屑は、北に其流域の竭くる處長柄の一帶に打ち寄せられ、見るもいぶせき幾多の群れと殘骸徒に寒くして累々たる呪ひの屑をばしてゐるからである。或は、世の藻屑と成りて斯のはけ口遠く流れ去りたる者も亦鮮からざることであらう。げに　北長柄の一帶は、斯の大都市の流れに漂へる癈殘者の總に其生の絡綱を支へて、無殘なる骸軀を横へ世にも酸鼻の景光を畫きつゝあるの地である。

▲其分布の狀況　夫れ等癈殘者は奈何なる分布の狀態に於て、殆んど世の望みを忘れ、唯荒廢せる刹那刹那の生活を追ひつゝあるかを知らしが爲に先づ其地理的圈圍を誌さむに、東に淀川の堤防を、西に東海道線の軌道を界とし、南は天神橋六丁目の市郡界より、北、新淀川の堤防に到る東西約四五丁、南北約五六丁の圈内に散在して、見る目も慘な密聚的生活を爲してゐるのが以下誌さんとする處の人達である而して、之を聚落別に觀た歟、東は、淀川縁りに在る東洋製紙會社の東手、南は鶴滿等より西へ天神橋筋東一丁目、北は、北長柄の大阪市弘濟會授産部の建物附近、西は長柄橋南詰を東へ入る路次内等に在るのを主なるものとし、豐崎町本庄千十七番地より千二十番地に到る一廓に八十戸、同千二十五番地に四十戸、同九十六番地に四十戸、鶴滿寺の西百一番地に約百十戸、長柄巡査派出所の東八十六番地に百戸、同九十四番地に百五十戸、上記東洋製紙會社の東手淀川堤防附近に約四十戸、同堤防下に蚊帳又は襤褸の天幕生活を爲せる者約六戸、其他、豐崎町本庄に於て、木賃宿に屬するもの二十戸あるも其實二疊乃至四疊位の室に割據して事實上一戸を成せるもの一千四百三十四戸　斯くて　夫れ

等の總戸數二千を算し、總人口六千に達する。蓋し、大阪の外廓に於ける斯の種の部落としては最大に屬するもの一つである。而も、或る壓迫に因り、大阪の南部今宮其他の細民地區より流れ來る者尠からずして、一層膨脹の傾向を示せりとの評がある。

▲生活狀態　記者は、先づ、豊崎町本庄即ち天神橋六丁目の巡査派出所角より三丁許西へ入りて南へ折れたる處に在る三河屋といふ下宿屋―木賃宿―に於ける密聚生活狀態より始めて、新淀川樣り日本製紙會社東手堤防に在る屑板葺やアンペラ葺の鷄小屋式の居住生活から、癩患者の襤褸切れ天幕生活に視察を下へたのであつたが、其間多少生活狀態に懸隔を附すべきものなきにあらざりしも、概して云はゞ、殆むど動物的な生活なりと謂ふて差支がないと思ふ。其此處に迫べる原因の如何は今探究するの要はないが、兎に角斯の人々は倫理的にも法律的にも我等と何んの距りなき筈であるも、事實は社會の外に蹴落されて其荒める冷な心で唯『時』に曳摺られつゝ『生』の事實を追へる外何んの望みも平安も無い人々と想へば、酷く吾等の心を刺すものがある。今此處には、吾が視察して得たることを一々誌すの余白を有たないから、代表的に右に誌した三河屋と新淀川堤防に於ける夫れ等の人々に就て誌すことゝする。

前にもちよつと誌した通りに、「下宿屋」と銘打てる之等の木賃宿は、所謂下等旅宿で、集散常莫き渡り者の僅か幾夜の足溜りと大概な人は想ふであらうが、實は決して斯うでない。要するに、其下宿屋なるものは所謂「大家」さん又は「家主」さんで、其下宿の人々は、所謂「店子」若くは「借家人」なのである。三河屋は寫眞にて示せる通り、一見合宿所風な間口九間奥行五間の一構へにして、其表入口より右に折れ、幅三尺許の土間を中央にして兩側に十六戸、其裏手に、雨樋を廻らして、間口六尺のもの背中合せに四十八戸、其南手に三尺許の通路を距つて間口十二間許の二階建バラックがある、其階下に、是も三尺許の土間を距つて、間口六尺許

のもの兩側に六戸づゝ相對し、階上亦三尺許の廊下を中央に二十二箇の室が殆んど等分に相對してゐる。其階上のものに到りては比較的清潔にして、一戸三疊又は四疊半位なものあるも、其他は孰も二疊一室のみで、斯の三河屋なる一廓に戸數九十九、人口約三百の集團を成してゐる斯の二疊の內に、大部分は三人、五人、甚しきは六人許の家族が占據してゐるので、出入共一方口な破れ障子より自然的に換氣は行はれあるでもあらうが、壁一重に密聚してゐる斯の人々は、唯混濁せる呼息を交換する意味に於て換氣が自然的に行はれてゐるものと謂ふ可きである我等が生存權として自由に取擇し得る大氣にすら斯くの如く既に見放されてゐる許でなく、太陽の光線からも斯の人々は薄幸な人と成つてゐる、扨は纔に或一部を除くの外、其室內否屋內は、孰も殆んど暗黑ともいふべくして、終日太陽の光を受け入ることは無い。其樣な二疊程の處でも之等の人々に取りては、所謂住めば都かも知らないげれども、記者の一見した直感は、人間の住ひといふよりは、寧ろ、動物の檻といふ方が適當かも知れぬ程な慘めさである。晝間既に被樣である、夜間に到りては、或一廓の如き隣り合せな壁一重の最上部中央に孔を穿ち、是に塵と煤とにて灰褐色に成れる電球十六燭光一箇を取り付け、他の一廓には、土間の中央に十六燭光五六箇を釣して、其如何にも物倦げなほの暗い光を天井越しに、又は破れ障子を通して各室に拋げ掛けるのが、唯一の燈火裝置である纔に膝を入るゝ程な二疊許の室內でも、斯ういふ人々に多く有り勝な一種の卑吝は、碌でもない瓦落苦多道具で、唯一の餘地たる二尺餘りな雨樋から室內へ掛けて可成り塲所を塞ぎゐるのが多いから、其垢と塵とで黑褐色に成つてゐる破れ疊が起臥に利用され得るのは、大概四五尺位なものと謂ふて可い。

其住居既に彼樣な狀態で、木賃宿と呼ぶも事實は斯くの如く一戸の定住者としての密聚生活である。併し、此處に面白き現象は、其生活が之等の二百乃至三百許の人々を一團としたる一

種の共同生活であつて、之等の長屋全体に二箇の井戸と流し場と、二箇所に五箇の竈と、更に一時に四位這入れる方形の浴槽一箇と四箇の便所とを有せることである。炊事場の如きは、次から次へと竈の明くのを待つて、兎にも角にも斯の二三百人の一大家族、百戸近い一部落の炊事が運ぶのである。併し、之等労働者達の常として、一膳めし屋抔に駈け込むことが少くないから、兎にも角にも片付いて行くのは不思議もない譯である。殊に、共同浴場に到りては、一定の不文律があつて、入浴時間を午後六時より十時までとし、婦女子は午後七時後にあらざれば入浴を許さない、即ち先浴権が無いのである。而も、毎夜風呂を沸すのだそうなが、是も炊事と等しく男子抔は外で入浴することがあるから、一箇の浴場で是れ丈けの者が片付いて行く譯なのである。

以上は、住居を中心として誌したのであるが扨て、夫れ等の人々は一体什ういふ職業の人達であるか、其収入との關係は如何といふに、先づ、概して、下級な土方や人足、坊主や遍土の物貰ひ、羅緒仕替、下級職工、紙屑拾ひ、其他賣春婦抔が多い。併し、遖かに近來までの事業界の好影響は斯るドン底にまで迫ぼして、土方や、人足、下級職工抔に到りては一ケ月平均二十五圓位から三十五圓位までの儲けがあり、家族の多くとも或少數の例外を除く外、三人五人に過ぎざる上、斯る場所に、其家賃一日十七錢布團一枚付いて、十九錢、敷と大各一枚づゝ付いて二十一錢とかいふことであるから、或者に至りては斯る境涯より足を洗ふの時機を捉へ得るの決して難事ではないのであるが、斯の人達には、現在の儘では到底永久に浮ぶ瀬はあるまい、といふは、之等の人々も所謂細民通有の慣性たる惰怠と間食と飲酒と賭博との習癖に虜はれ、内省の念も其機會も無いのである。而して今此處に誌す事は以下誌す處の細民なる人々に就ても同様に説明し得る事なのである。併し、斯の人々の中にも遖かは、蔽はれある良心の光りが時に閃くこともある、記者は或一人に就て

訊いてみた『三十圓許の收入を得られ而も家族の二人や三人で君方は何故塲末の家でも借つて眞面目な生活を欲しないのか』と、處が答は確に眞面目である『眞實く私もウソ思ふて、實は恁麼處に居るのが厭で〳〵ならぬのですが扨て脫け出るとなると什うも此の障子一重が越せないのです』と、確に斯の人々は其環境の虜なのである。精神的に斯ういふ人達を、呿！と手を引いて引き抜いて上げるのは、一廉信者振つた空氣焰を擧げて、康い道のみを選び智識階級や金持ちでなければ事實上相手にせない大正のバリサイ宗徒やサドカイ達の窺ひ識る處ではあるまい、ちと斯ういふ人達に誨へて貰ふが可い。

是はつい軌道を脫れたが、記者は、一足飛びに、北長柄の新淀川邊り、東洋製紙會社前の堤防に筆を進めることゝする。此處には、三十戶許の聚團を成してゐるが、家屋は、人の居住といふよりも寧ろ鷄舍か然らずむば豚小屋、少々負最目に見た處で番小屋位なもので、板切れ、木屑、アンペラ、古鑛力や古トタン抔が之等の家屋構造の材料である。而して、大概三疊か四疊位で、呉蓙か蓆を以て疊代用にされてゐるものが多い。屋内は、郊外に不似いにも光線が這入らず薄暗い中に群居してゐる。中には、二十五度位も傾斜してゐるのもあつて、縦に細い一二本の支へ柱に危く倒壞を免れ平氣で居住してゐる者もある。之等の人々に特有な習癖の一とつたる處の不潔を厭はないのは勿論な事であるが井戸水に下水と屎尿抔の浸透してゐるのも餘り苦にならぬしく平氣で飲用してゐる。斯の三疊位な處で家族の五六人も起臥し或は二組位の家族が群居し此處にも所謂過渡生活が行はれてゐる彼樣な掛け小家は前記分布狀況の處に誌した部落にもちよい〳〵あるが是で以て家賃一ヶ月一圓乃至二圓許だとのことである。此處に居住してゐる人々の生活狀態は前に誌した處と大差はないが或一人の比較的富有なのを除く外、其生活は寔到底想像も及ばない荒める慘なものである。記者は、是に就て大同小異なる事を再び誌すの煩を避け此處に在る部落の人々や、前記

分布せる各部落の人々に就て大觀した上から誌すことゝする、斯は、其生活狀態が概して同樣なるが故である。先づ、居住の狀態よりすれば一戸の相當な外觀を有せるも、一旦其内部に踏み込で見む歟、二疊又は三疊を一居住として一戸二組或は三組も居住し、而も、二疊に六人の一家族が住めるのもある。其他、一家族三四人は普通で、是が總に三疊稀に四疊位な處に幾組も群居してゐるのであるから、風紀や衛生抔といふことは殆むど問題でないのである。されば斯る人々が互に相影響し合ふのである故に、增々荒める生活に到底浮ぶ瀨の無いのは當然な事であらう。而して、其習性たる怠惰といふことも隨つて、收入の少いといふことも、更に亦、多くの惡事の行はるゝといふことも、一面には斯の居住關係より來る生理的原因にも歸し、又、互に循環的因果關係にも歸することが出來得る、といふは、彼樣に二疊か三疊の處に五六人も起臥せる結果、斯の人々は殆むど每夜熟睡を得ない、二疊の家に六人も住んでゐる者の如きは、一疊に三人づゝ並行線を書きて釘付けの如くに成り、寢返ることすら容易でなく、時には斜に又は疊を横に膝關を屈して寢る、兎も角安眠は到底斯の人々の物ではないのである。されば、或者は夜働き或者は晝勞すといふ風に、交代して眠り、充分なる勞働能力を有ちながら働くとの出來得ないので、是は斯の人々の間に見受くる處の珍しからざる事實だとの事である。

其職業及收入の上から觀ると、前にも誌た如く、矢張、下等土方抗打ち、下級職工、羅緒仕替、下駄直し、下級仲仕、人足、立ん坊、物貰ひ、紙屑買ひや紙屑拾ひ、而して、此處にも、賣春婦の多きことは一種の内職の如く成つて居り、之を餌に强請などを遣るのを職業の如くなしてゐる者も隨分あるとのことである。中には、正直　收入を得る者も決して少くないそうであるが、飮酒は勿論の事、口腹の爲に生きてゐるかの如く喰ふ事と二人寄らば忽ち賭博と成り是が殆んど通有な性癖である。殊に、斯の人々の多くに取つては奈何に廉耻といふことが殆んど

三文の値打も無い程良心が因習的に摩痺してゐるかといふ一事實がある、夫れは賭博の資本に竭きたとき、其女房達を幾日かの間賣り渡し、彼れ亦平氣で洒々是に從ふといふに到りては、最早獸性の塒内である。博賭や飲酒、又は盛に間食を爲す事抔は、單り夫れ等の男許でなく、女達も相讓らないのであるから、殆んど手放しに惡習性の軌道を奔るのであつて、其處に何等の制御も省察も無い、其軌道の竭くる處即ち濟ふべからざる死の谷底である。殊に、見受くる處、斯の人々には、遑に天成の鮮らしき活氣が何處となく漂ふてゐる處の可憐な子供が澤山ある、斯る園圍氣中に呪ひの生活を爲すとは比較的白地を有せる之等無數な子供等を亦呪ひの人と爲すのである。されば、斯の人達に對する問題に聽て亦其子孫に對する問題である。聞く處に據れば、之等の子供は、學齡に達するも殆んど、全部不就學で、最初は所轄警察署抔の强制的說諭によつて餘儀なく就學せしむるそうなが決して續かない、次第に登校せないようになつて終に殆んど全部事實上退學といふ有樣であるそうな、さればとて、之等の子供を働かしめて家計を扶けしむる必要上斯る事情に到るかとも見られるが、事實は決して斯うでない、僅に少數の者を除く外は、就も賭博的の遊戲抔をして徒に日を送つてゐる、若も警官や學校の先生達が說諭にでも行くと、斯の人達は曰く『俺れの子だ學校へ出そうと出すまいと、お前さん達の指圖を受けない』と、斯くて次いで見舞ふのは鐵拳である、扨てこそ此處許りは治外法權であるそうな。幷は兎も角として、又、一面には、骨身を惜まずして眞面目に稼ぐも、種々な事情は飽迄も薄幸な境遇に餘儀なくされて斯るドン底に沈淪してゐる者も少くない。現に其一例として、或一家の如きは、四歳と八歳及今一人の子供三人に六十三歳の老婆、主人が四十二歳其細君が三十七歳、斯の六人が一日一升五合位の米で命を繋いでゐる、主人も相當に働くけれども種々な事情で到底追つ付かない、斯ういふ人達も隨分ある。されば、其結果として、之等の子

供が店先きの喰ひ物を掻つ去る位な事は殆んど常事で、其筋の人達も到底一々修德館(感化院)抔へ送るに耐へないと云ふてゐる。

斯くの如くに、不規則な生活、密聚せる生活營養不良な生活、陰濕な居住生活、賣春生活、唯儲くるに委して口腹の慾を追ふの生活、之等の結果は其疾患の上にも現はれて、子供としては、胃腸病、禿頭病及其他の傳染的皮膚病、女としては、黴梅、肺結核、子宮病、男としては黴梅性疾患、肺結核、神經痛殊に座骨神經痛、之等を通じてトラホーム、主として斯ういふ疾患が頗る多いそうである。而して、記者は斯ういふ人々の間に存する死亡率を調査してみたが今容易に之を確むるの材料を得難かつたので、此處に掲ぐるの便宜を得ないが、擔當警察官の話では概して多いことを推定し得るとのことである。左もありなんと想はるゝことは、常識よりして肯定し得らるゝことで、三十餘年前倫敦市の一貧民部落で調査した死亡率が一千人に付四十人以上なりしものが其後、職工階級家屋改良法律案の通過に依りて、其居住に大改造を加へたる結果忽ち其三分の一強に低下した事實、(片岡安氏『現代都市之研究』)に觀ても、三十餘年前に於ける英國の貧民窟に讓らざる之等の人々殊に殆んど何等衛生防備的施設の無き我大大阪周圍の細民達が死亡率の高度なることは、蓋し間違ひのない事と想はれる。

以上は、ほんの大摘みな概略を誌したに過ぎないが、都市研究の上に於て多少觸接したる材料を得たることゝ、少しにても之等人々の心理を解し得るの資ともならば幸である。記者は之等の人々に就て將來尙研究を進めて行き度いと考へてゐる。其細綱に到りては亦本誌を汚す機會があることゝ思ふ。本調査に就ては、波江工學士の同伴指導されたことゝ、當該區落改善主任矢倉警部補の御厚意を謝す。尙細民住宅問題の見地より更に波江工學士の所見を次號に掲ぐる筈である。が該部落の輪廓だけは以上で多少書き得たことと思ふ、而して記者は其收納し得た處を左に誌して斯の編を結ぶことゝする。

▲之を要するに　社會のドン底に沈淪して、所謂『生ける屍』たらんとする無數の人達が彼樣に北長柄の一地帶に其悲慘なる一聚團を成せることの事實は、嚮て、我大大阪の他地點に於ける幾多の同樣な事實を推し測られるのである。宜べ、日本建築協會理事長片岡工學士の曾て天王寺署部內椎寺町の一部、難波署部內西濱部落及關屋町等の細民家屋九百八戶に對して實測せられたる結果、一人平均二百立方呎、最低十立方呎乃至二十立方呎の容積に生活しありて、即ち、英吉利に於ける之等の最低可良容積を五百立方呎內外とされたるに對比して、其半ばにも達せず、而も甚しきは其二十分の一にしか當らざるの事實を得られたるより稽ふるも、密聚過群の生活即ち尙幾多の悲慘なる生活團體あることを推し測られるのである。之を純然たる人道問題よりするも、又、一般社會問題としての見地よりするも、乃至は、都市計畫の立脚點よりするも、何んとかして之を解決するの要あることは、今更此處に繰說するの要はあるまい。惟ふに、都市問題の中心は、實に、居住の問題である。而して、居住の問題は亦實に其家居の改善整備の問題である。救世軍の創建者故ブース大將は、曾て其大著『倫敦の生活及勞働』中に『之等の家族(貧民達)は中流人士の廐舍よりも尙不潔の生活を爲せり、而も、其多數なる貧民は一家族一屋の裡に起臥し、其甚しきものに至りては、一屋內に五人乃至八人の一家族が群棲するの餘儀なき也』と云ふてゐる。又、ダールドなる人は曾て『數十に上れる多數の家族が蜂の巢の如くに家屋內に群居するは、家庭の獨立と趣味とを害すること最も甚しく、殊に家族の各自は絕へず他の惡風を目擊するが爲自然に夫れに感染するの虞あり、兒童は斯くの如き狹隘なる家庭裡に自由なる遊戲を爲し能はざる爲終日路上に馳驅して、曾て、之を監視する者なし云々』と斯くして、竟に世襲的の貧民を生ずるに至るのである。上記北長柄に於ける事實は、正さに斯の二者の言を當て嵌るに適當なるものである。之と同時に、我大大阪都市の改善に於

て先づ之等の問題を處理することが吃緊な仕事であらねばならぬ。斯る人達の居住問題は、單に都市健康の問題や都市の美觀問題許ではない實に、之等の人々を其脫し得ない沈淪せる環境の虜より解放して、其人達夫れ自身の救濟は勿論、都市社會的の改善方法としても、先づ、其凡ての禍源たる密聚生活より解放することである。今より三十六年前英國政府は斯の細民家屋問題に着眼して調査を進め、千九百年既に倫敦府に於て其一大改築を決し、仮りに一家族に二箇の居室を與ふることゝして、約四十萬戸の改築標準案を立てた。其他、ピーボデイー信託會社の經營せる最大の慈善長屋の如き、或は、貧民ホテルとしてのロートン館の如き、其他、自治體に於ける幾多の細民住宅施設事業の如き、既に多くの實例を示してゐる。我大阪市も這回の都市計畫法に據り何れ斯の問題にも當然觸るゝことであらうが、斯る問題は、都市膨脹の趨勢が昂まるに比例して益々其幅と層を擴張しつゝあること、從來其事例に乏しからぬ、最大膨脹率を以て進みつゝある我大阪に就ては、一層斯る事實の厲なることを推測するに難からぬされば斯の問題の解決は決して一日を緩ふすべからざることと惟ふ而も、比較的難事業なると共に重大問題たるを失はざるが故に、一日も早く具体的に其施設の起らんことを望む。



住宅問題の前途

會員　城南生

（一）

住居は人類生活の根本的要素の一である。古來『衣食住』と併稱せられて最も重要視せられてゐる筈であるけれども必然的要素でない丈に兎角輕んぜられてゐる傾向がないでもない。殊に氣候温暖なる我國に於ては割合に住居に關する執着が頗る淡泊であつて國民生活にあまり大なる部分を働いて居らぬと觀られる樣である。

何となれば近時住居問題の高唱せらるゝに係はらず小數識者間の研究に悉せられて國民の大多數は關せず焉たる形勢に在ることは明かに指摘し得らるゝ事實であるからである。乍併國民各箇に在りては夫々直接住宅の拂底、家賃の暴騰家屋の不完全に閉口して居るのである。唯之を社會的問題として講究するの道に出づることを試みない丈である。そこで識者は聲を大にして米問題と同格に取扱ふべき問題であることを叫ばさるを得ない結果となつてゐる。

乍併、我國刻下の狀況は世界的進運に立遲れて居るが爲めに住宅問題の内容は頗る復雜となつて居ることを觀察せざる譯には行かない。何となれば我國の殆んど全部の住宅は今日大改造を斷行せねばならぬ境遇に押詰められてゐる。從つて單に住宅問題と申しても歐米諸國の事例と頗る其内容を異にしてゐることを注意する必要がある、否更らに〳〵根本的に研究を斷行しなければならぬと同時に我國情より打算して我國特種の解決法を講ずるの必要がある譯である

我國現代の國情が歐米諸國に立遲れてゐる點丈を考へて觀ても、歐米諸國の調査材料を參考として直ちに我國に當嵌めんとするは甚しき誤謬といはねばならぬ。什うしても本問題の解決を導かんとするならば目的を遠大にして根本的に氣長に着實なる成績を期待するの必要があるからである。

都市に於ける住宅問題の發生は決して最近に起つた事實でない、都市の膨脹に伴つて從來絶へず附隨したる問題である唯識者すら注意を怠つて居たに過ぎない。されど今日急激に解決を欲しやうとしても夫は無理である泥繩式である唯夫れ無理を遂げ、泥繩を結ぶの破目に陷つてゐる現狀を如何に脫却すべきかが問題であるのである。

私は住宅問題の光明ある前途を一日も早く到來せしむる爲めには『急がば廻れ』の古訓を實行するの必要を認むるものである、焦眉の急要を感するが爲めに益悠々着實なる行動を執らんことを切望して止まない。

（二）

既に都市計畫の事業すら永遠に亘る大事業である。都市住宅の前途を眞面目に考究するなれば須らく永遠に亘る大事業として研究の根本義を確立するの必要がある。我等の時代に　時的姑息手段を執つて或種の成績を擧げ得たとしても、次の時代に到つて行詰つてしまつたならば要するに多大な犧牲を抛つ事となるのである。

殊に我國都市の現狀を觀察すれば益々永遠の事業たることを忘却することは出來ない樣である。既に我國諸都市の詳細な調査材料がない以上は單に外國の事例を參考として指を染むるは輕卒の誹を免れないと思ふ。都市計畫にしろ住宅問題にしろ、之を施行解決せんとするのは我國の諸都市である以上は我國の都市の現狀について愼重の注意を拂はねばならぬ事である。

唯何事も立遲れの我國現狀には不備不滿の事項が甚だ多い。さればといふて過去の成り來つた事實は寔に生ける材料ではあるまいか。我國諸都市が直ちに其内容外形を歐米の諸都市と同等

に近きものと速斷するも不可なれば、徑程いやが上にも甚しきとして輕視するも愼しむべきである。

要は我國の都市計畫にしろ又住宅問題にしろ我國狀に適應せしむる丈の工夫を必要とするのである。寔に歐米諸國の從來擧げ得たる成績を通觀すれば蓋し思ひ半ばに過ぎるものがあろう。獨逸の住宅經營は必ずしも英佛の方針と一致せざるものがあろう、佛米の都市計畫は亦獨英の夫と異なれる事由を有するや明かであろう。

然らば我國に於ては亦我國情を無視して事を謀ることは出來ない事である。

由來我國諸都市は封建時代の城下町から發達して來たものが多い。從つて都市の本体は士族町であり住宅町であつた。それは丁度獨逸の諸都市が各聯邦の首都として地方物質の集散地であり地方政治の中心地となして居たもので甚だ我國諸都市の成立に類似して居る樣である。

乍併、近代產業の勃興に順應した施設を斷行し舊骸を脫胎し、新文明の基礎を立てゝ十數年今日漸く其悲觀時代を通過し得たる其成績は結果より觀て成功であり他山の石に相違ないが、そこに國家を擧げて商業本位の都市に改造することに輿論を誘導理解せしめ斷々乎として根本的改革を敢行した其根底に彼等の好んで謀れる永遠の事業的精神の勃興が過去の都市を如何にすべきかにつき彼等獨特の工夫を凝らした事を見逃してはならぬと思ふ。そして彼等は決して他國のやり口の摸倣を事としなかつた。亦必ずしも急かずあはてず、着々所信を斷行する丈の驚くべき事業の繼續を不斷に努力したにある。

彼等の成功を觀て吾亦彼等と同一徹の成功を擧げ得べしとなせばそれは甚しき理屈である。殊に、彼等の諸都市が多くは大陸的內地山間の名色であることも見逃すことが出來ぬ。我國諸大都市が多くは海岸に近く三角洲の上に立てられて居ることや之等の都市の周圍には必ず水田の包圍せられてゐることや、都市の地盤薄弱にして大陸的地質に非ざる等は頗る研究に値する

事項である。しかも舊來の城下町が何等の計畫なく何等の考慮なく、何等の工夫なく何等の制裁なくして發達し來りし事情は頗る割增をして考へねばならぬ事項である。從つて都市の整理を斷行して近代商工業都市に改造することはやがて住宅本位制、士族町本位制或は商店住居制の根本的破壞であつて同時に都市の住宅問題は根本的に調査を開始しなければならぬ筈である

既に東京市に於ける大名屋敷跡の大邸宅地の整理や、大阪に於ける商家住宅の改造に就いては我國獨特の工夫を凝らさねばならぬ大事業である。況んや我國都市の住宅が殆んど不完全なる木造建築であるに於てをや。

(三)

我國の住宅問題を細別して觀れば

〔イ〕細民住宅問題及勞働者住宅問題

〔ロ〕中產階級住宅問題及薄級者住宅問題

〔ハ〕上流階級住宅問題及大邸宅問題

に區分せられる樣であるが、歐米諸國に於ける住宅問題は主として細民住宅問題及勞働者住宅の改善供給に集中されてゐるが、我國に於ては以上三別の諸住宅を悉く考慮するの必要に迫られてゐるのである。

殊に市內往宅が尙舊來の木造家屋本位であり て目下の處中產階級者の住宅の如き亦頗る脆弱危險性を帶び、大邸宅すら徒らに其量を橫に增大するに過ぎすして耐火性耐震性並びに永久性を帶びて居らぬことは、恰も細民住宅が其量に於て質に於て五十步百步の差に過ぎぬ事を觀て住宅問題の前途は頗る多難多事であらねばならぬのである。

又各住宅の宅地が過去の亂雜放縱に區分せられたる儘にして何等の整理をも斷行し得られぬ現狀は既に根本に於て住宅問題の解決の如何に困難なるかを偲ばざるべからず、況んや經濟組織の亂雜にして幼稚なる我國家族本位の舊風より傳來せる數多復雜の日常生活法を繼續せる我國、日々切迫しつゝある各種の生ける問題が未解決のまゝに放任せられつゝある我國、將來に對する何等の成算なく確信もなき我國に於て、

住宅問題は、決して本問題のみを特別に容易に解決し得られざるを觀察すれば、什うしても根本的に多方面の調査に着手して永遠雄大なる進歩的工夫を案出しなければならぬ。そして終局の立脚地が遂に國家を擧げて我國民は將來如何に生活すべきかと申す生活方法の改善からやらねばならぬ事に歸着することであろう。

□□オーエンと英國社會の救濟制度□□

オーエンは酷薄なる資本家を以て中古暗黑世界の再現なりとなせり、彼は實に英國に於ける道義的社會主義論の卒先者たり。彼は自ら『新道德論』を草して世道人心の一新を唱へたり。彼は人類の共同生活を以て天理に順應する至善の主義と信ぜり。オーエン常に言へり『吾人は昔日の私慾界と今日の道義界との間を流るゝ『ルビコン』を渡りたり。今日は正義公道に基て人世を解決せざるべからず』と。而して道義界の救濟や政治法令の力に賴らず、專ら共同自助の方法に之を求めんとするは彼の主眼とする處なり。彼は遂に蘇國クライデ河に沿へるニュラナルクの地に於て其經理せる紡績等に共同自助の新組織を適用せり。彼は節酒の規約を定め家庭の娛樂を改良し夜學と圖書館とを創立せり。尙之を以て足れりとせず、彼は人生陶冶の源をば必ずや稚兒の裡に求むべしとの說を立て自ら英國幼稚園の始祖と爲れり。



我邦現代の住宅を如何にすべき乎（上）

會員　小笠原鈔

【一】

近來住宅改良の問題が大分喧しくなつて來まして、一般の注意を喚起する樣になり、本誌に於ても、名流の住宅に對する御意見が種々發表されて居りますが、要するに、在來の日本家屋が現代の生活と大いに一致を缺いてゐるが爲であることは最早疑ふ餘地のない事であると信じます。

乍併、議論だけで家屋の改良は出來る譯なものではありませぬ、今迄隨分理想的家屋改良論を說かれて居りますけれども、所謂言は易く行は難いのでありまして、よく現代の生活狀態を一致融合し且適切に實行し得る住宅建築の改良方法を示す者の甚だ少ないのは遺憾といはねばなりませぬ。

殊に、住宅は世運と共に發達進化すべきもので、現代の一般的經濟狀態と合致しない建築法は、如何に絕好の名案でも到底一般に實行せられる譯はないと思ひます。

私は、茲に、我邦中流階級の住宅建築法に就いて現代の經濟狀態に稽へ、在來の木造日本家屋を改造して現代生活に適應せしむるの方策に據り以て容易に實行し得らるゝものでなければならぬと確く信じて居りますから、一種の改良案を提示して觀たいと思ひます。

私は、素より淺學微才の徒であります。從つて、斯る大問題に就いて喋々するの甚だ無謀であるとは思ひますが、聊か多年の經驗から得た

る自家の所感を發表するの必ずしも無益でないのみならず、極めて卑近の例ではありますが、直ちに實行し得らるべき現代的中流住宅並びに貸屋建築に適切なる具体的改良案であると深く信するのであります。

冀くは、先輩諸君にして私の愚案に謬見錯想を發見せられたならば大いに教示を賜はられんことを。

【二】

我邦現代の住宅を奈何にすべきかといふことは、實に、數年來、我社會的の問題として提唱されまして、建築家は勿論專門的見地なり又其他の人々にしても、住宅建築に相當な趣味を有す人達にして、是に就き種々な意見を發表したり又は種々な警告を爲して、斯の住居問題に鮮からぬ注意を拂はれて居ります。けれども我邦の現代に於ける住宅は所謂過渡期でありますが故に、其處に隨分復雜な條件を要しまして、到底單純に又明快に唯一案を以て解決し能はないようであります。

勿論、住宅は人生の生活其ものと一致せなければならない筈なものでありますから、各自の生活に夫れ夫れ階級的な相違もあり、又其職業とか趣味とか乃至は家庭の事情とかいふような事も夫れ夫れ異つて居りますから、之を一律の下に取扱ふことは出來得ませぬけれども、先づ大体に於て其構造を所謂洋風にするか或は從前通りに日本式で滿足すべきものであらうか、是が最も大なる問題でありまするに共に、先づ決せなければならぬ問題であります。

茲に於て意見は種々に綜錯致します、即ち、文化の進展せる今日敢て因襲な日本式家屋に捉はれるといふことは、確に、所謂時代錯誤で、起居や動作の上に頗る不便なる、又妨寒設備の殆んど零なる、若くは、衛生的施設に幾多の缺陷を存せる等觀じ來れば、到底現代の氣運に伴ふべきものでない、而も、其構造上火災や震災に處して殆んど對抗力なく、されば、生命の安全を保障し財產を確保し得ることの甚だ氣遣はしきものである、故に、斷然西洋式の建築を採

り、其生活の安全と愉快の保障を得なければならぬといふ説もある、即ち進歩派と申して置きましよう。處が、之に反して、一種の保守派とも名くべき一説があります、夫れは元來日本式の家屋なるものは、我々民族が二千年餘年の間に創造し渾成した處の建築で、其樣式は確に我國民性の表現なるが故に、國民性と一致したる閑雅にして輕快なる建築である、されば苟も現代の衣服改良を斷行せない限り、斯の居座式の日本家屋は、家庭に於ける休養的の適當な構造である、又、一面に於て日本式の家屋は頗る融通の利く便利な構造である、即ち一室を以て居間とも成り寢室とも成る、又更に食堂としての利用も出來得れば臨時の客室にも使用される、其他、各部室は開放的であつて連絡が充分である爲、殆んど全家族が一室に生活し居るような狀態であるから、親子や兄弟の關係は勿論、僕婢の關係に至るまで、主人を中心として一大ホームが作られ、圓欒的な温ひ生活を爲すことが出來得て、神精的に裨益する處決して鮮くない斯る點は確に日本式家屋の長所である、故に飽迄も之を維持せなければならぬといふ一種の國粹保存を主張する説もある。

彼樣に相反せる二説あるも、事實は、時代の潮流が什うしても斯の日本式家屋では承知せない機運に成つてゐる、夫れは主人公の公的方面が大體に於て頗る活動的と成り來つた結果、從來の居座式では到底之に融合することが出來得なく成りて、竟には、活動的な椅子や机となり來つてゐる、是れ許でなく、火災とか震災とか或は盜難とかいふ方面に於ての不安もあることとて、竟に、在來の日本式家屋では到底滿足して居れなくなつた、仍で、一種の建築樣式即ち和洋折衷式の必要を感ずるようになつたのであります。要するに、現代の住宅は所謂過渡期であつて、恰も、各人の服裝に和服と洋裝の二つを要するが如くに、住宅に就ても和洋兩式を要することは、現代を通觀して、蓋し止むを得ざることと惟ひます。されば、上流社會に於ては皆日本式の家屋と西洋館とを所有し、其必要に應じて之を使用しつゝありますけれども、中流

以下の社會に於ては、斯る二重生活を住宅建築の上にまで迫ぼすといふことは、經濟上不可能な事であります。

【二】

然らば、其和洋折衷式住宅の建築方法は奈何にすべきでありましようか、抑も是が問題であります。近來、日本家屋の一端に西洋式の舘舍を建てずして、和洋折衷式で用を便ずるようにしてゐることを多く見受けますが、是は餘りに外形上不調和でありまして、現代に於ける住宅建築としては決して推奨すべきものではありませぬ。故に、和洋折衷式の住宅としましては其外形を全部西洋舘と致しまして、其内部に和洋の兩室を設備致しますか、又は、在來通り日本式家屋の内部に和洋兩樣の室を取り設けるかの二方策より外はないと思ひます。併し、私は前者を以て最も理想に庶幾い設計と存じます、即ち、將來我邦の住宅建築就中都市住宅としまして防火的構造並に都市的美觀の方面より大に發展すべき住宅の形式であると存じます。

併し乍ら、住宅建築は、前にもちよつと誌しましたように其各人の生活と一致するを本則とすべきものでありますから、其建築費も自然現代の生活程度に一致せなければならぬ筈のものでありまして、殊に、中流の住宅は一層然らざるを得ないのであります。茲に於て、前述の西洋舘内に和洋兩設備を爲すことに於ての經費問題が起るのでありますが、之を日本式家屋の建築費に較べまするとき、其高價なること到底日を同ふして語るべきでないのであります。隨つて一般的に實施することは、現代の生活程度として到底容易な業ではありませぬ。されば、當面の方法として、前述の如く在來の日本式家屋内に和洋兩室を設備し、殊に其構造を大に改良致しまして、折衷式設備の木造日本家屋を建築することとしますれば、其建築費の點に就き左して大なる增加を要しませず至極經濟的に便利な家屋を得られまして、我中流社會の現代的住宅としましても又貸家建築としても頗る適當なものかと存じます。のみならず、斯る建築法は將來に於ける郊外住宅建築の形式を產み出す改良の第一歩になりはしないかと存じます。（續）



臺灣營林局の事業に就いて（五）

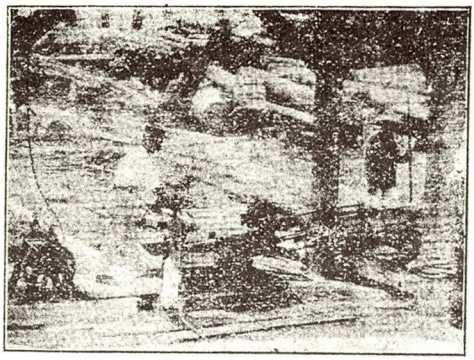
會員　谷　民藏

□阿里山の鐵道

阿里山木材搬出の計畫は發見以來多數の專門家によりて研究せられたりと雖輸送力の強大と事業の安全とを期する爲め鐵道敷設の外到底他に方法なきに一致し即ち鐵道建設事業は創業の第一着手として既記の如く明治四十三年四月曩に藤田組に於て計畫起工したるものを引繼ぎて設計施工を進め更に三百七十萬圓の資を投じて大正元年十二月に至り遂に全線の開通を見たり本鐵道幹線は縱貫線の嘉義停車場を起點とし阿里山々腹の二萬平と稱する地點に達し延長四十一哩にして此の高低差約七千尺に垂んとす線路山腹を攀ぢ峰背を辿り連餘曲折して上るを以て到る處地形嶮峻にして工事困難を極めたり軌間は二呎六吋とし三十封度軌條を用ひ最急勾配は二十分の一にして而かも其延長二十哩餘に達し又最小曲線の半徑は二鎖にして其半徑二鎖乃至二鎖半なる箇所延長十六哩餘を算す全線に六十八箇所の隧道を穿ち其延長約六哩に達せり而して今や全線の開通を告げ七千尺乃至八千尺の山巓より巨大なる木材は軌條轆轤として速に且つ安全に嘉義貯木場に搬出せらるゝに至れり其の獨立山嘉義起點を距ること十五哩十八哩附近に於ける三旋轉廻のスパイラル線と二萬平附近（四十哩前後）に於ける二回のスウイッチバックは實に本鐵道の一大奇觀にして加之步一步更に高く眼界常に變幻　既にして千仞の山軌路盡きんと欲して汽窓俄に暗く既にして萬仞の谷一路絕

□嘉義貯木池

嘉義貯木場は阿里山鐵道の起點縱貫線の嘉義停車場に接續し面積十六萬二千四百十七坪を有す木材積取の爲めには特に縱貫線嘉義停車場より數條の引込線あり又構内には當局嘉義出張所廳舍官舍及製材工場等を配置す貯木は之を陸上及水中の二者に分ち貯木池の水面々積現に九千五百餘坪を算せり阿里山鐵道に依りて運搬せられたる木材は當貯木場構内に入りたる後其の種類仕向先等に應じ復た大材の操縱上頗る利便にして敏捷なる架空式鐵索卷立機械（ケーブル、スパン）（四百呎荷重五噸最大荷重十六噸）一基及「クレーン」（起重荷重三噸）一基の分擔作業により貨車より荷卸せらるゝと同時に一定の區分に從ひ水中に貯木せられ又は本線貨車積を行ひて各地に輸出せらる而して材質の保護上現今は一般に水中貯木を行ふことゝし陸揚をなすは特殊の事由あるものに限れり



嘉義製材工場蒸汽橫切鋸機

受入貯材後特殊の注文又は製材工場の都合により丸太材の長さを改造する必要あるものは池畔に設備せられたる蒸汽「ウインチ」の力を藉り水中より容易に蒸汽橫切鋸機の送材臺上に引揚げられ其の敏速なる動作により見る〳〵任意に橫切をなすことを得るの設備を有せり

當場の貯材は丸太の儘一般の希望に依り努めて便宜に販賣をなすのみならず一半は水中より直ちに製材工場の送入材臺に誘引し自働裝置により直ちに工場内に搬入し特に確實安全なる挽材として市場に現はるゝものなりとす

□事業の收支に關する事項

大正元年十月嘉義二萬平間四十一哩の鐵道本線建設工事を終り大正二年度より實際の營業期に

へんと欲して僅に通ず雲は徐ろに脚下を繞り倏忽として散じて又集まる處豪壯雄渾の情あり深穩清秀の態あり東中座ろに高山の氣分に溢るゝものは蓋し他に見ること能はざる處なりとす

最急勾配二十分の一最小曲線の半徑二鎖は我が國に於て嘗て其の例なき處而かも此の如き急勾配にして此の如き長距離に亘るものは世界に於て其類例に乏しとなす此の急勾配と此の鋭曲線を運轉するに適當なる機關車の選定は最も苦心せる處にして現今使用せるものは米國ライマー會社製レエー型機關車なるも實地試用の結果製作不完全の部分多く漸次經驗苦心を重ねて改善を施したるもの極めて多しとや貨車も亦同會社の製造に係るボギー式材運車に改善を加へたるものと同所の設計に依り大阪汽車會社川崎鐵工場名古屋車輛會社等に托して製造せしボギー式材運車と竝に最新米國シャートルに於てカアーコンバニーより購入したるもの等あり其の長さは積載量及型式等尚ほ幾多研究の餘地あるを以て之が調査設計は尚ほ常に怠らざる處なりと前記鐵道の終點たる二萬平より上部は特に之を林內鐵道と稱し作業地內縱橫に分布す林內鐵道は最急勾配十六分の一最小曲線半徑百尺とし幾多のスウイツチバックに依り山脈地を縫ひ集材機械に依り直に貨車積を行はるゝの設備にして其延長五哩餘に及び作業の進行に伴ひて年々其の延長增加しつゝありと本鐵道の如き長距離の勾配線に於ては嘗て運轉上の經驗を有する乘務員を得る事不可能にして普通運轉技術員に對し更に本鐵道に於ける特種操縱法を習熟せしめざる可らず從て創業以來運轉の事故も亦屢々發生し或は一時本鐵道の運轉危險視せられたることなきにあらざりしと大正四年二月頃より豫て專心研究中なりし空氣制動機の使用法に就て大に得る處あり其他機關各部の操縱に於て從事員の技術漸く圓熟し來り茲に截然として其の面目を改め事故の發生を防遏することを得たるのみならず其の牽引車數は逐次倍增し來り此の特種鐵道の運轉法は殆んど獨創的に完成せられたりと云ふ

入れりど雖爾來大正二、三兩年度を通じて不幸鐵道の災害續出し運材の中止を餘儀なくせられ又當時實際の作業力に於ても鐵道並に製材工場運轉を初め各部に於て未だ機械と人との圓熟調和の域に達せず微々として終に成績の見るべきものなく久しく世の期待に負くこと甚しかりしも大正四年度に入りては始めて阿里山經營に屬する諸般漸く整備を告げ各種作業は充分調節圓熟し來りたるを以て茲に漸く營業の常態に到著し舊來の面目を一新し來り今や本島に於ける一大遺利は開發せられて豐富なる臺灣木材は各需用先に向け遺憾なく供給せらるゝに至れり今大正元年以降阿里山事業の成績を擧ぐれば次の如し

□事業成績表

年度別	伐木造材高	搬出高	材積	賣拂高	元格
大正元年度	五三、九二四 尺ノ	一、八三五 尺ノ	二、八、九三五 尺ノ	三、六一八、三七〇 円	
大正二年度	九二、三四四	一三、一五二	一三、八四八、七九	一二、四八六、九〇〇	
大正三年度	一四、三三六	八七、二四三	五四、八三、三四四	四五〇、四四六、六八〇	
大正四年度	二一四、五四八	一九九、〇七七	一八四、九九〇、一〇九	一五〇三、八三四、〇六〇	
計	四七五、一四二	三〇一、三三七	二五三、九二一、三〇七	二〇七九、三八六、〇一〇	

大正四年分は伐木造材は大正五年一月末日迄其の他は二月末日迄の成績を揭ぐ但賣拂高は契約濟額によりて之を揭ぐ

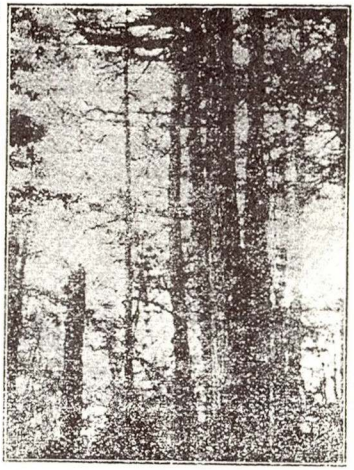
□八仙山の事業其の概說

八仙山は臺灣中央山脈の中部合歡山より西に分岐せる支脈中の最高峰たる白姑大山の西方に連る一團の森林にして北港溪及大甲溪の兩流に依り南北を限らる現在設定せる作業區域は東は白姑大山西側鞍部より西に向ひ約四里南北三里全面積約一萬四千町歩に亘る地域にして縱貫鐵道葫蘆墩驛より大甲溪に沿ひ遡ること約十二里の地點にあり大正三年六月初めて當局の前身たる阿里山作業所に於て大体の踏査を行ひ作業の計劃を立て該經費を大正四年度の追加豫算として要求せしが同年度五月臨時議會の協賛を得て其の七月始めて事業に著手し爾來伐木及運材の作業著々として進行中なり今左に八仙山森林及作業の概要を紹介せん

□八仙山の森林

本地域は大甲北港南溪により挾れたる八千尺以

上の山脈なるを以て分水嶺は殆ど馬背の如く緩斜地少なく急轉南北に直下し地勢頗る急峻なり北面は殊に甚しく大甲溪畔より五千有餘尺の急坂を登攀せざれば八仙山頂に達することを得ず之に反し南面は比較的緩斜面多く一般に地勢良好なりとす此の附近は一帶に粘板岩硬砂岩多く



八仙山扁柏林ノ一部

稀に粘板岩を礫片とする蠻岩あり土地一般に礦確なり作業地域の山麓「クラス」と稱する地點より八仙山頂に至る間直立五千五百尺の急坂を攀ぢ其沿道を觀察すれば容易に植物帶上林木分布の變移を知ることを得べし即ち「クラス」附近の亞熱帶の上部界より始まり其山頂に於ける温帶林に終はり其の間各種多様の林木を包容す更に之を細説すれば亞熱帶に屬する、「トウ」「ヘゴ」類より漸次上るに從ひ「チヤキ」「アベマキ」「フウ」「ノグルミ」「タブ」「シイ」「クス」「ニクケイ」「ヒメツバキ」「モクコク」「クリカシ」「モリカシ」「アラカシ」「アミカシ」「ジンガサカシ」臺灣松等變移混生し其上部温帶林に移り「ヒノキ」「ベニヒ」「ツガ」「ヒメコマツ」臺灣五葉及二葉松、其他稀に巍大杉を生ず更に白姑大山の一萬尺以上に上れば寒帶林となり「ニイタカトヾマツ」を見る

本森林中山麓附近蕃社を有する箇所は燒畑となりて荒廢し原野狀をなせる所少からざるも其他は一般に林木密生し森林蓄積甚だ豊富にして殊に八仙山附近より「コ、ミン」溪流域一帶に連れる檜林及之に接せる栂林の如きは稀に見る所の鬱蒼たる美林をなせり今之等林木の分布面積及蓄積を擧ぐれば次の如し

林木分布面積及畜積

種別	面積	ヒノキ	ツガ	マツ	濶葉樹	積
	町	尺ノ	尺ノ	尺ノ	尺ノ	
針葉樹林	二九五・四	七三八、五〇〇	八八、六二〇	六二、〇四〇	—	
針濶混淆林	二、一八九・八	一、〇九四、九〇〇	七六六、四二〇	三八、四五〇	二八、九八〇	
同上針葉樹ノ更ニ疎ナルモノ	一、六三七・四	一六二、七四〇	三五、四八〇	一六二、七四〇	六五〇、九六〇	
濶葉樹林	七、八六七・六	—	—	—	三、九五三、八〇〇	
草生地	二、九八〇、二	—	—	—	—	
計	一四、七三〇・二	一、九九六、一四〇	一、八〇、五一〇	五五三、二五〇	四、八〇三、七四〇	

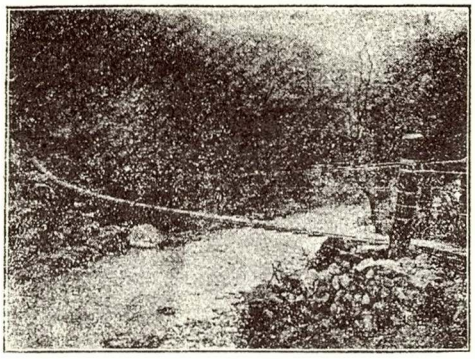
即ち針葉樹材積凡三百七十二萬尺〆濶葉樹材積四百八十一萬尺〆にして合計八百五十三萬尺〆を算す

次に本森林附近氣候に就て一言せんに溪畔久良栖附近に於て既に海抜二百尺餘に達するが故に臺中附近平地と比較し氣温の差常に十數度以上にして夏期熾烈なる暑氣に苦むことなし更に山頂に到ては夏尚寒冷を覺ふること本島中央山脈一帶の高山地と異なることなし

一箇年を乾燥期及雨期に分ち毎年五月より九月迄を雨期とし降雨を見ること繁く十月以降翌年四月迄は乾燥期とし降雨稀れなること中南部と同じ從て事業經營上殊に河川の利用上雨期の作業は危險の伴ふ處れあり

□八仙山の木

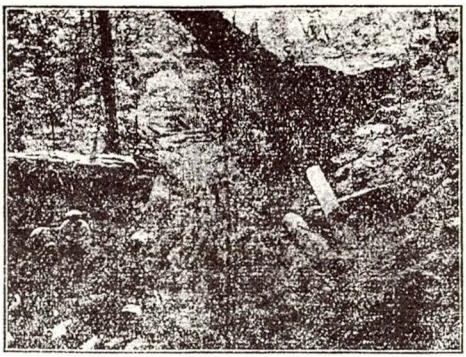
阿里山に就て記述したる處と畧同樣なるを以て畧す



八仙山途中鐵線橋

□作業の計畫

前節に述べたる針葉樹總材積三百七十二萬尺〆を五十箇年連續作業し年伐額約七萬五千尺〆と定む因て造材歩減を四割とすれば年額略四萬五千尺〆の丸太を得る割合なり又濶葉樹は此の計畫により一箇年立木材積九萬六千尺〆を伐採し得べく造材歩減り五割として造材四萬八千尺〆を得る計算なり然れども濶葉樹の利用は市場の需用量少額なる爲め當分之を制限し一箇造材々積を二萬三千尺〆以下とし市場の情況により臨機搬出するものとす

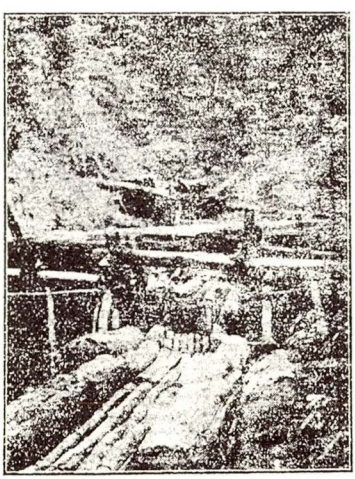


八仙山修羅運材

上記の如く五十箇年連續して豫定作業を終るべきも更に引續き永久保續の作業を行はんが爲に伐採跡地に對し年々約二十町歩の造林を行ひ又地味不良の場所は皆伐することを避け擇伐法に依り天然新を助成する見込なり

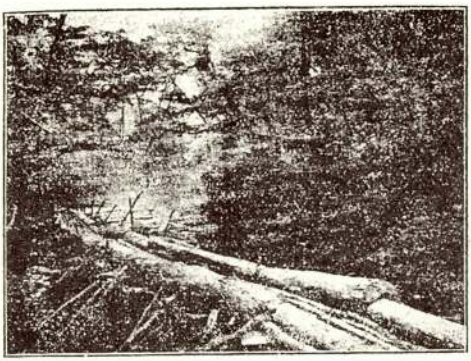
□伐木造材及運材

八仙山に於ける伐木事業は大正四年度に於て追加豫算として同年五月臨時議會の協賛を得七月より準備作業及伐木を開始したり創業日尚淺く其の成績に就ては未だ見るべきものなしと雖爾來著々として各部の作業を進行し本年二月末に於て山地伐木造材の材積は約二萬六千尺〆に及べり當事業地は阿里山の最も進歩的にし



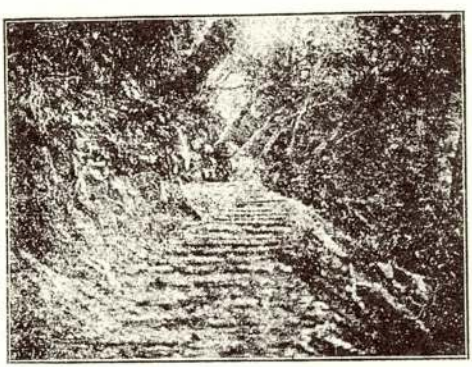
八仙山山棧手運材

て遺憾なく機械的作業の妙用を發揮せるに反し是は殆んど純日本式とも稱すべく何等固定的の資本を投ずることなくして專ら天然地利と人力とに依り作業を遂行せんとする處亦好箇の對照たるを失はざるべし即ち伐木作業に就ては杣夫を內地の靑森木曾紀州各地方より募集し各々其の長を採りて折衷融合せんことを期し又轉材法に就ては專ら木曾式を採るも既に述べたる如く山谷の勢最も急峻なるのみならず其轉材距離の遠きと轉下木材の重量の大なることは內地に其の比を求め難き處なるを以て棧路の構築留場其地木材制動の方法並に勾配及曲線減殺の手段に就ては自ら工夫したる處少からず斯くて八仙山式とも稱す可き轉材方法は漸次圓熟進歩を遂げつゝあり



八仙山棧手運材

とす次に木馬運材法は式を紀州地方に採るも是亦其の線路絶壁懸崖を橫ぎる處多く路体建設上多大の經費と工夫を要したる所なり現在延長四千間にして平均勾配は六寸最急一尺一寸を保ち幅員五尺乃至七尺なり盤木は樫材其他雜木の丸太を用ふるも急勾配の部分には割盤木を用ひて其の摩擦を大ならしめたり木馬用材としては沿道の豊富なる樫材を伐倒使用す當地方の樫材は直徑二尺內外を普通とし枝下長く木理能く條達するを以て立木一本より能く數十臺の木馬山取をなす



八仙山木馬運材

ことを得べく其の木馬の一齋に適良堅牢なるは内地林業夫の歎賞する所なり轉材及木馬運材法を交互併用して大甲溪畔に搬出したる木材は之より大甲溪を流下すること約九里にして土牛貯木場に到着し此處に陸揚げをなし貯材せらる此の地方の雨期は年々早きは五月より起り九月中旬所謂白露の節を以て終りとす此期間に於ては暴風強雨屢々至り河川は汎濫漲溢災測り知ること能はざるものあるを以て勿論木材の流送に適せざるも其の他の乾燥期間中に於ては殆んど降雨と稱すべきものなく水量概ね平靜なるを以て安全に事業を行ふことを得べく而して大甲溪は其上流地方に於ては漸次兩岸相逼り水路單一にして屈曲少く巨岩大石の横はる處又は峽流懸崖を見ず水量恰も適するを以て木材管流は乾燥期間中に於て安全に且つ容易に施行し得るものなり斯くて八仙山の木材は近く昨春より土牛貯木場に現はれ一般の需用に應せんとす



八仙山修羅運材

□土牛貯木池

土牛貯木場は縱貫鐵道葫蘆墩軌道會社の經營に係る輕便軌道に依り大甲溪に沿ふて東方に遡行すること約八哩の地點にあり八寶埤圳の取り入れ口より下ること約三百間の右岸に於て面積凡五千五百坪の地面を相して工事を施行し構内に斷水池九百六十餘坪及附屬建物を配置す

貯木場の作業は大甲溪を流下したる木材を先づ八寶圳に取入れて三百間餘を狩下げたる後貯木場内の貯木池に誘致したる上水揚げを行ひ順次に堆積を行ふものとす本貯木場は葫蘆墩軌道會社の布設せる輕便軌道に依り縱貫線の葫蘆墩驛に連絡せられ同會社と特約して割引賃金を定め又木材搬送のためにボギー式制動機付の特製貨車を設備せしめたり。



建築美と自然美の調和に就て

特別賛助員　農學士　大屋靈城

建築の美は人工美であつて四圍の山川の美は自然美である。斯の兩者の美が渾一融和して初めて得難い美觀を呈し得るのである。如何に立派に建てられたる建物でもこれが四圍の風光と調和しない場合には其の美の大部分は滅却されてしまうのである。例へば百姓屋の群がつて居る村落の眞中に堂々たる洋式の建物を造つた場合に人はこんなものをと嘲笑して過ぐるであらうが若しこれが日本風の寺院建築でいもあつたならばどんなにか賞讃されるであらう。

建築は屈折の多い直線の集合であり自然は婉曲なるカーブの集りである。この直線美と曲線美とを結合し調和して初めて建物も自然の中に抱擁せられ得るのである。

然らば何をかよく兩者の間に立つてこれを融合し渾一し得るものぞと云ふに何人も植物なりと答ふるに躊躇しないであらう。建築は四圍の植込によつて良く自然と調和し得る場合が多い尤も大榎軒を並べて建てる市街地では之を要しない事も少くないがそれにしても小灌木や岩石の助けに依て大いに其の美を發揮し得るのである。

この周圍の植込みは天然にあると云ふ事は稀であるから矢張人工を以て爲されなければならぬ而も如何なる樹種を選ぶか如何なる方法に植ゑ付くるかと云ふ事は割合に六ケ敷い問題であるから相當の研究を要する。

世間の人は建物さへ出來上れば植込み等はど

うでもいゝとして植木屋委せに放任する人が多いが此れは大いに考慮すべき問題である。尤も今日の植木屋は時世に鑑みて大いに其の點には注意を拂つて居るが、これに一任するのは危險である。殊に建築家は自己の設計に依つて折角理想的家屋を建設し乍ら、これを自然の手に渡す場合に何等の思慮なく何等の注文もなくすます樣な事があつては自己の作品に對して餘りに冷淡であると云はねばならぬ。室内の裝飾に色彩の調和を嚴しく云ふ樣に自然との調和にも色彩が必要である又形態其他の特性を選擇する事が必要である。これ等の事は建築が一つの專門的智識を要すると同じく專門的の智識と技能とを要するものであるから建築家に總てを望むのは無理である。が一通り心得て置く事の必要は誰でも異論はない事である。

然らば如何なる者がこの建築と自然との結合法に就て專門的に研究して居るかと云へば造庭家として世に立つて居る者がそうである。併し我國の庭園學と云ふものは建築學等に比するとまだ〳〵幼稚なものである爲に世に造庭家のあることさへも知らぬ人が多い。これ全く今日迄斯の方面の需要が少かつたのと一般世人の庭園に對する趣味の向上しなかつたとに由るであろう。昔は造庭と云へば單に座敷から眺める箱庭を造る事を意味して居つたけれども今日では其れはほんの一部分に過ぎない事に成つた。今日我々は庭園を定義して『總て娯樂、觀賞又は裝飾の目的を以て風致的設備を施したる地域』として居るがこの意味で云へば邸園は勿論建物周園の植込地帶、市街道の植樹帶、市内の小公園市外の遊園地等に至る迄總て美を主目的としたる地域は庭園である。そして之等に關する一切の事を研究するのが庭園學である。

それであるから庭園と建築とは離るべからざる關係を持つて居る。庭園は建築の樣式に應じて變化すべきもので決して昔の樣に一定の規則に當て嵌て作らるべきものではない。建築は主で、庭園は從である、建築をして十分に其の美を發揮せしめ得るものは庭園である。と同時に

建築によつて天然の風景美が益々妙境に入る場合も少くない例へば公園内の四阿の如き亭、塔の如きはそれである。我々はこれを添景と云ふて居る。

庭園は室内から眺めると同時に其の中を逍遥して家屋を眺める様に造られなければならぬ。從て斯の場合人工美と自然美との調和が考へられなければならぬ。

玄關先の前庭とか洋館に附隨した庭園とかには特に斯の點が重んぜられる。こんな風に述べ來つた時に吾人は建築と庭園とが如何に密接の關係に立つものかを首肯する事が出來る。然らば從來果して斯の點に注意が拂はれて居たかと云ふと西洋では勿論我國でも相當には拂はれて居たのである。例へば日本庭園を作る場合に建物の近くに比較的建築に類似した、手水鉢や、沓脫石や、袖垣、石燈籠、飛石等が置かれて知らず〳〵の間に自然の植込みと連結する様な方法を採つて居るのは確に人工美と自然美とを調和せんと努力した結果である。

沓脫石と云ふのは座敷の椽側の中央から庭に降りる踏段に成つて居る石で普通二つ組又は三つ組の石を用ゐる。これから庭の四方に向けて飛石が据ゑられる。どんな庭でもこの沓脫石のない庭はない。若しこれを除いたならば昇降にも勿論不便であるが第一庭先に出で座敷を見た時に一寸も座敷に落ち付きがない。又庭と家とが離れ〳〵に見ゑる。從て此の石はどうしても無くて成らぬものである。

又手水鉢が椽先には必ず据ゑられるが、あれも單に便所に入つた時の使用を目的として造られたものではない。其の證據には便所がなくてもこれは設けられてある。ことに飾り手水鉢と云つて大きな庭石を用ゐ其の周圍にも色々と裝飾的の石組や植込みをなし、手水鉢の上には小さい屋根の覆いをしたりしたものは實用と云ふより寧ろ全く裝飾の爲に置たものと云はれる。

又袖垣と云つて壁から三四尺の長さに出された垣が作られるが、これも建物の釣合をとる爲には最も必要なものである。飛石等も庭と建物

とを連結するには適當なもので其の樣式は一つに建物の樣式に左右される。即ち茶席のようなごく錆びた建物であれば自然石の丸い苔の乘つた石がふさはしく廣々とした書院造の座敷であれば短冊形の板石を二つ組にして取り据ゑると云ふ風に又飛石の配置法も千鳥翔、雁行、二三連、三四連と云ふ風に變へて行く。

これ等は全く建物を自然美に結び付ける爲の仕事である。西洋でも台地（テーレス）を作つて建物を庭より一段高くし其の間に石の階段や、欄杆、飾鉢、彫像等を配置し建物の周圍には花ものや小灌木の綠をとりをする等全くこの目的に外ならぬのである。

又都市の並木や公園等の設備は衛生上の見地から都市に缺くべからざるものであると同時、都市の美觀を發揮する所謂都市裝飾の上から、なくてはならぬものである、從てこれが設備如何は都市建築の美を發揮せしむると否とに重大の關係を有するものである。

斯くの如く造庭術の力を藉りて初めて人工的の建築美を偉大なる自然の中に收め以て天然美と渾一融和せしめて一大偉觀を發揮せしめ得るものと信ずるのである。

✤世界最高のホテル✤

世界の最高ホテルが今度新しく瑞西國シヤンク、フラー鐵道會社沿線なるエスメール停車場の傍に出來た、斯のホテルは海拔一萬尺以上と稱はれ。エイスメール山の頂上に近いところにあるので、尋常の方法では食物を調理するを得ず、其麓にあるユツシヤン瀑布を利用して引いた水力電氣に賴りて一切の食物を調理し、其食堂は絕壁を切り開いて之を作り、始終電氣に藉りて屋內を溫めてゐる。

—世界新聞全集より—



京都古建築觀【九】

特別賛助員　伊藤清造

十四　法觀寺

概說

京都市内八阪に在る故、俗に、八阪の塔と稱され靈光山法觀寺といふのが本當である。又、八阪寺と謂ふてゐるのは、其八阪に在るが爲である。推古天皇の御代に聖德太子が創建されたと傳へられてゐるが、斯の寺傳は今日では信用すべきものとされてゐる。夫れは、明治四十二年大修繕の行はれた時に、其土壤中から、斯の時代に立派な完全な蓮華紋瓦を發見したからである。斯の瓦は、今、京都府廳に保管されてゐるが、飛鳥式として立派なものである。斯くの如く、推古朝に創建された寺であるけれ共、其後幾度も興亡し、今日保存してゐるのは、永亨十二年に作られた五重塔一基のみである。

建築

飛鳥期に作られた法觀寺であるとするならば其當時は立派な百濟樣悉堂伽藍を有してゐたのであらう。紫に霞んだアノ東山に倚り、清く澄んだアノ鴨河を前に眺め、朗清たる宇陀の郊野に屹然として聳へた堂々悉堂の伽藍を想起したとき、吾人は、遙に遠き天智當年の人の思ひを致すのである。丹塗りの中門を入り、塔と金堂との間を通じた講堂正面の石疊み、吾人は、法照寺の伽藍の其儘を斯の八阪の地に移轉した一場を想起し、アノくだらない民家の總てを一掃して、茫々たる郊野と、泰然たる東嶺とを得た

るときを想起して、斯の五重塔一基が有する徴象的幻想を最も痛切に感ずるのである。

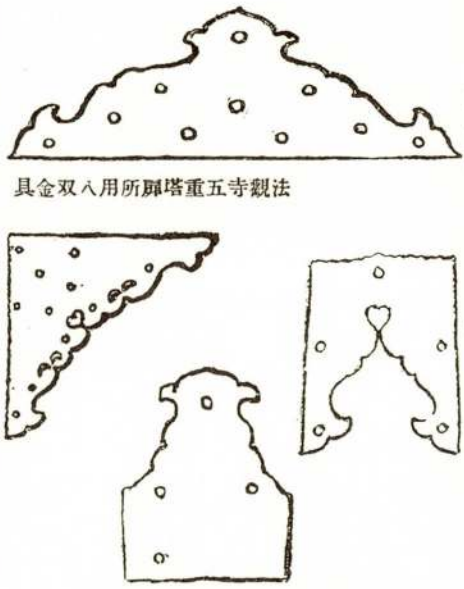
五重塔

建築年代に就ては明な根據がないが、永亭年間であることは明である。一二の書物には永亭十二年になるから姑く之に從つて置く、京都府誌には永亭十六年とあるが、十六年は實は文安元年、永亭は十二年で、十三年は改元されて嘉吉元年となつてゐる。永亭十二年は足利義敎の將軍職に居つた頃で、義勝を措いて義政が出で應仁の兵亂を起し、後、强食弱肉の戰國時代を現出しようとするのときであつて、足利時代としては、初期の平靜な可成り落ち付いた時代であつた。

永亭十二年より十八九年前の應永二十八年に出來上つた興福寺五重塔の表現とそこに大なる徑庭を見ないのである。勿論、建築美學の優れた數々の點は、彼の塔の方が上であるとしても其表現した處は大なる差のあるものではない。夫れは、兩者共に努めて古法に準據して再建したからであるといへよう。併し、幾ら室町時代の作家が古法に準據して古典の模倣を遺つたとて、到底、時代好尙の約束を服化することは出來得ないのであつて、兩者共に似通つた後世の嗅味を有つてゐる。

一体に姿態の好い形式を有つた塔姿故に、幾等拙いといつたとて、普通の堂宇の樣ではない塔の形式が既に好い格好に出來てゐる、いくら東寺の五重塔や上野東照宮の五重塔が格好が惡いと云つたとて、知恩院の勢至堂や大報恩寺本堂等よりは美く出來てゐる。八阪の五重塔は其東寺の塔よりは數等美く出來てゐるけれども塔として法隆寺や藥師寺や其他醍醐や當麻のものに較べると劣つた數々の點を擧げることが出來得る。第一に其安定の度に於て著く劣つてゐる是は一つに軒の出の椽の不調和によつてゐることは明であるが、最上層のみに勾欄を設け而も斯の勾欄が下の柱の椽以外に突出してゐる等は甚だしい不用意の設計といふべきである。其他組物等も半ば裝飾的なものが多く、斗拱の形も

表面のるのものである。藥師寺東塔の裳層の組物が目に見へない内の部分まで細かく組んだのに較べると大なる相違である。外國でもルネッサンス建築に可成り斯の僞つた構造が使はれてゐる。外側は全部丹塗りであるが、内部は折上組入格天井があつて、扉其他に彩色してゐるが



法觀寺五重塔扉所用八双金具

六波羅密寺本堂の彩色の調子とよく似たものである。扉の八双金物は少し其類形を脫した處が面白い、といつても別に美い曲線形のものではない。

青々とした東山、黒く煤けた細家小屋の中に屹然として立つた古塔に夕榮したとき、眞紅に彩られた影塔は殆んど崇高の感を與へてゐる。そして、天智當年の盛觀と輪煥の美を想起せしめるのである。

十五 高臺寺

概說

京都東山に在る禪宗臨濟派の名刹であつて、鷲峰山又は岩清不動山と號してゐる。始め細川滿元が此の處に岩栖院を建立したが、慶長拾年豊公の夫人北政所（高臺院湖月尼と法號し淺野長勝の長女である）が其亡母の追善の爲此處に寺を建て、岩清院を、洛北京極に在つた康德寺へ移したのである。そして、此の跡に建つたのが高臺寺である。康德寺は、前に政所が亡母菩提の爲に建てたもので、地所の挾い爲に洛東岩清院と交換したのであるが、斯の康德寺は後に亦南禪寺へ遷されたのである。

斯の高臺寺は了機禪師を開基として居つて曹

洞宗に屬したのであるが、後、建仁寺の三江長老として塔頭常光院の住持が中興の祖となつたので、建仁寺に屬し臨濟派になつたのである。境内は萩の名所として知られ、近年建立せられた忠魂塔の美い建築か明治美術の粋と誇り顔に立つてゐる。

建　築

朝鮮支那までも征伐しようと企てた豊臣秀吉が、伏見城で作つた傘茶亭や時雨の茶亭等を、みては、豊公の他の一面を偲び且つ桃山建築の一面觀を知ることが出來得る。

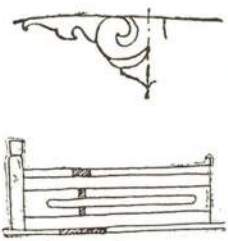
英雄猶未免情痴　傘様第亭客膝時
畢竟優游何耐狹　更思海外取鮮夷

箇中の妙味を歌ふて殊に面白い。慶長十年は吾人の所謂德川の初葉である。高臺寺建築の主なる二棟は斯の時代のものである。

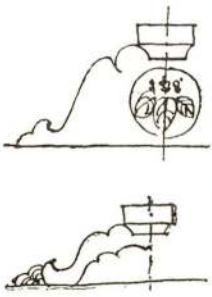
靈　廟

三間四面單層方桁造りの建物であつて、石壇上に立ち廻縁を有し本勾欄を備へてゐる。前に向拜を附け、軒唐破風を有つて居り、正面に唐戸を使ひ、他は繁棧の妻戸を使つてゐる。

彩色を施した二手先組物で疎割の椎木を支承してゐるが、椎肘木、長押及支輪等隨所に青銅金具を使用してゐる。向拜の柱は朱塗りの角柱



高臺寺唐門懸魚　臥龍廊月見窓所用板蟇股

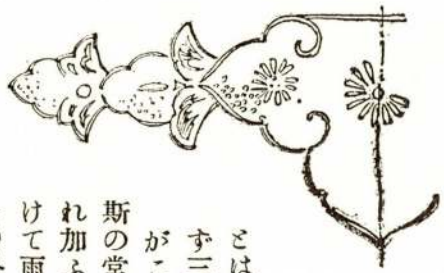

開山堂所用本蟇股

の凡帳面を取つたものであり、其他の本柱も朱塗りであるが他の部分は黒塗りである。内部に就てみると、外陣は組入小組の折上天井であつて、内陣は竿縁天井である。厨子の扉や階段等には水紅葉花等の蒔繪をし、高臺寺蒔繪として名高いが、何となく田舎じみた間の抜けたにやけた處がある蓋し桃山時代精神の存する處であらう。

扉の鍍重金具は他に類型のないものであるが

優秀な技巧や意匠の跡を認めることは出來ない

斯の堂は德川家康が政所の菩提の爲に建てたと云はれてゐるが、朝鮮支那までもとの大志を抱いて空しく薨じた秀吉が如何に三寶院に觀櫻の宴を開いたり、傘亭や時雨亭に利休を與じたとて彼れと彼れの夫人とを祀る靈廟としてこの靈廟に相應はしいものであろうか、吾人はこの靈廟に詣で秀吉政所の木像の前に跪坐したとき到底彼れ英傑の片影をも偲ぶことは出來ないのである、知らず三寶院書院や豊國神社唐門がこれに優ること幾何。



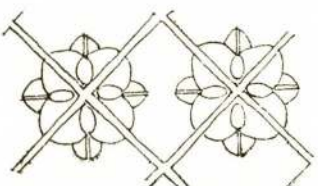
高臺寺靈廟金具

斯の堂は極めて高い地に建てられ加ふるに軒廻りに板を張りつけて雨露を防ぐの具とした爲にその外觀の姿態を眺めることが出來ない。

開山堂

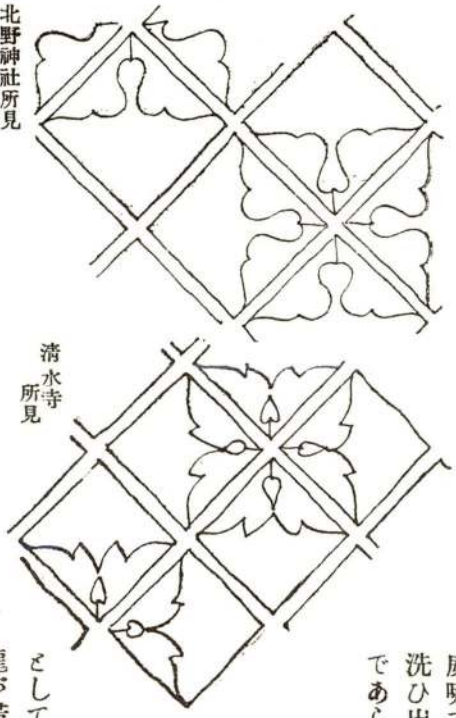
もとは政所の持佛堂であつたのを開山堂としたのであつて三間五面單層の母入屋造りであつて二手先唐様の組物を使つてゐる正面一間に棧唐戸を附け左右一間に大燈窓を開けてゐる唐戸の透し彫組子は斯の時代のものとして秀優な作である、かの清水寺本堂（寛永十年）や北野神社（慶長十二年）等の組子格子と比べると同じ様な構圖ではあるが、より以上立派に出來て居る。

それから軒廻りを見ると靈廟と同じように臺輪丸桁等の隨所に金具を張り破風板には大なる金具を張つてゐるが桃山式の風を偲ばしめてゐる、内部は悉く彩色され天井は秀吉朝鮮征伐の時に使用した船の天井を使用したのだといつてゐる、折上小組の組入天井であるが鳳凰堂等の裝飾を見なれた眼には到底永く見つめて居ることが出來ない、箇々の線形と色彩との何等の交渉のないことが重な因をな



高臺寺開山堂棧唐戸所用

してゐる、東福寺三門樓上内部の色調と知恩院のそれとの差のやうな程接近してゐるのではなく別種の氣分を誘つてゐる。



北野神社所見

清水寺所見

表門

桃山城から加藤清正が移したものだと傳へられてゐる、特に有名なるものはその扉の花菱の八双金物であるが、桃山時代の成金的藝術を遺憾なく表向したものと云つてよい程の線形がある、月の皎々たる夜靜かに聞ゐる笛聲を後にして木の影をふみつゝこの門に近く時、神秘と恐怖の念は期せずして萠ゐ上つてくるのである。威嚇するようなあの軒の深い黑い影と月の光に洗ひ出されたあの屋蓋と何等の對照を示したのであらう、うつら〳〵と物思ひつゝ歩く月の夜不安と恐怖の念は層一層強うせらるゝのである。

門は明治四年に開山堂と靈廟とは明治三十三年にいづれも特別保護建造物に指定されたのである。

臥龍廊

小堀遠州候好みの庭園中を走つて賑々として開山堂靈廟を聯ねてゐる、恰も庭中に蒼龍が横臥した如くに見ゆるので斯くは稱せられてゐる。廊の中程紅蓮白蓮の匂ふ池に架せられた軒唐破風附きの小さな臺を月見の臺とゐつてゐる、やはり朝鮮征伐の時の船の天井であると傳へられてゐる。

小さな板墓股一箇にも尙桃山式の潜んでゐる

も床しく思はれれる。遠州好みの庭には吾人は多くの讃辭を呈することが出來ないが、其中に走つてゐる臥龍廊は、吾人の意に適ふ處大なるものがある。構造が優れてゐるのでもない、姿態が美いのでもない、細部の手法の秀た爲でもない、只其長い物柔い廊下を辿つたとき、吾人は何となしに日本人のみに享有されたような特殊なる興味を強く感ずるからである。

□□ 近代無樣式の樣式を作りたるエツフエル塔 □□

小說界に於ける自然主義はゾラによりて道破せられたる如く、文明史上に於ける自然主義はテーヌによりて喝破せられし如く、繪畫上に於ける自然主義は印象派のモネー、ピッサロー等によりて提唱せられし如く其一貫せる標語は「自然の眞」てふ語にて、彼等は「科學」の力を假りて、其標語を實現せんとせるなり。されば、十九世紀の佛蘭西の藝術界は概して古文學主義對中古文學主義、古文學主義對自然主義の紛爭なりと云ふべし、而して、建築界に於ても亦斯の例に漏れず。—中世紀式の廣大なる建築物は續續建設せられたれども、近代文明の精華を表露すべき十九世紀的紀念物あるを見ず、斯の無樣式時代を代表するものはトロカデロ宮殿也、更に二十世紀の今日に至りて世界の建築界を大觀するも、尙無樣式の時代たるなり。—されば、若し建築上近世式と云ふ語あらば、幷は一種の無樣式を代表するものなり。斯る混沌の狀態に滿足せずして、何等かの新生面を開拓せんとするものに、エツフエル塔あり。エツフエル塔は十九世紀科學的建築物の精華なり。エツフエル塔は佛人エツフエルなる建築家によりて建設されたるものなり。斯の塔は、千八百八十七年一月二十八日に起工し、千八百八十九年三月十三日に落成せり。塔は巴里のシヤン、ド、マルスに在り、高九百八十四呎、セント、ポールの寺院よりも高きと約二倍也。底は百十二平方ヤードあり、四隅には鐵の孤的支柱ありて其れを組合せて建築せるものなり。五百九十呎に至りて、四支柱結合して塔頂となる塔中三箇のプラットフオームあり、昇降機又は梯子にて上下するを得。階段は千九百二十七あり。建築費は二十六萬磅を要したるが、初年の入場料のみにても建築費以上の收入ありきと云ふ。



フロレンスの誇り
—建築史ローマンス—

會員　須藤まがね

ブルネレスコには自分の應募した浮彫（レリーフ）「アブラハムの犧牲」の出來映が、どんな物だつたのかハッキリ分らないのであつたそれが素的な傑作だつた樣にも思はれるし、また見つともない駄作だつた樣にも思はれた。自分が審査の結果、選ばれてあの洗禮堂（バプチステロ）の扉の一つに技を揮つて、十四世紀の名匠アンドレヤピサアノと其名を並稱される光榮に心を躍らせて、夢中になつて居ると、（惚れな空想家よ）と云ふ聲が何處からともなく彼れの心を搖がすのであつた。すると忽ち彼れはその應募作品が氣恥かしい物になる。今迄華やいで居た心が疾風（はやて）の樣に暗くなるよくもあんな駄作を臆面もなく競技に出したものだと後悔し出す。自分の持つてる彫刻の才能が堪らなく悲觀されるのであつた。

この頃フロレンスの智識階級の間には古代學藝復興の聲が高らかに叫ばれてゐた。それは中世の神中心主義を排して、あらゆる人間の衝動を解放し、明智を以て現實の生を豐富にしようとする人本主義（ヒューマニズム）の思想であつた。そして其の人達は斯の思想範型を古代希臘羅馬の文明に仰いだのであつた。

斯の思想の波は何で若い藝術家ブルネレスコの心を浸さないでゐよう。然かも彼れの身うちにはエトラスカンの血が流れてゐるのである。花の都のフロレンスが北方の蠻人の旗幟であるゴシック美術に蹂躙されるのを怨うして手を拱いて見て居られよう。彼れはこの敵愾心を、人本主義の理想を美術の世界に實現する事に依つて徹貫しようと固くも心を決めてゐた。

然しそれには彫刻よりも建築の砦に據る方が適切らしかつた汪々たる時代思潮を悉く包含し、遺憾なく表現し得る物は只建築であつた。それでブルネレスコは自分の彫刻の才能を悲む度に建築に對する希望の燄が愈々增して行くのであつた。だがまた直ぐに彼れは今度の競技に當選して彫刻界の第一人者となり思ふが儘に人本主義の新精神を青銅（ブロンズ）に象徵する日を想ふのであつた。ブレネレスコはこんな風に悲觀と樂觀とを綯ひ交ぜた心

で審査が發表される迄の幾月を氣を揉み暮したのであつた。

審査場ではドナテルロ、ヤコポデルラ、クウエルチャ等の錚々たる大家も遂に篩ひ落されて二十二歳のローレンゾ、ギベルチと二十九歳のフイリッポ、ブルネレスコの二人の作品丈けが殘つた。そして審査員達は容易にその二点の甲乙を定めかれた人物の形体に於てギベルチのは美しいけれども表情の澁滞たる点に於てブルネレスコの方が優れてゐた、またギベルチは構圖と空間的排列はブルネレスコに勝つて居るが衣裳の襞は劣つてゐた。要するにギベルチの作品は "beauty" でブルネレスコのは characteristic だつた。それで審査會の決議はこの両人に合作させ様と云ふ事になつたのであつた。

合作と云ふ言葉は純眞な藝術的良心の持主に取つては忌はしい侮辱的な感じを起させる言葉であつた。それでブルネレスコは(私の技倆は到底ギベルチに及びませんから)と云つて潔くその決論を辭退した。之れで思ひ切りよく彫刻の技を見限る事が出來た譯だ、いざ之れからは新らしく建築の道に進もう、と云ふ考が明確に彼れの心に樹てられた。

ブルネレスコは新らしい希望に甦つて、やがてイソ〳〵と羅馬の旅に上つたのであつた。

羅馬は痛ましく荒れ果てゝゐた、オウグスツスのフオーラムや、ネロの黄金殿の跡は何處、盛代の市民が徹宵の歡樂に醉つたカラカラの大浴場も、猛獸と鬪士の流血に熱狂したフラビアン圓劇場(コロシウム)を見るも無慘に毀毀して、アカンザスの繁りにその肌を打ち任せてゐる。斷へては續き、建ちては崩れ乍らも蜿蜒と荒野を横る水道(アクエダクト)橋も哀傷の種であつた。そこがブルネレスコと其の若き友ドナテルロとの研究所であつた。二人は毎日々々その廢墟を彷徨つては古典藝術の構材や埋れた斷礎の一々に尺度を當てゝ精密な研究をしてゐた。彼等は恁うして計り得た平面の上に古羅馬の面影を髣髴させる様な立面圖を想像したのであつた。その表現の爲めにブルネレスコは遠近圖法を創始するに至つたのであつた。

ローマの市民は根氣よく廢墟を彷徨ひ廻る、この二人の姿を胡乱(うろん)な眼付で注意してゐた。

『此の街の人は私達を金の壺でも堀り當てようと思つてる慾張りだ、なんと影口してる相ですよ』

或る日のことドナテルロは遠近法を描く手を止めて口惜し相に世間の噂を憤慨し出した。

『金の壺どころか、私達は最つと大きな慾張りなんぢやあ無いか』

ブルネレスコは平然として答へた。

『そう云へばそうですれ、私達は羅馬の金貨よりも最つと貴い羅馬の建築術を堀り當て様としてる山師だつたのですれ』

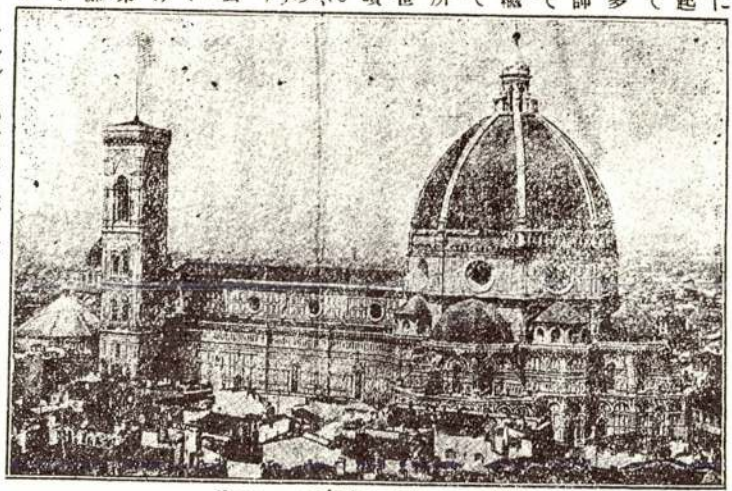
とドナテルロは考へ直して落ち付いた。

『金貨は堀り出しさへすれば其れでいゝのだが建築は只堀り起した丈けでは今の時代の役には立たない』

ブルネレスコは沈痛な調子で悲う呟いた。

夕陽があか〳〵と七丘(セブンヒル)を染めて廢墟のペヂメントや柱列(オーダー)を殊更白く映してゐた。

プロオレンスのドウオモは十三世紀の末にアルノルフオ、カムビオに依つて起工されてから幾多の建築師に依つて工事を繼續されてゐた。所が十四世紀の中頃に、それに『花の聖マリヤ』（サンタ、マリヤデルフィオレ）と云ふ美しい名を付けて世界第一の大伽藍にしようと云ふ事が、フロオレンスの市民に依て企てられた。それで工事半ばに設計は變更されて八角形の平面（プラン）の本堂が大變大きな物となつた。それで圓屋根の掛け樣が無くなつて了つた。



フロレンス寺院と鐘樓のトオギ

そこで市の當局は諸國から有名な建築家を招び集めて其方法を協議した。それは千四百二十年の事だつた。

『堂を貨幣を混ぜた砂で埋めて了つて、それを足場に丸屋根を掛けたら怎う。そうすれば竣功の後で市民は貨幣を篩ひ出そうと思つて其土を堀つては運んで行つて譯なく跡片付けが出來るでせう』

こんな莫迦げた提議を眞面目腐つて云ひ出す者もあつた。それ程皆んなは斯の問題に就いては困り拔いたのであつた。何しろ非常に高く廣い堂なので足場を組むと云ふ事は當時の技術では到底不可能だつたのである。此時列席のブルネレスコは會心の微笑を頰に浮べて進言した。

『私に凡てを御任せ下さるならば足場なしで立派に圓屋根を掛けませう』

『ほゝ、それは一体怎う云ふ方法で』

一同は期せずして異口同音に聞き返した。

『その方法は工事を御委せ下さる迄は云ふ譯に參りませんが、兎に角私には成案が有るのです』

誰れしもブルネレスコのこの進言を信じなかつた。然し外に確信を持てる者もないので當局も致方なしにブルネレスコを技師長に任じた。ブルネレスコは二重構造の穹窿で斯の難工事を切り拔けたのであつた。下から緩いカアブで石を積み上げて行つて、內外兩屋蓋の間隙に板を差し込んで足場の代用として次第に工事を進めて遂に世界第一の大伽藍の圓屋根を完成したの

であつた。

然しそれは彼れの出世作ではあつたが決して代表作と稱すべき物ではなかつた。唯ほんの羅馬で研究した構造術の一端を示した丈けの事であつたのだ。

彼れの眞に心を單め力を盡して計畫した建築は、リカルディ宮殿、サン、スピリトー寺院、パツヅイ禮拜堂、ピツチ宮殿等であつた。そして之等の復興期式建築に於て彼れの思想上の理想は遺憾なく具体化され、醇化されて、フロオレンスの市は盛りの華の樣に裝はれたのであつた。（完）

……

かくて、世界は、無限にして唯一、ありうる一切である。絶對可能であり、絶對實現である、形相、精神であり、資料、形體である、原因であり、本質であり、最大であり、最眞である。不生不滅である。なぜなら、世界はあらゆる存在を含むから、生ずべき他のものはなく、又、其中へ變轉してゆくべき他のものもないから、

＝ブルノ！＝



テームス河

（下）

會員　N　T　生澤

テームス河に橋のなかつた時分は市民は渡船の御船頭の厄介になつて居た。エリザベス一女皇並びにジヤーム王の御代にウエストミニスター邊に一つの橋を架ける事を計畫されたのであるが、いつも倫敦市當局者其他のものが之を拒絶した、それは河の交通を阻害するのみならず御船頭の職を奪ふものであるといふ理由からであつた、諸君は其當時テームス河に設けられてあつた、各所の「渡し場」を御存知かな。其時分色々の船が面白さうに此「渡し場」に活動した光景は觀物であつたさうだ「矢よりも早き河の瀬を」と歌に迄も唄はれた「テームス」河の有名な「渡し場」はあの敏捷な水上警察隊の新本部の近くにあつた。何時の頃よりとも知らない時分から出來て居た澤山の「渡し場」は最早影も形もなくなつて居る。其昔のローマンスの名殘は僅かに地名に留められてゐるに過ぎない。(Battle boidge Stairs, Fountain Stairs, Cherry Garden Stairs, Pageant Stairs, Kings Stairs, Princes Stairs, Hanover Stairs, Church Stairs, Pickelherring Stairs, Globe Stairs, Dog and Duck Stairs, Ship and Half-Moon Stairs, Suchor and Hope Stairs, Golden Suchor Stairs.)

多くの船頭さんは橋が架けられる樣になつてから、大分數は減つたが、まだ〳〵全盛なものでトンチルの掘鑿工事にも關係し、橋錢の廢止論を持出したり、時には猶特別な仕事に從事してゐるのである。今でも市民は碇舶船に御用事の節は「渡し場」から御厄介を掛けてゐる、一方の岸から向岸の倉庫へ行くのに一々橋を渡つてエッチラオッチラ廻らんでも御船頭は目鋭く船を寄せてくれるのだ、何のことはない客待ちの馬車と御同樣の役目をやるのである。

近頃迄船頭會社もあつたし、彼等の倶樂部もあつた、それは十六世紀頃から出來てゐる立派な又有名な組合であつただけに十數年來航海業を獨占して居た、この會社の特權は今日では全く名譽的に貰ふのであるが、昔は少なくとも五年間の年期奉公をするか、又は英米の人か或は登錄されてゐる貨物主の外は易く得られなかつた、則ち船員の仕事は組合と密接な關係になつ

て居た。此等の「船員の言葉」は中々有名である、それは乱暴でぞんざいで御話にならないさうである。此頃の船員でも一度怒つたら御婦人方が青くなる様な事柄を引起すといふ事であるが私が訪問した御連中は洵に静かなそして開けてゐた。

クリーンニッチ波止場の一船員は私に「ドッグゲット、コート」と徽章の由來を話してくれた、それは恁うである、「ドッゲット」君といふ或喜劇役者が或日の事あわてゝ、いつも行く處へ出掛けやうと倫敦橋の渡場へやつて來た。すると其處に新米の若い船頭さんが居てド君を乗せて任務を果きうとした、そして丁度都合よくド君の滿足を得た、此の喜劇役者が死んだ時彼は此等船員の一年修了者へ年々の懸賞品を殘した。其賞品といふのは股引と上衣と帽子と徽章とであつた。そこで毎年の競漕に優捷者六人を出すといふ事になつて各船員は之を得んとして熱中する事となつた。倫敦橋から出立して五哩上流に漕ぎ上るので數百の見物人は山に等しといふ有様である。サー、ワルター、ベサント氏のテームス河に關する著述によると此競漕は新教徒の加盟によつて一七一六年から初まつたと書いてある、全くそうである、此の話をした船員もワルター氏の物語も本當の事である。

倫敦橋から下手へかけて一番多く見受けるのは小蒸氣船の曳船である、丁度車を曳く牛の様に鼻を鳴らして懸命に働き廻つて居る。彼等は河の中の「カーター、ハターソン」である馭者である、彼等は荷物滿載の傳馬船や空船を曳くのが役目で汐時を利用しては上下してゐる。此等の曳船は有力な蒸氣機關を乗せて浮んでゐるのだが同時に石炭を澤山に貯載してゐる。水夫の体格はそろつて居らぬが少なくとも四人は乗つてゐる、如何に大きな曳船でも先づ六隻の傳馬船を連れて居るのが最上だ、或者は荷物會社に屬してゐる、他の者は大汽船會社と特約を結んでゐる。又或曳船業者は「目を皿にして」仕事を見付けてゐる此等の曳船は全く猛烈に働く常務船員は二人あるが各二十四時間働くと又二十四時間休養する、餘分長い勞働時間ではないかこんな長い勞働は機關が強いから出來るので、それでも一年に三度は掃除と修繕をするさうである。

此等の曳船の船長は込みあつて居る船の間を巧に操縦する事が好きである、それは丁度ストラント通を乗合馬車が大膽に乗り廻つて衝き當るかと思はれるのと同樣である、そして潮が變つて來た時分が一番忙しいのだ、さあ滿潮だとなると彼等は碇舶所から荷物船を曳張りに出掛ける。

「テームス」河の沿岸に棲んで居る住民に就いては驚くべき事が多いし又地方の誇りである。何しろ人口の激増と變化の甚しいのと外國人の御入來等で此地方は愛鄉心といふものがない、乍併両岸の地名表を繰つて見給へ皆んな古い〳〵町村であつて住民の中に幾代も幾代も續いて居るのがあつて教會の結婚帳と洗禮帳と過古帳とにちあんと明記してある。彼等にとつては一家の光榮として居るに相違ないが一定の住居地を動かぬ所に頑固な孤立の生活が營まれて居るので有名である。激しいのになると隣村と口を聽かぬのもある。

何の町でも村でも何處かに其特色がある、若し「メイドン〻

ッド」から「テットベット」迄を訪問して見給へ諸君は彼等の社交的狀態によつて各特色を發揮してゐる事を覺るであろう、そして總じて普通の倫敦つ兒と似てゐることも氣が付くに相違ない「ローザーハイス」に行くと妙に打切られた處だが此處の住民は「呑氣な愛蘭人」で彼等は小舍の中で喧嘩をする酒を呑む、時とすると一家そろつて警察の御厄介をかけることがある、海岸に近い健康地であるが其處の數百の住宅は最近あまりに非衛生的だとあつて破壞されてしまつた。此處を視察する人はヒカデリー街の漂客と同じ樣に「ダルハム」の礦山村を觀て興味を惹くに相違ない。

多くの住民は愛蘭人であるが宗教は羅馬舊教を奉してゐる、しかも教會は那威から來た船員のために建てられた那威教會があるから面白い、彼等は多く木材屋の人足であつて仕事は中々激しい、大程道路鋪裝工事用の木材ブロックを造つてゐる。

レヂエントにはロビンソン、クルーソーが出立したといはれてゐるレッドリフ、ロードといふのがある、レッドリフはローサーハイスの古稱である。鯨業船は多く此處から出航する。此處にはまだ美しい面白い裝飾のある古雅な家が散在してゐる、又馬車もないし繪畫館もない此處には醫者もないさうである、此處は河と船渠で打切られて全く島となつてゐる丈に、倫敦人は一寸訪問する事が出來ない。

此度はベルモンドセイに行つて見やう。此處は皮革業の中心地であるからへんな臭氣が鼻を衝く、セントアンの教會もある此教會は「ベルモンドセイ」の花と稱へられる位に住民の誇とする處だがあんまり感心は出來ない。

船渠の周圍の地區地方は小さき街が幾哩も連なつて居て朝の散歩でもして見給へ汚ないので陰氣な氣持になつてしまふ、要するに船渠の仕事は生活のための奮鬪舞臺である、雇主は折々其工場の門前に職を求める連中に待たれてゐる。此等の慘な生活と、其數の偉大な事を考へて見給へ、幾百萬の住民がテームスの沿岸に集まつて居るのだが、割合に悲劇が少ない樣である河から土左工門を發見して引上げると規定の賞金を與へられる事になつて居るので、水夫が折々目を光らして「探し出したぞ」「これで仕事になる」と嬉しがるのを見受ける。規定の額といふのは一人五シルリングである。

倫敦港には二人の郵便屋がある、一人は倫敦橋から「ライムハウス」の間を今一人は「ライムハウス」から「ブラックウオール」の間を「廻る」事になつて、一日一回づゝ午後に廻る事になつてゐる、彼等は亦船員から陸上への手紙を届ける、彼等は規定の制服を着けてゐる、そして親切で丈夫で見事に一人乘の小舟を操つて稅關附近の船を廻つてゐる、陸上の郵便夫と同じ樣に常に位置の更つてゐる船を尋ね出す、彼等が港内の船員に愛されぬ筈がない、だから冬の寒空や濃霧の日か或は雨の降る日には多くの船員を失望させるのである。

「あれあすこに彼が」!「そらあすこに」!と私の田舍の友達が倫敦橋を渡つてゐるとき急に叫んだ事がある、「誰」?「何んだ」?と驚いて私が尋れた「あすこに彼がゐる!」、さうだ彼か行くぢあないか」!と續けて叫ぶ此男は倫敦が初めてであるのだ橋の上に靜肅に群がつてゐる雜沓の間に一匹の白馬を見たので

ある、「私の村での話に倫敦橋の上にはいつも必ず一匹の白馬がゐると聞かされてゐる彼處に居るぢあないか」と此男は叫ぶのであつた。

これは不思議な事だが事實である、吾が大都會の樂しい遊歷の中で「倫敦橋の白馬」丈は私が詳しく實見したものだ。子供の時分から聽いてゐるが全く事實である。白馬といふても決して同じ馬でないが倫敦橋の上にはきつと白馬が居ないといふ事はないのだ。

稅關はビリングスゲートの次にある、そして河岸には廣い波止場があり絕えず御役人樣が尖つた帽と綺麗な青い制服の眞鍮ボタンを光らして檢閱をやつてゐる。稅關は其名の如く租稅課の一部が出張したもので港內貨物の課稅を徵集する處で數百人の吏員が稅金の忌避を防止してゐるのだ、今日でも密輸入をやる敏こい男がある、時とするとよく御役人の目を盜む、監守は陸上と水上の二つに分れて居る。後者はボートで河中を警戒して居るのみならず乘り込んで水兵の荷物等を臨檢し、陸上係は波止場の荷物の見張をなし又倉庫より積出しの貨物を取扱つてゐるのみならず檢查後貨物の「ゴマカシ」を見廻つてゐる。

稅關の下に「皇室の倉庫」がある、そこには沒收された荷物の記錄を保管してゐる、此等の荷物は入札或は競賣に附せられるビリングスゲーの蒸氣船の或船員は忙しそうに波止場を通拔けやうとした時に御役人に帽子を取上げられおまけに煙草のパイプに一封度の稅を課せられたそうである。

稅關の御役人と水上警察の巡查は、河の中に沈められてあるいつか取り出されるのを待出てゐる密輸入品を探がす、これ等の貨物はバケツに入れて沈められ系に木桴を付けて目印としてゐる。陸上の「掻去ひ」は時々河の中の此等の贓品を盜むことがある。

今度は歐羅巴一番の景色を御紹介しませうか、天氣のよい日の午後にウヲテルロー橋に來て見給へ、太陽樣が南の方へ廻られた時金色の光が昔のテームス河の北岸のコーシック流の立派な御殿の並んだ邊に投げられる。諸君は巴里のセーヌ河のセントクラウドから眺めた景色を何ともいへぬといふだろう、又シエンブルム帝國公園の綺の樣なクロリエッタに行つた時の事を忘れますまい又は伯林のブランデンブルグ門の氣高い壯景を思ひ出す事もありませう。

だが諸君は「ペニーバス」の上の都會のよい席からウヲテルロー橋を過ぎつた場合に天氣のよい日か霧の變化の多い日に氣を付けて此岸の西側を御覽なさい近代文明を誇る宮殿建築の一列に蓄き出される景色は蓋し天下の絕景であると思ふ。

一人の乳母がセントトーマス病院の窓の所に立つてテームス河の南側から北側の建築の列を眺めて斯いうた、「此處が私等の働く處で、彼處が皆樣の御話になる處ですよ」

彼女は正しい事を云うたが又間違つてゐる。テームス河の誇るべき景色は其處ばかりではない。ウエストミニスター宮の氣高い正面の壯觀は獨逸の國會議事堂を持つて來たら其一角にも及ばないが、同時に南岸を見給へ！其處には病者のための大宮殿があるではないか、セントトーマス病院の建築も寔に結構なもので人間の自由と進步を物語る點に於てウエストミニスターの議事堂と優るとも劣る筈がない。（了）



時報

客月末より開かれたる地方長官會議は、時恰も現内閣成立以來初めての事なると同時に地方官の大異動を後に加へ、比較的重要問題の當然其議に上るへく豫想されたる事項多々ありしことゝて、世の注意を惹けること鮮からざりしが、果然、我日本建築協會としても、茲に報導するの重要なる事項あるを發見せり、仍て、其概綱を左に揭載し、以て讀者の參照に供することゝせり。

内相の訓示

諸君、現内閣成立以後書面を以て所見を述べ諸君の御努力を願ひ置けり、留來帝國議會に於ける論議に依り又首相の訓示に依り現内閣政見の在る所を知り得たりと信ず、仍て、予は茲に其補足までに一二申述ぶることゝして諸君の御意見を承ることに致し度し。

大正の御代に於ける吾人の重大なる責務の一つは憲政の發展自治の振興に在り、即ち、今回議會に於て、衆議員議員**選擧法**の改正を企て、選擧權の擴張と共に選擧區制の改正を行へり、選擧の改善には法の改正固より必要なれども、同時に又選擧の意義を明にし、其重大なる責任觀念を普及せしむること最も大切なりと思考す、諸君に於ても、法の執行上に注意せらるゝと共に、立憲思想の普及と自治精神の貫徹とに深く注意努力せられんことを切望に禁へざる處なり。

思想問題　大戰以來時局の影響を受けて思想上の變化を見るは、蓋し已むを得ざることなり、斯の間に處して秩序あり健全なる發達を遂げんことは最も深甚の用意を要する處なり、蓋し弘く智識を世界に求め大に皇基を振起すべしとは維新以來の國是にして、又古來よりの歷史に徵するも、我國民は常に能く外來の思想を多々益々辨消化し來れり、外來の思想を多々益々辨して以て愈々皇基を振起せんことは最も望む處なり、唯國家社會に危險なりと認むる言論は固より取締るべしと雖も、徒に外來思想に杞憂を懷くの必要はなし、要は唯自己の胃腑を平生に於て强健ならしめ置くに在り、斯の点に就ては諸君と共に努力せんことを期す、國民生活の安定に關する問題に就ては法制の力に俟つ

べきもの多々ありと雖も、法制以外に於てなすべきの事項決して少からず、之等は切に諸君の注意と盡力とを仰ぎたし、社會は何處までも協調的ならざるべからず。

勞働者問題　資本と勞働の問題の如きも之を道德經濟論より論じ、決して二者横斷的に對抗すべきものにあらずして、縱斷的に協力すべきものなり、然るに、歐米に於ては產業界を横斷的に分劃し、資本に對抗して勞働組合の發達したる如きは直ちに採つて範と爲すべきものにあらず、然れども、今や日本は實に斯の分岐点に立てり、能く歐米の弊を避けて其利を收めんことに注意するを要す、故に、横斷的組織の組合は之を自然の發達に任せ、進んで法律を以て之を公認し奬勵するが如きは予の欲せざる處なり、寧ろ事業本位工場本位なる組合の成立を望むもなり、目下幸にして未だ困難なる失業問題に逢着せざれども、今日より諸君と共に注意すべきことなり。

人心の倦怠　は國家の大患なり、直接地方行政の任に在るの諸君は、親しく民情の視察を遂げ、能く民意の在る處を察し下情上達の途に於て缺ぐる處なきを期せられたし、又、是と同時に法令豫算等の執行に際しては、普く其趣旨貫徹に一層の努力あらむことを望む、事務處理上に就ては、敏速處理すべきは勿論、深く人民の便宜に注意すべきは當然のことなれども實際には、役所側の便宜を見て人民の便宜を重要視せざるも傾向あるは甚だ遺憾とする處なり、是れ、諸君に於て細心の注意を拂はれむことを望む、曩に地方施治に關しては各其責任のある處を明にし、事務の敏活を期せむが爲、力めて權限委任の方針を採るべきことに申置たり、爾來諸君より提出の意見頗る多數に及びたるは予の滿足する處にして、成るべく其意見を採用せむことを期せり、其自己の責任に關することは猛然之を處理して、敢て遲疑回避せられざるを望むと共に、現下曠古の時局に際會しては更に進むで時に應ずるの措置を採らむことを希望す。

斯くの如く內相の訓示了りて更に左の指示事項に就き內務當局者の說明ありたり

港灣の施設に關する件
都市計畫の施設實行に關する件
市區町村吏員の優遇に關する件
道路衛生事項に關する件
道路改良に關する件
警察法令の改廢に關する件
神社行政に關する件
神職養成に關する件
神事舊慣の保持に關する件
戰後民力の涵養に關する件
地方青年團體に關する件
部落改善に關する件
水害法規の施設に關する件
衛生に關する法律の制定改正の件
寄生蟲驅除奬勵に關する件
史跡名勝天然記念物保存法に關する件
國勢調查施行に關する件
右の外左記の事項を諮問ありたり
一、警察の改善刷新に關し施設せられたる事項の概況奈何
一、道路法の實施並に道路法の附屬命令案の制定に關する意見奈何
一、水利及公有水面埋立に關する法案制定に對する意見奈何

一、勞働者募集取締に關する意見
一、都市計畫法並に市街地建築物法の適用區域に關する意見奈何
一、都市計畫事業の適當なる財源に關する意見奈何

指示事項の說明

一、今回特に制定を見たる**都市計畫法**並に**市街地建築物法**に於ては、近時に於ける都市計畫上最も重要なる新規定を包含せり、斯の事業たるや國民の了解を得るにあらざれば到底之を完成するに由なきを以て、各位は、一般に其必要なる所以を知悉せしめ、時勢の要求地方の狀態に順應して適切なる計畫を確立し、細心の注意を以て執行を完了せられんことを望む。

一、今回政府に於て、**港灣設備の改良**に資するが爲、國の施設に係る港灣工事の統一を圖り、之を當省の所管に屬せしむると共に、神戸、門司兩港修築の計畫を確立し、本年度より着手するに至れり、各位亦地方に於ける港灣利用の趨勢を稽査して適當の計畫を定め、地方財政の狀況に應じ、政府の施設と相呼應して之が實行を圖り、以て時世の要求に適應せられんことを望む。

一、多年懸案たりし**道路法**制定せられ近く其施行を見るに至らんとす、本法の實施に方りては、地方の實情に顧み、以て本法制定の趣旨に副はんことに力めらるべし、殊に、府縣道の路線選定に就ては最も愼重なる調査を遂げ重きを交通經濟に關する各種の資料に置きて府縣内交通の系統を組成し、以て取捨必ず適切確實なる基礎に準據するを要す、尙郡道以下路線の選定に就ても亦如上の趣旨を徹底せしむるに於て遺算なからんことを望む。

一、古來各地に傳へ來れる神事に關する習俗に就ては、公安を害し風俗を紊るの虞あるものの外、成るべく之を保持し以て國民性の涵養に資せられむことを望む。

一、戰後の民力の涵養に關しては、眞に大綱を揭げて訓示する處あり、地方に依りては、既に職員を設置して着々之が實施の方法を講じ、本省亦講師を派遣して所在講習會を開催し相共に力を合勵し奬誘掖に力むる等漸次成績の認むべきものあり、尙一層の努力を求む

會報



會誌

一、誰かの說に、人事の現象は凡て一種の音樂なるが故に、音樂其ものと等しく「旋律（リズム）」を以て說明し得るとありますが、本誌も亦幸に斯の「旋律」的な發達を遂げ來つて、茲に亦も五たび號を重ぬることとなりました、會員各位と共に本誌の主張に向つて力あり律呂ある一とつの合奏樂（オーケストラ）を遣ることは、各位が、其司樂者（コンダクター）ともいふべき本誌の目的に向つて旋律を合せらるゝことであります其意味に於て、各位の御意見なり御要求なり凡て本誌を充分御利用されむことを希望致します。

一、曩に議會を通過致しました處の「都市計畫法」及「市街地建築物法」は既に法律として公布せられたることでありますから、斯の建築拘束法の實施を見ることは當協會としても會員各位と共に多少の貢獻致した筈でありますから、何れ一大祝賀會の擧行せられる事を切に祈つて居ります。

交換雜誌

建築雜誌　第三三輯第三八八號（建築學會）
建築世界　第十三卷　第五號（建築世界社）
住宅　第四卷　第五號（住宅改良會）
鐵道協會雜誌　第二十卷　第五號（鐵道協會）
工業之友　第百四十五號（工手學校）
工學之大日本　第十六卷　第五號（工業之大日本社）
鐵と鋼　第五輯第五號（日本鋼鐵協會）

寄贈雜誌

工業評論　通俗衛生
オートモビル　木材新聞
早瀨塗料商報　ペイント商報
造船鐵工時報　大橋月報

新入會員

左の三氏は理事會の承認に依り普通賛助員として入會されたり。

永田實　土屋濱之助
有川淳一

一、左氏は今回理事會の承諾を經て特別賛助員として入會せられたり。

大野靈城

會合

第七部委員會（第四回）

日時　大正八年四月二十一日午後六時半－九時半

場所　大阪市中央公會堂第四號室

出席者　瀨戸、舟橋、須川、佐藤（彰）、森、設樂、田中（豐）、波江、小寺、山崎（書記）

記事

開會に先ち、東京國技館鐵骨崩壞事件に就て各自意見の交換を爲す、

次で委員會に入り、先づ、前回迄に決定せる床板、巾木、腰羽目、框、腰笠木、額緣等に關して決定せる事項を印刷配布し、其誤謬を糺す

夫れより、入口枠、窓枠に就て各自段々意見を述べ、熱心に審議決定する處あり、當夜は是にて一先づ委員會を閉ぢたり。

第七部委員會（第五回）

日時　大正八年五月五日午後六時半－九時半

場所　本協會事務所

出席者　村井、内藤（太）、小寺、青田、森、設樂、田中（豐）、小林（悉）、谷、熊澤、吉木、波江、伊藤（幸）、瀨戸、

記事　前回に引續き、上下窓枠、天井材料等に就て討議し決定する處あり、尙、從來調査せる材料寸法を本誌に發表するの可否に就て協議せり。

理事會

日時　大正八年五月二日午後六時半－九時半

場所　大阪倶樂部

出席者　宗、設樂、松本、片岡、

記事

一、都市計畫法案及市街地建築法は既に法律として公布せられたるにつき祝賀の意を表するが爲め通俗講演會を開催する件につき打合せする處ありたり。

一、設計者並びに請負者との相對關係の現狀につき意見を交換する處ありたり

一、本月例會には會員の講演會を開催するの議ありしも都合ありて第一部委員會よりの懸案につき議事を開く事とし

たり。

第二十三回例會

日時　大正八年五月十七日午後六時半－九時半

場所　中央電設倶樂部

出席者　池田（實）、青田、片岡、葛野、小笠原、置塩、生野、村野、熊澤、佐藤（四）、中川、瀨戸（文）、木子、野村（一）、浦、谷本、片山、田中（豊）、波江、小谷（書記）、山崎（書記）、江村（編輯）

記事

當例會に於ては「大阪府現行建築取締規則修正案」に就て審議すべき筈なりし處、出席者定規の人員に滿たざりしを以て之を取り止め、更に懇談會に入りて春季講演會、東京國技館鐵筋墜倒事件其他に就て各自意見を交換せり。

編輯たより

▲季は活動的なそして鮮彩な氣分を湛はせる初夏となりましたが、我等同人も斯の意氣で捗へ上げました本號を各位の座右に捧げます、▲本號も幸に各種の玉稿が聚りまして頗る異彩を放つてゐることを欣びますが、讀者殊に會員各位が一層本誌を利用なさいまして本誌の有する使命を竭す上に遺憾なきようありたいものでムいます▲何んと申しましても當協會の活動は會誌の上に表現さるべきものでムいますから、各位が孰ろ無遠慮に御高見なり又御注文なりを會誌に御寄せ被下ることは聽て協會の活動と成り目的の遂行と成るのでムいます、斯の点は充分御共鳴被下いましてどし〳〵御寄稿を希いたいものでムいます▲若も御繁務の爲執筆なさいますことの御事情が容しませねば御一報次第編輯員が參りまして拜聽致しても宜ふムいますし、又概綱丈けを御送り被下つたら原稿に仕上げてお目に掛けても宜しふムいます▲本誌に在ります處の大鳴助教授、遠山博士及關博士の御高見は、編輯締切の間に合ひませぬ爲御校閲を經ませぬでした、此儀は御斷りして置きますと同時に、若し誤謬あらば勿論當編輯者の責任であります。

役員及職員

理事長　片岡安
理事　宗兵藏（主記）
　　野村一郎（編輯）
　　松本禹象（編輯）
　　高舟喜一（主計）
　　橋設樂貞雄（編輯）
編輯補　波江悌夫
　　佐藤四郎
　　江村郊邨
書記　小谷信藏
　　山崎萬壽夫

會員	一七八	會員（地方）	三六
名譽贊助員	六五	終身贊助員	三九
特別贊助員	七	普通贊助員	二三三
合計	五五八		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正八年五月二十日印刷
大正八年五月廿五日發行　（每月壹回廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人　伊藤幸太郎
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地
印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地
發行所　日本建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

現行伯林府建築條例（抜萃）



伯林建築條例（抜書）

普通建築條令ハ四十四章ヲ以テ終ル

第一編　建築上ニ對ルス警察ノ要求並ニ制限

第一章　道路トノ關係

第一條　公道ニ接シ家屋ヲ建設スルモノハ該規則ニヨラザルベカラズ

第二條　家屋ノ前面ハ道路ト併行ニ建築スベシ

但シ道路境界ヨリ六米突ヲ隔ツルトキハ此限リニアラズ又道路ノ交叉スル場所ハ隅欠ラナスヲ得

第三條　道路面ヨリ三十五米突以上ノ奥行アル建物ハ建物内ヘ二米突三十珊知高サ二米突八十珊知以上ノ通路ヲ設ケ行通ニ供スベシ

地階ニ於ケル各室ト道路又ハ通路迄ノ距離ハ二十米突以内トナスカ又内庭ヲ設ケ各室ヨリ内庭迄二十米突以内タルヲ而テ何レモ廊下又ハ通路ヲ通リ外出ナシ得ル構設備スベシ

右何レモ一直線ニ測リシ距離ニシテ通路ノ巾トハラダアワイゼルヲ除キ他ノ總テノ突出物ノ尖端ヨリ測尺ス

三十五米突以内ノ建造物ニテモ各室ヨリ道路又ハ内庭マデ一直線ニ測リ二十米突以上ニナスベカラズ

第四條　若シ道路ニ直接ニ接セザル土地ニ家屋ヲ建設セントスルカ又ハ接續建設スルモ坂路ニシテ二十分一以上ノ勾配アル土地ナルカ又ハ建造物五十米突以上ノ奥行ニ達スルトキハ特別認可ヲ受クベシ

第二章　宅地上家屋ヲ建設シ得ベキ面積ノ制限

概則　奥行三十二米突マデノ宅地ニシテ從來建築物ノ存在セシカ又ハ初メテ家屋ヲ建設スルモ此條令ニヨルベシ

三十二米突以上ノ奥行アル宅地ハ市ノ舊城壁内及其範圍外ニアルモノトノ二ツニ區別ス

第一條　宅地内建築シ得ベキ面積ハ道路境界線ニ併行シ奥行ノ長短ニヨリ次ノ如ク區別ス

第一線ハ道路境界線ニ併行ニ測リ六米突迄第二線ハ三十二米突迄而シテ第一線内ノ建物ハ全面積ニ建築シ第二線内ノ宅地ハ其面積十分ノ七迄ノ建設ヲナス事ヲ得

三十二米突以上ノ奥行アル土地ニシテ第二線（三十二米突）以外ニアル土地ハ

舊城壁內ハ十分ノ六城壁外ハ十分ノ五

ダケ家屋ヲ填充スルヲ得奥行三十二米突以上アル土地ヘ建物ヲ填充シ得ベキ面積ハ三十二米突ト其レ以上ノ各割合ヲ加ヘ其宅地上建設シ得ベキ家屋ノ面積トナス

第二 道路ニ對セザル室ニシテ居室ナラザルモ長時間滯在スル室ハ內庭ヲ設ケ光線及空氣ノ直接ニ通ズル樣ナスベシ內庭ノ面積ハ八十米突平方以上其巾ハ六米突以上トス

第一節所載ノ建築シ得ベキ面積ノ總和ヲ其宅地面積ヨリ差引キ殘額八十米突平方以內ノ時ハ六十米突平方迄減シ其巾ハ六米突以上ニナスヲヲ得而シテ殘額六十米突ヨリ以上アル場合ハ殘額ダケ第二ノ內庭又ハ空氣及光線取リノ內庭ヲ設クルヲ得ト雖モ其面積十米突平方巾ノ二米突以上ナルベシ

第一節所載ノ建物填充ナシ得ベキ面積ヲ宅地總坪ヨリ差引キ殘額猶六十米突平方ニ達セザル場合ハ內庭ヲ四十米突平方其巾六米突ニ減シ得ト雖モ內庭ニ添ヒ居住人ハ長時間滯在ノ室ヲ設クルヲ得ズ

第一線ニ六米突ノ後部ニアリテ其面積五十平方米突以內ノ時ハ本內庭ヲ設クルニ及バズ但此場合ハ屋室及ビ長時間滯在室ハ道路面ヘ對セシムベシ尙ホ面積二十五米突平方其巾四米突以上アル小內庭ヲ設ケ光線及空氣ヲ直接ニ受ケシムルヲ要ス

奥行六米突以內ノ土地ニハ內庭ヲ設クル必要ナシ

第三 小時滯在スル室ハ最小限內庭（小內庭ヲ云フ）ニ添ヒ設クルヲヲ得

但洗濯仕上ゲ場家事用品貯藏室等ハ小時滯在室ノ內ニ算セズ

第二ニ關セズ小時滯在用ノ室ハ二十五米突平方巾四米突以上タルベシ

第四 營業上門番、家僕、番人等ヲ置ク必要ヨリ五人以內ニ對スル面積ヲ要スル時ハ內庭八十米突巾六突以上アル場合ニ限リ其內庭面積ノ半バ迄硝子天井ニナスヲヲ得ト雖モ內庭面積ヨリ硝子屋根面積ヲ除キ殘額即チ屋根ナキ面積六十平方米突ヲ有シ狹キ所ニテ六米突ノ間隔アルヲ要ス

右規定ハ製造所、瓦斯、料理店、旅宿店、火ヲ取扱フ營業及地面ヲ離レ取扱必要アル營業者ニ適用セズ

硝子屋根ヲ設クルニハ次ノ條項ヲ心得ベキヲ

硝子屋根頂點ノ高サハ地階ノ天井ヨリ二米突以上高クナスヲ

建物ノ天井及階段ハ不燃物質タルヲ

工場（製造所ニアラズ）ニハ非常用階段ノ外工業上專用階段ヲ設クベシ

通路ヲ內庭硝子天井內ニ設クルニハ周壁ハ不燃材料ニテ仕切ヲヲシ空氣及光線ニ注意スベシ又隣接スル室ノ採光及喚氣ノ妨ヲナスベカラズ

通路ハ天井ヨリ採光及通風ノ便アル時ハ側壁ヲ設クルヲヲ得內庭硝子天井ノ下ニ設クル室ノ天井ノ高サハ一米突六十珊知以內トス

硝子張內庭ハ第二節內庭面積ノ內ニ計算ス

硝子張屋根下ハ二層丈ケ出廊トヲ設クルヲヲ得

土地ノ使用方法以上記載ノ規定ニ反スルキハ內庭ヲ硝子天井ニナシ又何等建設ヲ

ナスカベラズ

第五　宅地面積ヨリ道路ニ接シ設クル前庭ノ面積ヲ差引キ尚ホ家屋一部ノ突出、廂所、廻廊、内庭ヘハヂダシニ造作セシ部分三十珊知以上ノ突出アル蛇腹等ノ面積ヲ減ジ殘餘ヲ空地ト定ム

建坪トシテ加算セザルモノ次ノ如シ　内庭内ヘ土中室ヲ設クル場合二平方米突以内ノ面積ニシテ開放セル硝子屋根、外部ニ取付ケアル昇降機ノ屋根、三平方米突以内ノ土中室階段ノ覆ヒ物、灰及塵芥箱、洗出シ階段ニシテ其面積三米突平方以内其高サ一米突以内ノ地境界板垣又ハ鐵柵或ハ耐久壁ニシテ其高サ二米突以内其厚サハ支持スルニ適度ナルトキ

第六　内庭ニ庭作ヲナスコトヲ得但シ樹木植付及圍垣設置ニ關シテハ警察署之ヲ支配ス住者ノ通行ニ差支ナク且消防條令ニ違反セザル樣注意スベシ

第三章　高　サ

建物ノ高サトハ(正面ノ高サ)街路ニ接スルモノニアリテハ人道表面ヨリ軒蛇腹マデヲ云ヒ後方建物ニアリテハ庭園ノ表面ヨリ軒蛇腹ノ上端マデヲ云ヒ而シテ若シアツチカ軒飾ヲ設ケタル場合ニハ其上端マデヲ稱スルモノトス正面壁ノ縱長方向ニ於ケル人道又ハ庭園ノ傾斜アルモノニアリテハ中央ノ高サヨリ測ス

1 建物ハ正面壁ニアリテハ常ニ十二米突ノ高サトナスヲ得レドモ二十二米突以上ニ築設スルコトヲ得ズ而シテ其中間ノモノニアリテハ次ノ規定ヲ適用ス

(イ)街路ニ接スル各建築物ノ高サハ建物ノ前ニアル道路又ハ其一部ノ廣サト均シカラシムルコトヲ得側面翼ガ五、五〇米突以下ノ長アルトキハ(前面建物ノ後部正面ヨリ測ル)前面建物ノ高サヲ有ス但此場合ニアリテハ該側面翼ノ部分ニ最上階マデ達スル階段ヲ備フルヲ要ス、前面建物ノ後部正面ノ高サハ街路正面ノ高サニ超エルコトヲ得ルモ庭園ノ測定後、後部建物用トシテ許可セラルベキ平均高(イ、ロ)ヨリ三米突以上低キヲ要ス

而シテ此他何レノ場合ニアリテモ後部正面ニ於テ鉛直ニ測リタル庭ノ幅員ヨリ三米突以上高キコトヲ得ザルモノトス屋根又ハ軒蛇腹ノ突出ガ〇、九〇米突ニ超ユル場合ニアリテハ許可ノ高サヨリ其超過セシ尺度ヲ控除ス一側面ニシテ建築ナスベキ街路並ニ幅二十二米突以上ノ廣場ニアリテハ高サヲ二十二米突マデトナスコトヲ得街路幅平均セザル場合ニアリテハ一般ニ平均幅ヲ以テ全建物高サヲ定ム隅角地ニアラザル地面ガ相異ナレル街路ニ接スル場合ニ於テハ各街路ニ從テ正面高ヲ測定スベキモノトス角家ニアリテハ全建物ノ高サトシテ一般ニ道路平均巾ヲ撰定シ又ハ建物各部ノ高サヲ其前面ノ街路幅ニ等シカラシムルコトヲ得廣キ街路ニアリテ許サルベキ高サハ狹キ街路ニ於ケル隅角ヨリ測リテ其狹キ街路巾丈ケ持續ナシ得但シ常ニ十二米突ヲ超過スベカラズ建築線後ニ全部又ハ一部退設シタル前面建物ノ高サハ相當ニ增加スルコトヲ得

(ロ)後部建物(側面翼、中央翼、横ノ建物、側面及中央建物)ノ高サハ園壁ヨリ鉛直ニ測リテ建物前面ノ庭ノ

幅員ヨリ六米突以上多キコトヲ得ズ

後部建物前面ノ庭形ガ均シカラザル場合ニアリテハ其建物ニ對シテハ次ギノ平均計算ヲ行フ

各正面部分ノ長サニ（庭面ニ添ヒ測ル）前項規定ノ許可セラルベキ高サ即チ二十二米突ヲ超エザル尺度ヲ乘ジ其積ノ總數ヲ長サノ總數ニテ除シ其商ヲ許可ノ高サトス

同一庭園ノ後部ニアル建物ノ正面ハ共通セル平均高サトナスコトヲ得而シテ其高サハ前記方法ヲ以テ求ムルコトヲ得ベシ

二箇所以上ノ庭園又ハ其部分間ニアル建物ニアリテ其正面ヲ相當ニ相異レル高サトナスコトヲ得ザル場合ニアリテハ庭面ニテ測リタル正面長サニ相應スル中央ノ高サヲ全建物ノ尺度ト定ムルコトヲ得

前記中央部尺度ノ測定ニ依リ各建物ノ正面高サ即チ該正面ニ於テ鉛直ニ測リタル庭幅ノ二倍以上ノ尺度ヲ得タルトキハ此庭ニ接スル建物又ハ其一部ノ正面ノ高サハ右二倍迄ノ尺度ニ制限スベシ深サ〇、六〇米突以下ノ眞角ナル突出壁ノ側面ハ正面ノ長サトシテ計算セズ

前記建物ノ高サニ關スル制限ハ內庭ノ圍壁ニ之ヲ適用スルコトナシ

現存セル後部建物ノ高サガ其前面ノ庭幅ヨリ（圍壁又ハ壁ヨリ眞角ニ測リ）六米突以上ヲ超エ其超過數ガ庭ニ接スル他ノ建物ノ不足尺度ニ依リテ平均スルヲ得ザル場合ニアリテ同庭ニ接シ又別ニ建物ヲ設クルニ當リテハ平均數ニヨリテ其許スベキ高サヲ求ムベシ（本項3節）但此場合ニアリテハ現在建物ノ正面ノ高サヲ算入スベシ

（ハ）第二條第四號ニ記載セル庭屋根ヲ除キ此種ノ建增シ及獨立建物ニシテ最上部屋緣マデ六米突ノ高サヲ超ユルコトナク且四十米突平方以下ノ面積ヲ有スルモノハ後部建物正面壁ノ許可セラルベキ高サヲ計算スル場合ニハ之ヲ除ク

2 許サルベキ正面高サノ上部ニアル屋根ハ正面ニ對シテ四十五度ノ角ヲ有スベキ氣線外ニ突出スベカラズ此規定ニ從ハザルモノハ次ノ如シ

即チ屋根樋防火壁、煙突、避雷針、旗竿及屋根窓之レナリ但屋根窓ハ正面ノ後方ニアリテ一平方米突以下ノ見付面ヲ有シ且ニ窓相互ノ間隔ガ二、五〇米突以上ニシテ隣地境界ニ對シテハ三米突以上ノ距離ヲ有スル場合ニ限ル

3 四十五度及六十度ノ角ヲ有スル兩氣線ヲ屋根棟ニ向ヒ畫キ測リタル高サノ半バヲ軒高ヨリ減ズルトキハ屋根斜角ハ六十度マデ增加セシムルコトヲ得

4 塔、破風、屋根窓等の街路ニ接スル壁ノ上ニ設クルトキハ此等建增物ノ正面面積ノ平均高サヲ規定軒高ヨリ減ジ建物ノ高サトス又本屋根ノ規定以上ノ高サアルモノハ其超過平均數量ノ半バヲ減ズベシ然レドモ建增物（塔破風其他ノ高サハ許可セラルベキ正面高サノ三分ノ一人幅十二米突以下ノ街路ニアリテハ其道幅ノ三分ノ一ヲ超過スルヲ得ズ

第四章　內庭ノ共用

1 高サ二米突以內ノ堺壁ヲ設ケ內庭ノ巾六米突以上ニシテ單獨ノ庭ヨリ共用スル方採光喚氣トモ充分ナル場合ニ限リ第三章一節ニ關セズ隣家內庭巾ノ半バヲ加ヘ內庭面建物ノ高サヲ定ムルヲ得

2 隣家相互合意上内庭使用ニ付キテハ後來當事者ニ於テ採光等ニ不利ノ變更ヲナサヽル義務アルモノトス而シテ土地臺帳ニ其旨登記スベシ

3 警視廳ニ於テハ關係者ノ証明ヲ經共用許可又ハ共用廢止ノ認可ヲ與ヲ

4 共用者ニシテ廢止認可ヲ受ケザル間ハ内庭ヲ縮少スルヲ得ズ

5 内庭共用者ニシテ廢止認可ヲ受ケシモノハ普通建築條令規定ニ據ルベキモノトス

第五章 建物ノ間隔

1 相互聯接セザル家屋又ハ一家屋ニ屬スル建物ト雖モ密接セザルモノハ左ノ制限ニヨリ隔離スベシ

相對スル壁面ヘ窓等ヲ有セザルトキハ其間隔二米突半トス

相對スル壁面ヘ窓等ヲ有スルトキハ六米突ノ間隔ヲ設クベシ

壁面ヘ六十珊知以内ノ突出又ハ入込ヲ設クルモ相對スル壁面ヘ窓ナキトキハ二米突半ニテ可ナリ

2 相對スル建物又ハ壁ト稱スルハ七十五度以内ノモノヲ云フ

3 隣地境界ニ接シ建築セザルトキハ總テ前記二米突半又ハ六米突ノ間隔ヲ設クベシ

第六章 構造及材料

1 建物ノ全部技術上合法トシテ材料良質適當ノモノヲ用ユベシ

2 材料ノ強及耐力等概要ノモノハ警視廳ニ於テ之ヲ一定シ布告ス

第七章 耐久壁(煉瓦又ハ石造ノ意)

1 第八章第十章ヲ除キ建物ノ周壁及床受壁(建物突出部(通風機ヲ除)ハ耐久壁トナスベシ

2 場所ノ關係、建物ノ使用目途等ニ依リ耐久壁ノ替リニ鐵製又ハ波形抜ヲ使用スルヲ得

3 隣家境界ニ接觸シ建築スルカ又ハ隣家トノ距離六米突以内ノモノハ防火壁ヲ設クベシ而テ其壁厚ハ二十五珊知以上ニシテ窓其他孔ヲ設クベカラズ防火壁ハ屋根上二十珊知高ク突出セシムベシ

4 室内採光ノ爲防火壁ヘ一珊知以上厚キ硝子ヲ用ヒ其面積五百平方珊知以内ニシテ壁ヘ積込ナシ空隙ナキ様密鎖ナストキハ毎階一列ニナシ其壁巾三米突以上間隔ヲ置キ設クルヲ得

5 建物内ニ於ル距離四十米突毎ニ防火壁ヲ設クベシ該壁ヘ入口ヲ設クルヲ得レドモ屋根階ニ於テハ防火防煙自在開閉戸ヲ設クベシ建物使用目的ニヨリ防火壁ヲ設クル能ハザルトキハ此限リニ非ズト雖ヘ其用途變替ト共ニ設置スベキモノトス

6 隣家トノ土地境界上ニ相接シ家屋ヲ建設スルモ各自規定ノ獨立防火壁ヲ設クベシ

7 相隣接スル他ノ家屋ヲ使用スル爲防火壁ヘ入口ヲ設クルヲ得レドモ入口ニハ防火防煙自在開閉戸ヲ取付ケ而シテ該戸ハ開閉容易ナルモノヲ用ユベシ

第八章

本材ト煉瓦又ハ石材積込壁建坪百平方米突以下共前面見付巾六米突以下ノ家屋ハ第七章記載ノ耐久壁ヲ用ヒズ木材ト煉瓦又ハ石ヲ積込ミセシ壁トナスヲ得

然リト云ヘ共公道隣地境界同一地内ノ建物トノ各距離六米突以内ノ時ハ該壁ハ十二珊知以上ノ厚サアル耐久材料ヲ以テ外面ヲ張付ケザルベカラズ

一時的トシテ且使用目途ニ依リ前規定ニ依ラズ建造スルコトヲ得レトモ間隔六米突ヲ保持スベシ

第九章　物置及小舎

物置場ノ周壁ハ小屋、庭園ノ廊下涼臺、亭、投球場等ノ小建造物ノ周壁ハ木材、薄鐵葉針金入漆喰、石膏板其他同種類ノモノヲ以テ構成スルヲ得

此等建造物ハ面積二十五米突壁高三米突ヲ超過セザルヲ普通トス而シテ木材家屋道路及隣家境界ヨリ六米突以上ノ間隔トナスベシ屋根ヲ木材トナスカ又ハ木材ヲ直接外部ニ露ハス事ハ其狀態ニ依リ特別命令ニ依リ許可ス

第十章　負重セザル仕切ノ壁

負重セザル界壁ハ薄鐵葉、針金入漆喰石膏板又ハ此等類似ノ材料ヲ用ヒ梁上ニ取付クルヲ得

木材仕切リ壁ハ外部ヲ漆喰塗ニナシ火氣ノ容易ニ燃付カザル樣ナスベシ但シ粘土塗リトナスヲ許サズ

木製仕切リ壁ニ於ケル空隙ハ不燃性且衛生上害ナキ材料ヲ以テ填充スベシ家政上ノ附屬室トシテノ仕切壁ハ木材ニシテ漆喰ヲナサヾルモ可ナリ

第十一章　天井

木梁天井ハ十三珊知以上厚サノ不燃性ノ材料ヲ填充シ天井板上端ハ目塗ヲナスカ（但シ粘土ヲ塗ルベカラズ）又類似ノ方法ニテ耐火質ノモノヲ張付ベシ耐火的天井構造ナル時ハ目塗及填充ヲナスニ及バズ

梁天井及丸天井ノ填充物ハ衛生上害ナキ物質ヲ撰ブベシ建築上ノ屑物（木片鉋屑等）ヲ以テ填充スベカラズ

其他如何ナル構造ナルモ火災衛生上ニ適スル樣ナサヾルベカラズ

上記規定ニ依リ構造スル天井ハ外部ニ木材ヲ張付クルヲ得

漆喰ヲ施スコトナク鉋削リセシ木製天井トナスコトヲ得ル場合ハ次ノ如シ

甲　火氣ヲ用ヒザル建物

乙　平家建ニシテ内法高五米突以上ノ特ニ寺院体操場、待合場、乘馬場博覽會等

丙　穀物、粉、麥芽等ノ貯藏場ニシテ火焚場トノ間耐火壁ニシテ火焚場天井モ亦耐火物尙ホ特別廊下アル時

丁　屋根ヲ直チニ天井ニ使用シ木材ノ顯ハレシ部分ハ鉋削セシトキ

第十二章　屋根葺

一般建築物ノ屋根ハ石類、金屬、紙瓦、ホルトセメント、硝子等ノ容易ニ火災ニカヽラザル材料ヲ用ユベシ

屋脊上ニ存在スル孔口例ヘバ屋根窓ノ如キ其隣接地境界ノ距離等ヨリ一定スルモノニシテ外壁面上窓戸ヲ設クル場合ト異ナルナシト雖トモ屋背ヨリ光線ヲ導ク採光及通風孔ニ應用スベキモノニ非ズ

屋根傾斜ノ度又ハ位置ニヨリ積雪、氷塊又ハ職人等ノ墜落ヲ防ガン爲メ特ニ注意スベシ

硝子屋根ニナス時ハ上面下面ヘ針金網其網目五珊知以下ノモノヲ取付ク針金鐵込硝子ヲ用フルキハ此限リニ非ズ

第十三章　突出スル建物ノ一部

屋根ノ外壁又ハ屋根ヲ越ヘ突出セシメントスルニハ屋脊上或ハ外壁上ニ製スル各規定ニヨリ其用材ハ同物質ヲ以テ之ヲ構造スベシ但シ風呂筒ノ頂頭非常用ニ非ザル持放ニ階段ハ隣家ヨリ三米突以上ノ距離アル屋根又ハマンサード洲屋根窓ハ此限リニ非ズ

屋根蛇腹ハ木造ナルモ差支ナシト雖モ軒蛇腹ハ隣家ニ接スル一米突間ハ不燃材料ヲ用ヒザルベカラズ

漆喰硬厚紙ニセメント等ヨリ作製セル裝飾物ヲ外壁上ニ取付ケントスルニハ木材上ニ非ズシテ之ヲ本築壁ヘ堅牢ニ取付クベシ

其他障害ナキ限リ木材構造ニナシ屋根部ノ突出ヲ許ス事アルベシ

第十四章　建築線ヲ超ヘ建物一部ノ突出

建築線ヲ超ヘ建物一部ノ突出シ得ベキ制限左ノ如シ

建築線ニ關スル事

隅出建物一部分ノ壁突出ハ道路面建物長サノ三分ノ一各階ニ於ケル出窓出廊下等ハ三分ノ二丈ケ其巾サトナス事ヲ得最上階又ハ屋根階ヲ設クル隅出建物ノ一部分突出出窓ハ此規定ニ依ラズ

建築線ヨリ三十珊知以上ノ突出アルモノハ隣家ヨリ最少距離一米突トシ其測定ハ突出ノ寸法一倍半丈ケ隣家ヨリ隔ツルモノトス

突出物各自ノ距離モ一倍半トナスベシ出隅、建物ノ一部出突ハ相互ノ距離四米突以上トス

人道面上部空間ニ於テ出窓出廊下、建物一部ノ突出ヲナサントスルニハ道路巾十五米突以上ナラザルベカラズ此等突出物ノ下部ハ人道面ヨリ高キ二米突以上トナスベシ

十五米突以下ノ道路ニ於テ出窓、出廊下建物一部ノ突出ハ六十珊知ヲ超過スベカラズ二十二米突巾ノ道路ニハ一米突三十出隅ヲ設クルハ十五米突以上ノ道路面ニシテ人道面少ナクモ三米突以上アル場合ニ限リ二十五珊知丈ケ突出セシムルヲ得

穴庫坑ハ人道ヨリ三米突以上ノ時三十珊知其附屬材ハ六十珊知以内ノ突出トナスベシ

側石及敷石蛇腹等ノ突出ハ人道面三米突以内ノ時ハ十三珊知トス

入口階段人道面四米突以上ノ時ニ限リ二十珊知ヲ突出セシムルヲ得

道路面ヘ開ク入口窓等ノ扉ハ人道面上ヨリ其下部三米突以上高クナスベシ

前庭ニ建物一部ヲ突出セシムルニハ其庭中ノ三分ノ一丈ケトナスヲ得レ𪜈二米突二十珊知ヲ超過スベカラズ

前庭ニシテ既ニ法定道路ナルカ又ハ取除クベキ必要アル場所ハ建築條令ニ關フベキモノトス

内　庭

出窓及建物ノ一部ハ第二三及五章ニ準ス

出窓及出廊下ノ最大突出部ヨリ相對スル出窓、出廊下、壁又ハ隣地境界迄ノ距離ハ八米突以上ナラザル可カラズ

出窓、出廊下ニシテ其側ノ隣家ヨリ二米突牛以内ニアル時ハ隣家ニ面シテ高サ二米突以上ノ耐火壁ニシテ該壁ニ何等ノ孔口ヲ設クルヲ得ズ

第十五章　建物前面ノ孔口

土中室ヘ採光ノ爲人道面ヘ坑ヲ設クルニハ人道巾三米突以上ノ時ニ限リ之ヲ設クルヲ得ルトス云ヘ𪜈人道内ヘ突出スル事三十珊知以上ナルベカラズ而シテ其蓋ヒハ三珊知以内ノ間隔アル鐵桟ヲ以テ排列スルカ蓋ヲ設ケザル場合ハ鐵製平滑面ナル柵ヲ以テ圍饒スベシ而シテ其高サハ一米突以上トス

土中室ヘ通ズル階段ハ人道面ヘ接觸セズシテ孔口ヲ設クルモ尚ホ其孔ハ前記ノ鐵

桿蓋又ハ欄干ヲ取付クベシ

採光坑ノ規定ハ第三十七章ヲ參考スベシ

第十六章

平家建ナラザル家屋ハ一箇又ハ夫レ以上ノ階段ヲ設クベシ而シテ該階段ハ道路又ハ内庭ニ通ズルニ便ニシテ非常用ニ兼用スベシ屋根層ノ關係尚ホ使用目途ニ依リ例外トナス事アルベシ

各室内何レノ点ヨリ測ルモ階段迄ノ距離三十米突以内ノ距離ニ階段ノ存在ヲ要ス

土中室ニシテ居住用ノトキハ規定ニヨリ階段ヲ設クベシ居住用ナラサルトキハ其距離ヲ大ニナス事ヲ得

最上階床高地盤上七米突以上ノ時ハ少ナクトモ二箇以上ノ階梯ヲ設クベシ而シテ其階梯ハ各其室ヲ異ニスベシ二箇ヲ設ケザルヒハ耐火非常用階段一箇ヲ設クベシ

最上階床十一米突以上ノ高サアルモ非常用階段一箇ヲ以テ許可スル事アルベシ

最上階トハ屋根層ニ居住室ヲ設ケザル場合ニ限リ之ヲ階數ニ算入セズ

室内非常ノ階段トハ採光孔ノ外溜場、廊下トモ悉ク耐火性材料ニテ圍繞セシモノヲ云フ

非常用階段ニ接スル隣室ヨリ階段直接孔口ヲ設クベカラズ持出シ階段ニシテ非常用トナスニハ其高サ二米突以上トナスベカラズ

非常用階段ハ家事用ノ室ト接近シ而シ階段巾ハ手摺内法一米突以上トナシ安全ニ昇降ナシ得ル樣且ツ日光ノ射入ヲ充分ニナスベシ

安全ニ通行シ得ル階段トハ踏面二十六珊知以上蹴上ゲ十八珊知以内ノモノヲ云フ廻リ階段ハ最狹部ニ於テ踏面十珊知以内ヲ許サズ

階段ニシテ両側壁ヘ積込アルトキハ其一側ニ手摺笠木ヲ取付クベシ一側壁ヘ取付ケアル時ハ子供ノ落下セザル程度ノ手摺ヲ設ケ其高サハ別ニ之ヲ定ム

非常階段ハ屋根層ニ達セシムルカ屋根層階段ヲ其階段ニ接近シ且ツ見出シ易キ場所ニ設クルカ其一ツタル事尚ホ耐火構造ニナスベシ

屋根ヘ通ズル階段巾ハ直行階段又ハ廻リ階段ニナスモ妨ゲナシト雖モ其巾七十五珊知頭部ノ高サ一米突八十珊知以上ナラザルベカラズ

持出シ花崗石階段ノ踊場ハ同樣花崗石ニナストキハ鐵梁煉瓦迫持スベシ

耐火階段各段ノ上端ハ木材ヲ取付クルモ差支ナシ

非常用木製階段ハ裏面ヲ漆喰スルカ又不燃質ノ材料ヲ取付クベシ

非常階段ノ踊場ハ正方形即チ其中央ニテ測リ長サ及巾ヲ同樣ノ寸法ニナスベシ階段廊下ノ巾モ亦同シ曲リ隅ヲ設クルハ階段巾一米突二十五珊知以上ノ巾ヲ有スル場合ニ限ル階段巾一米突七十五珊知以上ノモノハ踊場中一米突七十五珊知ニ止ムルヲ得

第十七章　明取坑

明取坑ハ十米突平方ニシテ其巾二米突以上圍壁ハ家根面ニ達スルマデ耐久壁ナラザルベカラズ而シテ圍壁ノ高サ地盤ヨリ十二米突ノ間ハ六米突平方其巾一米突半トナス事ヲ得明取坑ノ下部ニハ新鮮ナル空氣ヲ流通スル樣設備スベシ而シテ其通風口ノ大サハ三十珊知平方以上トナスベシ

一室ニ直接屋根面ヨリ採光スルニハ圍壁ハ耐久壁ナラザルモ單ニ不燃性材料ヲ用

ユル而已ニテ可ナリ而シテ其坑ノ面積モ前記ノ平方積ヨリモ少ニシテ差支ナシ

明取坑ヲ硝子又ハ他ノ方法ヲ以テ覆フトキハ空氣ノ流通ヲ充分ニナスベシ

明取坑ヲ屋根小屋内ニ設クルトキハ火氣及煙氣ノ防禦ヲ充分ニナシ且ツ密閉シ得ベキ戸ヲ取付ケ置クベシ

第十八章　火焚場

1 建物内ノ火焚場ハ耐火性材料ニテ構造スベシ

2 竈下部面積下部及其周圍ハ〇、〇五米以上不燃質材料ニテ床面ヲ構造ス可シ

3 竈ニ不燃性ノ足ヲ取付ケ竈底ト床トノ距離〇、一五米乃至〇、二五米トナストキハ木梁上ヲ板張トナシ得ルト云ヘドモ床上ニ〇、〇五米厚サノ耐火質ノモノヲ厚サ〇、〇〇一米ノ金屬上ニ置キ其周圍ハ竈ヨリ〇、〇五丈ケ大ニナスベシ浴場鐵製窓モ亦之ニ同ジ

4 煖爐等ノ焚口前ハ〇、五〇米其両側面〇、三〇米以上耐火質材料ヲ用ユベシ

5 普通大サノ室内煖爐ナレバ焚口前ニ金屬灰受ヲ置ク丈ケニテ可ナリ

6 竈ト壁ノ隔リ〇、一〇米以内ノ時ハ竈ニ對スル部分ハ竈ヨリ〇、二〇米廣ク耐火材料ヲ以テ覆ノベシ而シテ煉瓦一枚以上ナラヂハ壁内ヘ煙道ヲ設クベカラズ

鐵製竈ヲ用ヒ漆喰塗木製壁又ハ煉瓦石ヲ以テ覆ヒアル木造壁ニ對スル時ハ少ナクトモ〇、四〇米ノ距離ヲ設クベシ

木製壁ニシテ覆ヒ物ナキ時ハ竈ト ノ隔リ〇、八十米以上トナスベシ併シ煖爐ニ耐火性被覆アル時ハ〇、八十米以下ニテ可ナリ

7 大ナルモノ又ハ絶エズ燃焼スル諸竈ハ特ニ之ヲ規定ス

第十九章　煙突へ導ク煙道

1 火焚場ヨリ煙突へ導ク煙道ハ耐火性堅牢ナル管ヲ用ヒ其管ヲ支フルニハ不燃質ノモノヲ以テスベシ

2 煤煙ヲ直接外氣ニ放散スルハ特別ノ場合ノ外之ヲ許サズ

3 木材上ヲ漆喰セシ壁又ハ瓦張セシモノハ〇、四〇米以上單ニ木製壁ノ時ハ〇、八〇米以上ノ距離ヲ煙管ヨリ設クベシ但シ煙管ヲ耐火物ニテ包被スル時ハ此寸法以内ニナスヲ得

4 居住室内ニ設クル煖爐ハ煙道ニ火氣加減鍵ヲ設クルヲ許サズ但シカミン（火見爐）ハ此限リニ非ズ

第二十章　煙突

1 煙突ハ耐火ニシテ堅且密ナル材料ヲ用ヒ地盤ハ初メヨリ煙突設置ノ目的ヲ以テ充分地形スルカ又堅牢ナル土壇上ニ設クベシ

2 煙突内部ハ方形多角形圓形ナルヲ問ハズ各其面積二百五十平方センチヲ有シ其下部ヨリ上端ニ達スル迄終始同等ノ大サトナスベシ又其頂キハ〇、三〇米以上屋背ヨリ突出セシムベシ

3 掃除人ノ昇降シ得ベキ煙突内部ハ方形ニシテ其大サハ端邊〇、四二米長邊〇、四七米ヲ有セシメ之レヨリ大ナル煙突ハ昇降用ノ鐵物ヲ取付クベシ

4 煙道ハ垂直ナルヲ要ス併シ煙道ノ四圍堅固ナル壁ナルカ迫持又ハ鐵梁等ニテ支持スル時ハ屈折ナスヲ得

5 煙突周圍ノ築壁ハ少ナクトモ〇、一二米トナシ隣家ヘ對シテハ〇、二五米以上ノ壁厚トナスベシ

6 センチル煖房又ハ大ナル煙突ハ周壁ヲ

厚クスベク規定セラル

7 相互接スル煙突ニシテ以上記載セシ厚サヲ有スル時ハ仕切壁ヲ設ケ共用スルヲ得

8 煉瓦石ノ如キ累築セシ煙突ノ屋根面以下ニアル部分ハ漆喰塗ナラシ殊ニ木材ニ接スル部分ハ注意ヲナシ且煙道内部ハ平滑ニ塗ルヲ要ス

9 煙突周圍壁厚二十五センチ以下ナル時ハ木材トノ間隔六センチ半以上ニナシ且ツ其間ニ屋根瓦ヲ二重ニ取付ケ危險ニ備フベシ屋根ニ接セル部分ハ十二センチ以上トス煙突圍壁厚サ大ナルモ此等遮熱設備ナキ時ハ煙突圍壁厚サ大ナルモ十センチ以上木材ト距離ヲ設クベシ

10 熱ヲ導キ易キ材料ニテ煙突ヲ造ルトキハ煉瓦石等ニテ圍繞シ（木材ニ接スル時ハ前記ノ規定ニヨル）而シテ他ノ構造物ト〇、一米突ノ距離ヲ隔ツベシ

11 建物ヨリ離レ煙突ヲ設クルカ又煙突上ヘ繼足ヲナス場合ニアリテハ不瓦導体ヲ以テ掩護セズシテ其儘取付クルヲ得

屋根小屋ニ天井ヲ設ケズ小屋組ヲ顯ハシ此建物内ヘ煙突ヲ設クル時ハ屋根トノ接近部適當ノ備ヘヲナス丈ケニテ築設スルヲ得ト雖モ該室内ニテ作業スルヲ許サズ

12 何種ノ煙突ヲ問ハズ掃除ヲナシ得ル様規定ニヨリ設備スベシ

13 下孔ヨリ掃除ノ爲昇リ得ル煙突ハ扉ヲ設ケ然ラザルモノハ下部板上部ヘ孔口ヲ設ケ又煙道角度六十度（水平ヨリ測リ）ヨリ小ナル時ハ長方形ノ大孔口ヲ設ケ掃除ヲ容易ナラシムベシ

14 煙突掃除孔ハ密閉シ得ル鐵戸ヲ設クベシ但シ引戸トナスヲ得ズ

15 煙突上部ニハ裝飾其他ノ設備ヲナスヲ得ルト雖モ何等掃除ノ妨ゲトナルモノヲ取付クルコトヲ許サズ

煙突筒内法横斷面積二百五十平方珊知ノ時ハ室内煖爐ノ烟筒三箇ヲ收容スルヲ最大數トス一箇ヲ加フル毎ニ八十珊知平方ノ横斷面積ヲ增加スベシ

厨房用煖爐ニシテ烟管ノ取放シ出來ザルモノハ獨立ノ烟突ヲ設クベシ

第十八章記載ノ大焚場ノ火口及煙筒トモ上記以上ノ大サトナスベシ

煙突ハ火花、煤等ノ爲其建物及近傍ヲ害セザル様構造シ且ツ使用ヲモ注意スベシ

厨房及洗濯場ハ各筒煙突ノ外水蒸氣ヲ散逸セシムル管ヲ設備スベシ其面積ハ一乃至二ノ厨房ニ對シ横斷面積二百五十平方珊知トシ一厨房ヲ加フル毎ニ五十珊知平方ヲ增加スベシ

其他壁中ヘ設クル筒ハ前記ノ規定ニ準ス

第二十一章 塵芥及灰入器

一家家政上及工業上塵芥及灰等一時的收容器ハ底面又側部トモ流動体ノ浸出セザル様ニ作製シ且ツ蓋ハ密閉ア シ得ル様ナスベシ

灰溜ハ總テ不燃質ノ材料ニテ作製スベシ農事用及積木職ノモノハ灰溜ヲ除ク外此限リニ非ズ

第二十二章 取入レ排除管

取入レ又ハ排除管ハ家屋ノ内外ヲ論セズ流動体ノ外部ヘ浸出セズ且ハ耐火性ノモノヲ用ユベシ

惡臭ヲ放ツ可キ不潔物ハ排氣管ヲ設ケ屋上ニ放散スベシ

溝渠及水道及瓦斯管ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三章　給水

普通水道ヲ以テ給水セル建築地ハ個人ニテ水道ヲ設クルカ又井戸ヲ穿チ四季健康ニ適スル飲料水ナラザルベカラズ

第二十四章　排水

雨水及日々排出スル家事上ノ汚水ハ流動物ノ浸出セザル管等ニテ下水渠又ハ道路下水溝ヘ誘導スベシ家事上ノ汚水ハ一度溜場ニ注キ而シテ之ヲ道路下水溝ヘ注入セシムベシ溜リ場流出口ヘ篩網ヲ設ケ尚ホ流水堰キ止蓋ヲ設ケ置カザル可カラズ而シテ溜場ノ周壁ハ水ノ浸出セザル様構造スベシ

地中下水工事ハ其特別規定ニ準ズベシ

第二十五章　浴室及便所

浴室及便所ハ光線及空氣ヲ直接外部ヨリ又ハ天井ヨリ導クベシ但シ採光坑ノ内部又ハ其底部ニ當リ之ヲ設クルヲ得ズト云ヘ𪜈該條令發布以前ノ建築ニシテ浴室又ハ便所ヲ新設セントシ喚氣充分ナル場合ハ例外トス

便ノ面積ハ一平方米突其巾八十珊知ヲ最狭トス

注水排除便所ノ詳細ハ別ニ之ヲ規定ス

一定時ニ排泄物ヲ取去便所ハ密閉シ得ル桶ニシテ流動体ノ浸出セザル容器ニシテ且ツ引キ出シ車付キナラザル可カラズ而シテ容器ヲ置ク四圍ハ密鎖ナシ床ハ平面ニシテ耐火性ナラザル可カラズ單ニ堀穴ヲナシ之ヲ使用スルヲ禁ズ

農業的使用ノモノハ此ノ限リニ非ズ

廣告目次

イ、池谷木材店　(前)二
ハ、原安商會　裏表紙表
ニ、日本コルク株式會社　一八
日本石綿盤株式會社　三一
ホ、ホーン株式會社大阪支店　三四
ヘ、米國貿易會社　三〇
ト、東松工作所　三二
東京電氣株式會社　(前)一
オ、大阪鐵筋混凝土工務所　二六
大阪援房商會　三五
大阪窯業株式會社　二八
大野式特許品營業所　二一
ヨ、横河橋梁製作所　一六
タ、高石商會　一五
高田商會　裏表紙裏
ナ、土木建築内外材料合資會社　一九
ム、村井工業所　一三
ウ、宇野澤組ステインド硝子製作所　三三
ノ、野澤幸三郎　二六
ヤ、山本窯業商店　三三
マ、松尾和助商店　三六
ケ、建築事務所案内　一一
建築請負業者案内　九―一三
コ、コルク工業合資會社　二五
エ、榮進社　一七
ア、淺野スレート株式會社　二〇
淺海商店　二二
キ、銀座建築用品店　一四
共同建材製作所　二九
メ、明正社　二三
モ、木材石材商案内　一二
ミツワ電氣株式會社　(前)二
ス、須賀商會　二四
巣鴨製作所　二七